

第1回小金井市まち・ひと・しごと創生総合戦略等推進委員会次第

令和元年7月1日（月）18時30分～

本庁舎3階 第一会議室

- 1 新規委員について
- 2 事務局紹介について
- 3 開催スケジュール（案）について
- 4 新たな計画策定に向けた意見について（意見書の最終確認）
- 5 「小金井市まち・ひと・しごと総合戦略」施策の効果検証について
- 6 次回の開催日について

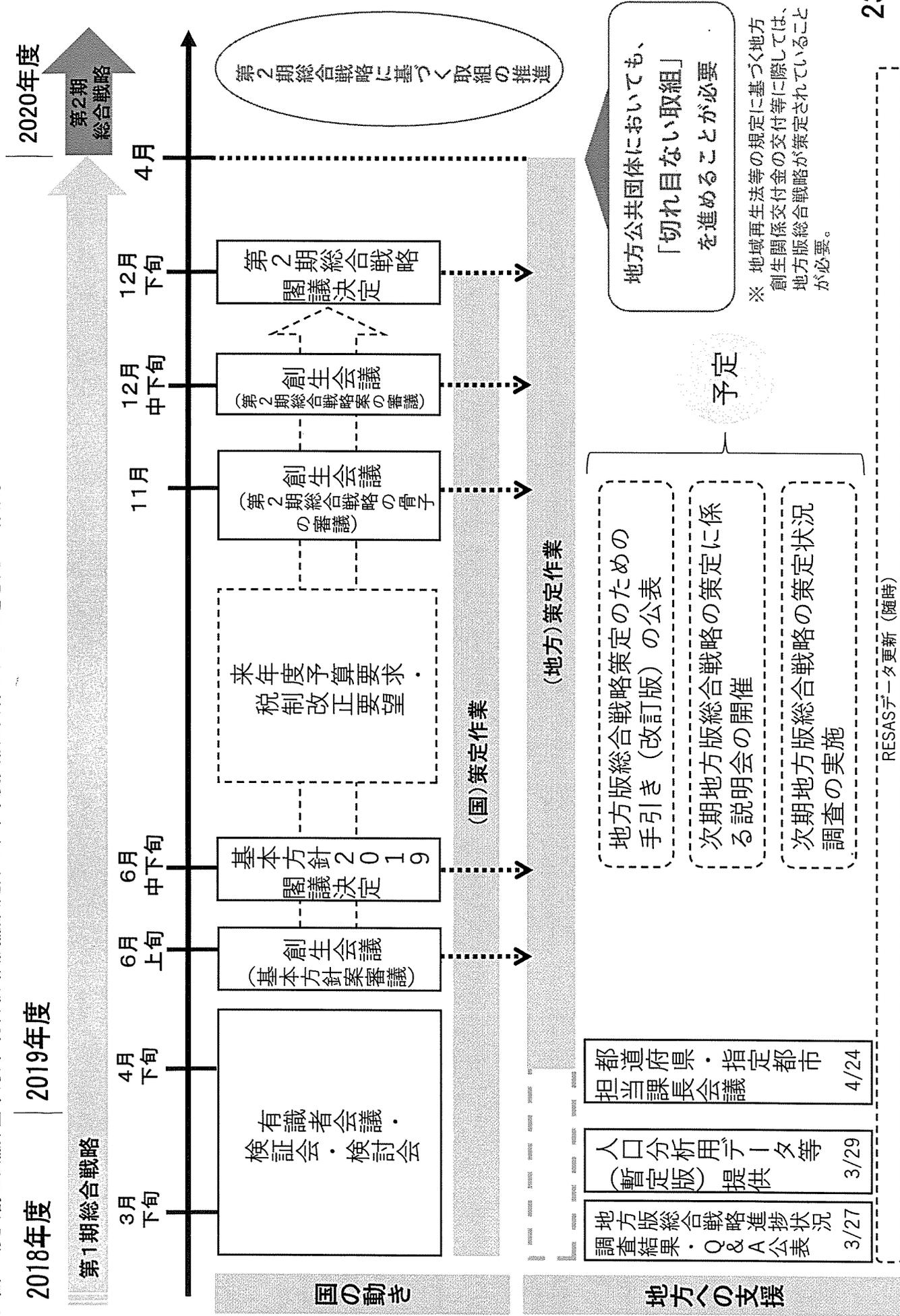
小金井市まち・ひと・しごと創生総合戦略等推進委員会

配 付 資 料 一 覧

|               | No. | 資 料 名                            | 備 考                               |  |
|---------------|-----|----------------------------------|-----------------------------------|--|
| 第1回<br>(7月1日) | 1   | 第2期「総合戦略」の策定スケジュール(案)            |                                   |  |
|               | 1-2 | まち・ひと・しごと創生基本方針2019について          |                                   |  |
|               | 2   | 開催スケジュール(案)                      |                                   |  |
|               | 3   | 長期総合計画及びまち・ひと・しごと創生総合戦略について      |                                   |  |
|               | 4   | 新たな計画策定に向けた意見について(最終確認)          |                                   |  |
|               | 5   | 小金井市の人口分析                        |                                   |  |
|               | 6   | 小金井市まち・ひと・しごと創生総合戦略数値目標の達成状況について |                                   |  |
|               | 7   | まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価シート            |                                   |  |
|               | 8   | 意見・提案シート                         |                                   |  |
|               |     |                                  |                                   |  |
|               | その他 |                                  | 小金井市まち・ひと・しごと創生総合戦略等推進委員会<br>委員名簿 |  |
|               |     |                                  |                                   |  |

# 第2期「総合戦略」の策定スケジュール(案)

※ 国の動き(創生会議、基本方針・総合戦略(閣議決定))は、昨年度実績と同様となることを想定して作成。



今こそ  
地方  
創生!

資料 2

## 次期「地方版総合戦略」の策定に向けて

---

2019年4月24日

内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局  
内閣府地方創生推進事務局

参事官 島田 勝則

まち・ひと・しごと創生基本方針2019について

（令和元年6月21日）  
閣 議 決 定

まち・ひと・しごと創生基本方針2019を別紙のとおり定める。

(別紙)

## まち・ひと・しごと創生基本方針 2019

# まち・ひと・しごと創生基本方針 2019

## (目次)

|  |    |
|--|----|
| I. 第1期における地方創生の現状等                       | 1  |
| 1. 第1期の地方創生の取組                           | 1  |
| 2. 地方創生をめぐる現状認識                          | 1  |
| (1) 人口減少・少子高齢化                           | 1  |
| (2) 東京一極集中の継続                            | 2  |
| (3) 地域経済の現状                              | 2  |
| 3. 地方創生に関連する将来の見通し                       | 3  |
| II. 第2期に向けての基本的な考え方                      | 5  |
| 1. 全体の枠組                                 | 5  |
| 2. 検証を踏まえた検討の方向性                         | 5  |
| (1) 4つの基本目標                              | 5  |
| (2) 「まち」「ひと」「しごと」の好循環                    | 6  |
| (3) 5つの政策原則                              | 6  |
| (4) 情報支援・人材支援・財政支援（「地方創生版・三本の矢」）         | 7  |
| 3. 第2期における新たな視点                          | 7  |
| (1) 地方へのひと・資金の流れを強化する                    | 7  |
| (2) 新しい時代の流れを力にする                        | 8  |
| (3) 人材を育て活かす                             | 8  |
| (4) 民間と協働する                              | 8  |
| (5) 誰もが活躍できる地域社会をつくる                     | 9  |
| (6) 地域経営の視点で取り組む                         | 9  |
| III. 各分野の当面の主要な取組                        | 10 |
| 1. 地方にしごとをつくり安心して働けるようにする、これを支える人材を育て活かす | 10 |
| (1) 「地域人材支援戦略パッケージ」等による人材の地域展開           | 10 |
| (2) 新たなビジネスモデルの構築等による地域経済の発展             | 10 |
| (3) 「海外から稼ぐ」地方創生                         | 10 |
| (4) 地方創生を担う組織との協働                        | 11 |
| (5) 高等学校・大学等における人材育成                     | 11 |
| 2. 地方への新しいひとの流れをつくる                      | 11 |
| (1) 地方への企業の本社機能移転の強化                     | 11 |
| (2) 企業版ふるさと納税の活用促進による民間資金の地方還流           | 12 |

|  |    |
|--|----|
| (3) 政府関係機関の地方移転 .....                            | 12 |
| (4) 「関係人口」の創出・拡大 .....                           | 12 |
| (5) 地方公共団体への民間人材派遣 .....                         | 12 |
| (6) 地方の暮らしの情報発信の強化 .....                         | 13 |
| 3. 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる、誰もが活躍できる地域社会をつくる ..... | 13 |
| (1) 個々人の希望をかなえる少子化対策 .....                       | 13 |
| (2) 女性、高齢者、障害者、外国人等が共生するまちづくり .....              | 13 |
| 4. 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する .....   | 14 |
| (1) 交流を支え、生み出す地域づくり .....                        | 14 |
| (2) マネジメントによる高付加価値化 .....                        | 14 |
| (3) Society5.0の実現に向けた技術の活用 .....                 | 15 |
| (4) スポーツ・健康まちづくりの推進 .....                        | 15 |
| 5. 連携施策等 .....                                   | 16 |
| (1) 地方創生に向けた国家戦略特区制度等の推進 .....                   | 16 |
| (2) 規制改革、地方分権改革との連携 .....                        | 16 |
| (3) 東日本大震災の被災地域における地方創生の加速化 .....                | 16 |
| (4) 国土強靱化等との連携 .....                             | 16 |
| IV. 国と地方の総合戦略の策定等について .....                      | 18 |
| V. 各分野の施策の推進 .....                               | 19 |
| 1. 地方にしごとをつくり安心して働けるようにする、これを支える人材を育て活かす .....   | 19 |
| (1) 強靱な地域経済社会システムの確立と地域への人材展開の強化 .....           | 19 |
| (2) 新しい産業の創出と社会的課題に対応する地域経済社会システムの構築 .....       | 21 |
| (3) 「海外から稼ぐ」地方創生 .....                           | 24 |
| (4) 観光地域づくり・ブランディング等の推進 .....                    | 25 |
| (5) 地方創生を担う人材・組織の育成 .....                        | 27 |
| (6) 高等学校等における人材育成 .....                          | 28 |
| 2. 地方への新しいひとの流れをつくる .....                        | 29 |
| (1) 地方への企業の本社機能移転の強化 .....                       | 29 |
| (2) 政府関係機関の地方移転 .....                            | 30 |
| (3) キラリと光る地方大学づくり等による地域における若者の修学・就業の促進 .....     | 31 |
| (4) 地方移住の推進 .....                                | 32 |
| (5) 「関係人口」の創出・拡大 .....                           | 32 |
| (6) 子供の農山漁村体験の充実 .....                           | 33 |
| (7) 地域おこし協力隊の拡充 .....                            | 34 |
| (8) 地方生活の魅力等の情報発信 .....                          | 35 |

|  |    |
|--|----|
| 3. 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる、誰もが活躍できる地域社会をつくる | 36 |
| (1) 個々人の希望をかなえる少子化対策                       | 36 |
| (2) 全世代・全員活躍まちづくりー「生涯活躍のまち」の更なる推進等ー        | 37 |
| (3) 地域共生社会の実現                              | 39 |
| (4) 官民連携による女性・高齢者等の新規就業促進                  | 40 |
| (5) 多文化共生の地域づくり                            | 41 |
| 4. 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する   | 42 |
| (1) 地方創生 SDGs の実現などの持続可能なまちづくり             | 42 |
| (2) Society5.0 の実現に向けた技術の活用                | 43 |
| (3) 居心地が良く歩きたくなるまちなかづくり等の推進                | 47 |
| (4) コンパクト・プラス・ネットワークの本格的推進等                | 49 |
| (5) まちづくりにおける地域連携の推進                       | 51 |
| (6) 更なる民間投資の喚起による都市再生の推進                   | 51 |
| (7) 地域交通を取り巻く課題への対応                        | 52 |
| (8) 集落生活圏維持のための「小さな拠点」及び地域運営組織の形成          | 53 |
| (9) スポーツ・健康まちづくり                           | 54 |
| 5. 国家戦略特区制度等との連携                           | 56 |
| (1) 「スーパーシティ」構想の早期実現                       | 56 |
| (2) 国家戦略特区の推進                              | 56 |
| (3) 総合特区の推進                                | 57 |
| VI. 地方創生に向けた多様な支援（「地方創生版・三本の矢」）            | 58 |
| 1. 情報支援                                    | 58 |
| (1) 地域経済分析システム（RESAS）                      | 58 |
| (2) 都市再生の見える化（i-都市再生）                      | 58 |
| 2. 人材支援                                    | 58 |
| (1) 地方創生人材支援制度                             | 58 |
| (2) 地方創生コンシェルジュ                            | 59 |
| (3) 地方創生カレッジ                               | 59 |
| 3. 財政支援                                    | 59 |
| (1) 地方創生関係交付金                              | 59 |
| (2) 地方財政措置                                 | 60 |
| (3) 税制                                     | 60 |

## IV. 国と地方の総合戦略の策定等について

本年は、第1期「総合戦略」における最終年であり、地方創生の実現にとって、極めて重要な1年である。

国は、第1期「総合戦略」の成果と課題を検証し、総仕上げに取り組むとともに、第2期に向けた検討を行い、年内に、「長期ビジョン」について必要な改訂を行うとともに、第2期「総合戦略」を策定する。

「長期ビジョン」については、現在の人口等の見通しが第1期の当初時点における推計と大きく乖<sup>かい</sup>離していないことや、外国人については長期にわたる出入国の状況を見通すことが困難であることを踏まえ、時点修正など必要な検討を行う。「地方人口ビジョン」については、中長期的には人口の自然増が重要であるという観点を重視しつつ、最新の数値や状況の変化を踏まえた上で必要な見直しを検討することが求められる。

また、第2期「総合戦略」については、第1期「総合戦略」の検証等を踏まえて、地方・東京圏の転出入均衡をはじめとする基本目標、各施策のKPIの設定について引き続き検討を行い、適切なKPIの設定に努めるとともに、これに基づき定期的に検討を行うことにより、より効果的・効率的な地方創生の実現を追求することが必要である。

地方においても、国の「総合戦略」を勘案し、地方創生の充実・強化に向け、切れ目ない取組を進めることが求められることから、各地方公共団体においては、現行の「地方版総合戦略」を検証し、次期「地方版総合戦略」の策定を進める必要がある。その策定に当たっては、各地方公共団体自らが責任を持って社会・経済状況の変化を捉え地域の将来像を考える観点から、幅広い年齢層の住民をはじめ、産官学金労言士などの多様な主体の参画を得るなど、各々の地域の特性に応じた検討プロセスを経ることも重要である。また、策定に当たっては、経済圏域における取組なども視野に入れ、行政区域を越えた広域的な連携を考慮する必要がある。

国は、地方公共団体における次期「地方版総合戦略」の策定や「地方人口ビジョン」の改訂に資するよう、国における「長期ビジョン」や第2期「総合戦略」の検討状況に関する情報提供を行うなど、必要な支援を行うこととする。

開催スケジュール（案）

|     | 日 程         | 内 容  |
|-----|-------------|--|
| 第1回 | 7月          | 1 新たな計画策定に向けた意見について（最終確認）                  |
|     |             | 2 「小金井市まち・ひと・しごと総合戦略」施策の効果検証について           |
| 第2回 | 10月         | 1 「小金井市まち・ひと・しごと総合戦略」施策の効果検証について（評価シート追加分） |
|     |             | 2 第2期総合戦略について（目標年度延伸に伴うK P I指標の検証等）        |
| 第3回 | 令和2年<br>1月頃 | 1 第2期総合戦略について（目標年度延伸に伴うK P I指標の検証等）        |

長期総合計画及びまち・ひと・しごと創生総合戦略について

1 本市における計画

(1) 現在

ア 第4次基本構想・後期基本計画：平成28年度から令和2年度（平成32年度）までの5か年計画

イ まち・ひと・しごと創生総合戦略：平成27年度から令和元年度（平成31年度）までの5か年計画

(2) 2つの計画の統合

現在の小金井市まち・ひと・しごと創生総合戦略（令和元年度（平成31年度）まで）を1年延伸し、令和2年度（平成32年度）までの計画とした上で第5次基本構想・前期基本計画との統合を目指す。

|                 |        |    |    |    |    |      |    |    |    |    |
|-----------------|--------|----|----|----|----|------|----|----|----|----|
| 年度（平成）          | 27     | 28 | 29 | 30 | 31 | 32   | 33 | 34 | 35 | 36 |
| 年度（令和）          | /      | /  | /  | /  | 1  | 2    | 3  | 4  | 5  | 6  |
| 基本計画            | ← 現在 → |    |    |    |    | → 統合 |    |    |    |    |
| まち・ひと・しごと創生総合戦略 | ← 現在 → |    |    |    |    | 延伸   |    |    |    |    |

2 まち・ひと・しごと創生総合戦略のみに設定されている指標

2 住居専用地域の割合

1 2 休日の9時から17時までににおける市内の滞在人口

1 9 冒険遊び場開催回数

2 1 大学との学習支援に関する協働研究連携協力校数

2 3 しごとづくりに関する相談件数

2 5 男性職員の育児休業取得率

2 6 住居専用地域の割合（2の再掲）

3 7 ボランティアセミナー参加者数

年 月 日

小金井市長期計画審議会

会 長 ○○ ○○ 様

小金井市まち・ひと・しごと  
創生総合戦略等推進委員会

委員長 渡邊 嘉二郎

### 新たな計画策定に向けた意見書（案）

標記の件について、「小金井市まち・ひと・しごと創生総合戦略」と「第5次小金井市基本構想・前期基本計画」を統合した新たな計画の策定に向け、本委員会として下記のとおり意見を申し添えます。

#### 記

- 1 現状を分析し、今後の環境変化をできるだけ正確に予測した上で未来の小金井市の姿をイメージし、激動するであろう未来に対応できる計画を策定すること。  
なお、本委員会では「目指すべき小金井市のイメージ」についてワークショップを行い、「自然、環境」、「教育、学び、思索、生涯を通じた学び」、「安全、安心」、「AI、IT」、「行政」、「活気、にぎわい、明るさ、いきいきしている」の6つのグループにまとめたので、参考資料として添付します。
- 2 計画の策定においては協働の理念に基づき、市民参加の様々な手法を取り入れ、まちの実態をつかみ、計画実施に当たり市民と協働しやすくなるようにすること。
- 3 計画の策定に当たり、「参加\*」、「協働\*」、「共生\*」、「連携」、「愛着」及び「信頼」などの考え方を小金井市の特性に合わせて検討すること。なお、本委員会の議論の中で各キーワードが出た際の意見を紹介します。

#### (1) 参加

次期計画策定においては、行政が市民参加や市民団体ヒアリングなどの手法を積極的に取り入れ、市民が参加していくような格好で進めていただきたい。

### その他の委員意見

小金井さくら体操はお金がほとんどかからず、健康増進につながり、コミュニティにつながるという、それこそ行政負担を市民自ら減らしているという活動である。

### (2) 協働

本市には市内の大学、高校、中学校、小学校、企業などが参加して開催している「青少年の科学の祭典」というすばらしい実践例があるように、行政だけではやれることに限界があることから、様々な場面で市民や企業、大学等の様々な人たちとの協働を実践する計画にしていきたい。

### 参考 小金井市市民参加条例前文

市政の主役は、市民です。市政をどのように運営するかによって、小金井市で生活する市民の暮らしは大きく左右されます。

また、市政に市民がどのようにかかわるかによって、市政運営のあり方は大きく変わってきます。したがって、市民の望むところを市政に積極的にいかしていくことは当然です。

しかし、市民の価値観や要求が多様で、その個性化が著しい今日において、市民の意見や要求を的確かつ迅速に市政に反映させるためには、種々の手段が必要です。そして、その手段は、市民に十分理解されるだけでなく、市民が利用しやすいものでなければなりません。

小金井市では、誰にとっても暮らしやすいまちであることを願い、市民の市政への参加と協働についての手段を制度として具体化し、市民の望む市政が保障できるよう、ここに小金井市市民参加条例を定めます。

### 参考 小金井市市民参加条例第2条

**市民参加** 市の政策立案、実施及びその評価に、広く市民の意見を反映させるとともに、市民と市との協働によるまちづくりを推進することを目的として、市民が市政に参加することをいう。

**協働** 市民及び市が、それぞれの役割と責任に基づき、対等の立場で連携協力して市政を充実させ、又は発展させることをいう。

### (3) 共生

今後、近い将来訪れるであろう人口減少社会を考えると、一人一人が互いに認め合い、みんなが活躍していくような社会であるべきだし、それを目指すべきである。

参考 障害のある人もない人も共に学び共に生きる社会を目指す小金井市条例

共生 差別を解消し、障害者と障害者でない者とは分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら、地域の中で共に手を取り合い安心して暮らすこと

参考 小金井市第5次男女共同参画行動計画

多文化共生 国籍や民族、環境や価値観などの異なる人々が、互いの文化的違いを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員としてともに生きていくこと

### (4) 連携

今後は同種、単一ではなく、異種、多様性のつながりによる相乗効果を期待し、そのような方策を考えていただきたい。庁舎と福社会館、人と団体、地域連携、公民連携など。

参考

小金井市が連携協定を結んでいる大学等やイトーヨーカ堂

### (5) 愛着

小金井市民が住みやすい、住み続けたいと思い、みんなが小金井市に住んでみたいと思えるような方が増えると、町は活性化し、交流人口は増えると思うので、「目指すべき小金井市のイメージ」を参考に小金井市に愛着のある人を増やす方策を考えてほしい。

その他の委員意見

愛着 昔からある小金井の祭りをもう少しクローズアップしたり、守り、発展させることも重要である。

## その他の委員意見

シティプロモーション\* 将来的な人口減少や少子高齢化による影響を考えると、小金井市まち・ひと・しごと創生総合戦略の基本目標1に「小金井の魅力を発信し、交流人口の増加を図ることにより地域の活性化につながるまち」とあるように、市民が住みやすい、住み続けたいと思い、住んでみたいと思われるまちを目指すための方策として、市の魅力を発見、磨き、市の魅力を内外へ発信する必要がある。

また、その際には何が小金井の魅力なのかをもっと深掘りし、そこから明確に発信していくことが大事であり、場合によっては小金井単独ではなく、地域で考えれば近隣市も同じなので、もう少し大きなくくりとして、何か共通すべきいいところは共有し合うみたいなのもいいのではないかと思う。

## (6) 信頼

最近の報道等から、日本人としてのお互いの信頼感、信頼し合って生活できるという足場が崩れているのではないかという意見や人と人とのつながり、温かさみたいなものが30年後の小金井市にあたらいいなという思いから出たもの。

このほか、次のような趣旨の意見もありました。

- ・ AIなどの先端技術が急速に進展する中でも、コンピューターやネットワークを利用できる層とできない層の格差を生じさせないことを目指す取組が欠かせない。
- ・ あるべきまちの姿を考える際には、本市の経済力の弱さをきちんと踏まえる必要がある。
- ・ 国連のSDGs（持続可能な開発目標）には、環境分野、社会分野、経済分野などの指標があり、新たな計画の策定において参考になるのではないか。

- 4 現指標については、計画された策定と連動し、指標及び数値目標を大幅に見直し、改めて指標の体系を検討すること。

\*用語の説明

● 参加（出典：小金井しあわせプランP 2 3 8）

市の政策立案、実施及びその評価に、広く市民の意見を反映させるため、市民が市政に参加すること。

● 協働（出典：小金井しあわせプランP 2 3 6）

市民及び市が、お互いに尊重し理解して、それぞれの役割と責任に基づき、対等の立場で連携協力して、市民生活を充実させること。

● 共生（出典：小金井しあわせプランP 2 3 6）

年齢や障がいの有無等にかかわらず、だれもが支え合い自立して暮らせること。

● シティプロモーション（出典：小金井市まち・ひと・しごと創生総合戦略P 8 3）

地域の魅力を内外に発信し、周知を図ることにより、地域住民においては地域への愛着を育み、市外に住む人における地域に対するイメージを向上させ、交流人口の増加や転入促進を図ろうとするPRの考え方。

## 目指すべき小金井市のイメージ

### 1 自然、環境

- (1) 自然とともに生きるまち
- (2) 自然環境を生かすまち
- (3) 散歩したくなるまち
- (4) みどりあふれる快適で人にやさしいまち

- ・空気がきれい ・水がうまい ・日光が豊か ・静か
- ・はけの道、野川の活用、そのための交通手段 ・ごみゼロのまち
- ・リサイクルが進んだまち ・環境にやさしいまち ・きれいなまち
- ・健康向上を意図した公園の整備をするまち ・土遊びができるまち
- ・目的税を入れ、税金が高くても住みやすい環境が保障されるまち
- ・駅近くに遊び放題の公園があるまち ・太陽光が隅々まで届くまち

### 2 教育、学び、思索、生涯を通じた学び

- (1) 生涯を通じて学び哲学できるまち
- (2) 学び交わりを楽しめるまち
- (3) 豊かな人間性と次世代の夢を育むまち
- (4) 人と人との関わり合い、関わり方、修復の仕方、折り合いの付け方、人間と自然の付き合い方を学べるまち

- ・学園都市小金井 ・教育のまち ・互いに学び合うことが可能なまち
- ・全国から市内の大学に優秀な学生が集まり、地域で活躍し、優れた人材がどんどん出るまち（ノーベル賞など） ・教育環境が充実している
- ・市独自で教員を採用する（少人数学級）まち
- ・生涯学習として学びたいことが生きがいとなり、地域に還元されるまち
- ・小金井大学のような学びの場があるまち
- ・他では教えてくれないことを教えてくれる（学びの選択肢が多い）
- ・静かに調べ物や思索、研究ができる図書館施設を持つまち
- ・老人に「教養」「教育」を提供又は支援するまち

### 3 安全、安心

- (1) 誰もが安心して暮らせる思いやりのあるまち
- (2) 心安らかに住めるまち

- ・元気な高齢者が地域やまちづくりに参加できるまち
- ・狭い道路は一方通行にし、歩道を確保するまち
- ・防災・防犯は奉仕団体による活動ができるまち
- ・治安が良い、犯罪が少ない ・安心して看取れるまち
- ・誰にでも（女性でもシニアでも子どもでも）活躍の場が用意されている
- ・生活する上で必要となる安全性、安心性が享受できるまち（防災、防犯、医療、その他） ・安全・安心なまち、犯罪のないまち
- ・ハンディがあっても安心してまち歩きができるまち。なお、小金井駅周辺を中心に一通整理をするのは喫緊の課題

### 4 A.I、IT

- (1) ハイテクを活かすまち
- (2) ハイテクを使いこなすまち

- ・Society5.0 対応 ・IT環境もよくする
- ・コンビニは何でも買え、市役所の出張所の役割を担うため、コンビニが近くにあると高齢者の利便性がいいので、コンビニの数が測る尺度としては重要
- ・通勤通学のアクセスが整備されたまち

### 5 行政

- (1) 市民のための市役所があるまち
- (2) 効率的な行政を行うまち

- ・職員の仕事の合理化と職場にいない職員
- ・簡素でスリムな市役所
- ・市役所の「何でも相談室」が不安の多くを解消してくれるまち

## 6 活気、にぎわい、明るさ、いきいきしている

- (1) 人々が交わり輝くまち
- (2) 世界初を造るまち
- (3) 良いものに触れ、美味しいものが食べられるまち
- (4) ふれあいと活力のあるまち

- ・ふるさと納税の取組 ・小金井市が全国初で注目を浴びる取組
- ・税金が安い ・小金井でしか買えないものを売る
- ・武蔵野市のまねをしても勝てない ・空き家のないまち
- ・知名度があって集客力のあるイベントがあるまち
- ・子どもが元気なまち ・誰もが元気に活躍できるまち
- ・「いつかは小金井」と言われる、憧れられるまち
- ・高齢者向けの高級マンションのあるまち ・長期の体験活動ができるまち
- ・小金井に住むと三宅島に確実にいけるまち ・外国人が来たいまち
- ・小金井固有の文化が引き継がれているまち ・文化のまち
- ・利便性だけでなく、心の豊かさのあるまち ・介護離職をさせないまち
- ・スポーツイベントなどで子どもが両親と一緒に遊べるまち
- ・一次産業が再度活性化されたまち ・特産物（ルバーブ）のあるまち
- ・おいしい料理を提供する店があるまち ・職住近接の市民が多い
- ・チャレンジする場所やチャレンジする制度などが整備されている
- ・大手チェーン店ではなく、個性的な店がたくさん並んでいる
- ・働く人にサテライトスペースを提供するまち
- ・守りと拡張性の両様を備えたまち
- ・人口が増え、教育も変わり、発展するまち

## 小金井市の人口分析

### 1 日本人のみ

#### (1) 人口の推移（各年4月1日現在）

単位：人

|     | 2009年   | 2010年   | 2011年   | 2012年   | 2013年   | 2014年   | 2015年   | 2016年   | 2017年   | 2018年   | 2019年   | 2009年からの伸び率 | 2015年からの伸び率 |
|-----|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|-------------|-------------|
| 日本人 | 111,321 | 111,820 | 113,275 | 113,726 | 114,404 | 115,096 | 115,645 | 116,138 | 117,162 | 118,033 | 118,829 | 106.7%      | 102.8%      |

#### (2) 年齢3区分の人口の推移（各年4月1日現在。年少人口0～14歳、生産年齢人口15～64歳、老年人口65歳以上。不詳者は除く。）

単位：人

|      | 2009年   | 2010年   | 2011年   | 2012年   | 2013年   | 2014年   | 2015年   | 2016年   | 2017年   | 2018年   | 2019年   | 2009年からの伸び率 | 2015年からの伸び率 |
|------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|-------------|-------------|
| 老年   | 20,799  | 21,177  | 21,337  | 21,854  | 22,690  | 23,408  | 24,038  | 24,469  | 24,929  | 25,282  | 25,672  | 123.4%      | 106.8%      |
| 生産年齢 | 77,070  | 77,165  | 78,180  | 78,086  | 77,897  | 77,748  | 77,661  | 77,689  | 77,968  | 78,425  | 78,600  | 102.0%      | 101.2%      |
| 年少   | 13,451  | 13,477  | 13,757  | 13,786  | 13,817  | 13,940  | 13,946  | 13,980  | 14,265  | 14,326  | 14,557  | 108.2%      | 104.4%      |
| 合計   | 111,320 | 111,819 | 113,274 | 113,726 | 114,404 | 115,096 | 115,645 | 116,138 | 117,162 | 118,033 | 118,829 | 106.7%      | 102.8%      |

### 2 外国人登録人口のみ

#### (1) 人口の推移（各年4月1日現在）

単位：人

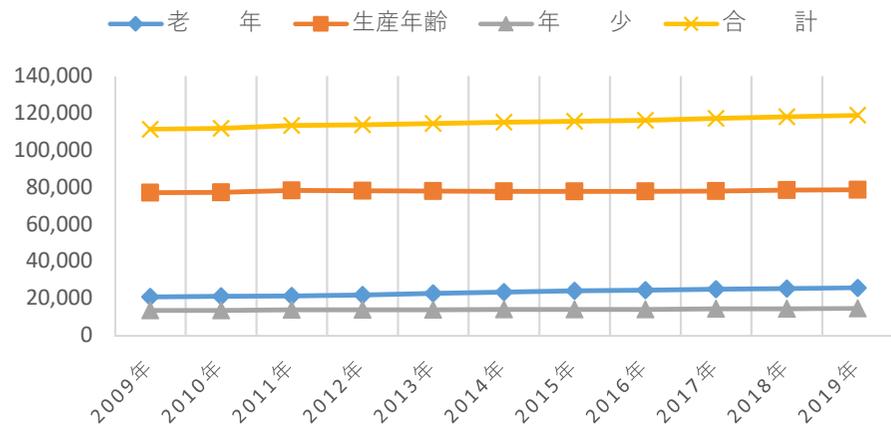
|     | 2009年 | 2010年 | 2011年 | 2012年 | 2013年 | 2014年 | 2015年 | 2016年 | 2017年 | 2018年 | 2019年 | 2009年からの伸び率 | 2015年からの伸び率 |
|-----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------------|-------------|
| 外国人 | 2,405 | 2,431 | 2,350 | 2,245 | 2,041 | 1,983 | 2,026 | 2,208 | 2,436 | 2,585 | 2,800 | 116.4%      | 138.2%      |

#### (2) 年齢3区分の人口の推移（各年4月1日現在。年少人口0～14歳、生産年齢人口15～64歳、老年人口65歳以上。不詳者は除く。）

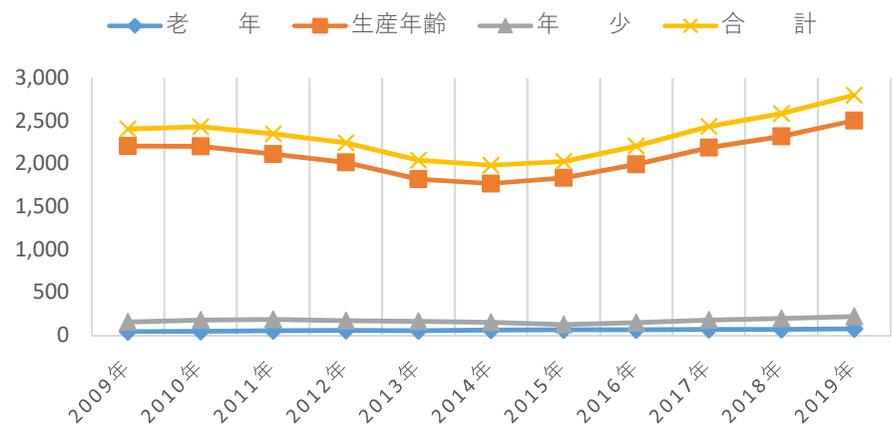
単位：人

|      | 2009年 | 2010年 | 2011年 | 2012年 | 2013年 | 2014年 | 2015年 | 2016年 | 2017年 | 2018年 | 2019年 | 2009年からの伸び率 | 2015年からの伸び率 |
|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------------|-------------|
| 老年   | 45    | 48    | 53    | 57    | 55    | 62    | 64    | 67    | 68    | 68    | 77    | 171.1%      | 120.3%      |
| 生産年齢 | 2,206 | 2,203 | 2,113 | 2,016 | 1,821 | 1,769 | 1,836 | 1,993 | 2,188 | 2,320 | 2,504 | 113.5%      | 136.4%      |
| 年少   | 154   | 180   | 184   | 172   | 165   | 152   | 126   | 148   | 180   | 197   | 219   | 142.2%      | 173.8%      |
| 合計   | 2,405 | 2,431 | 2,350 | 2,245 | 2,041 | 1,983 | 2,026 | 2,208 | 2,436 | 2,585 | 2,800 | 116.4%      | 138.2%      |

### 日本人のみ



### 外国人登録人口のみ



### 3 日本人+外国人登録人口

(1) 町別人口の推移 (各年4月1日現在)

単位：人

|      | 2009年   | 2010年   | 2011年   | 2012年   | 2013年   | 2014年   | 2015年   | 2016年   | 2017年   | 2018年   | 2019年   | 2009年からの伸び率 | 2015年からの伸び率 |
|------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|-------------|-------------|
| 東町   | 15,491  | 15,470  | 15,373  | 15,299  | 15,310  | 15,494  | 15,624  | 15,757  | 15,876  | 16,099  | 16,389  | 105.8%      | 104.9%      |
| 梶野町  | 9,594   | 9,485   | 9,381   | 9,499   | 9,578   | 9,599   | 9,632   | 9,750   | 10,255  | 10,338  | 10,522  | 109.7%      | 109.2%      |
| 関野町  | 1,211   | 1,200   | 1,234   | 1,227   | 1,209   | 1,216   | 1,205   | 1,218   | 1,178   | 1,215   | 1,212   | 100.1%      | 100.6%      |
| 緑町   | 15,437  | 15,388  | 15,364  | 15,474  | 15,626  | 15,453  | 15,539  | 15,681  | 16,024  | 16,211  | 16,383  | 106.1%      | 105.4%      |
| 中町   | 12,010  | 12,054  | 12,097  | 12,162  | 12,190  | 12,240  | 12,284  | 12,311  | 12,273  | 12,325  | 12,311  | 102.5%      | 100.2%      |
| 前原町  | 14,249  | 14,282  | 14,318  | 14,362  | 14,481  | 14,521  | 14,576  | 14,597  | 14,691  | 14,718  | 14,793  | 103.8%      | 101.5%      |
| 本町   | 19,727  | 19,947  | 19,754  | 19,845  | 19,847  | 20,056  | 20,217  | 20,209  | 20,182  | 20,292  | 20,210  | 102.4%      | 100.0%      |
| 桜町   | 4,227   | 4,232   | 4,198   | 4,297   | 4,273   | 4,301   | 4,271   | 4,274   | 4,476   | 4,511   | 4,556   | 107.8%      | 106.7%      |
| 貫井北町 | 9,149   | 9,419   | 11,235  | 11,238  | 11,273  | 11,385  | 11,407  | 11,449  | 11,398  | 11,628  | 11,938  | 130.5%      | 104.7%      |
| 貫井南町 | 12,631  | 12,774  | 12,671  | 12,568  | 12,658  | 12,814  | 12,916  | 13,100  | 13,245  | 13,281  | 13,315  | 105.4%      | 103.1%      |
| 合計   | 113,726 | 114,251 | 115,625 | 115,971 | 116,445 | 117,079 | 117,671 | 118,346 | 119,598 | 120,618 | 121,629 | 106.9%      | 103.4%      |

公務員宿舎建設により  
2,000人規模で人口増

(2) 地区別人口の推移（各年4月1日現在。小金井市都市計画マスタープランによる。）

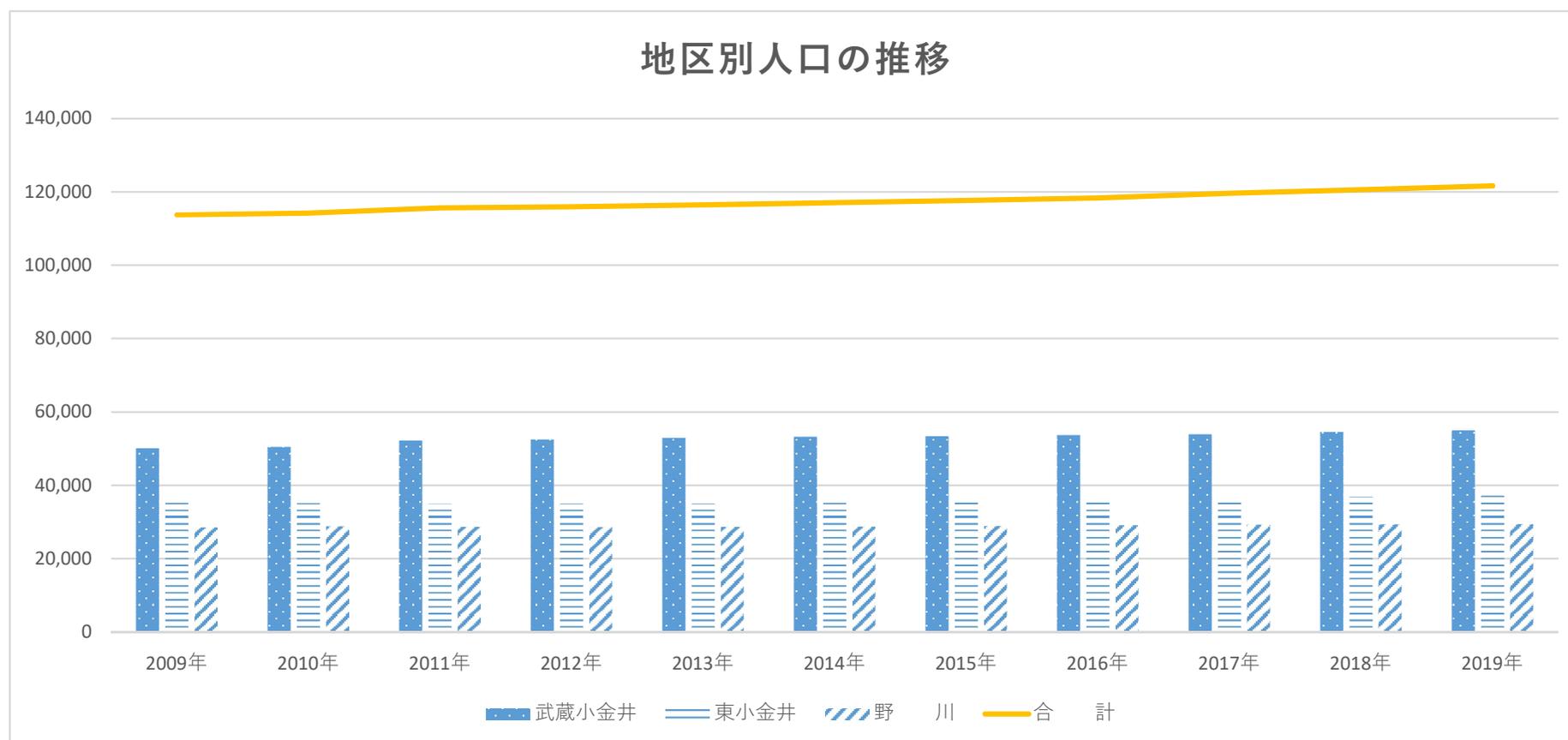
単位：人

|       | 2009年   | 2010年   | 2011年   | 2012年   | 2013年   | 2014年   | 2015年   | 2016年   | 2017年   | 2018年   | 2019年   | 2009年からの伸び率 | 2015年からの伸び率 |
|-------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|-------------|-------------|
| 武蔵小金井 | 50,035  | 50,417  | 52,145  | 52,486  | 52,870  | 53,210  | 53,391  | 53,659  | 53,894  | 54,450  | 54,936  | 109.8%      | 102.9%      |
| 東小金井  | 35,198  | 35,072  | 34,866  | 34,932  | 34,963  | 35,139  | 35,398  | 35,702  | 36,481  | 36,854  | 37,289  | 105.9%      | 105.3%      |
| 野川    | 28,493  | 28,762  | 28,614  | 28,553  | 28,612  | 28,730  | 28,882  | 28,985  | 29,223  | 29,314  | 29,404  | 103.2%      | 101.8%      |
| 合計    | 113,726 | 114,251 | 115,625 | 115,971 | 116,445 | 117,079 | 117,671 | 118,346 | 119,598 | 120,618 | 121,629 | 106.9%      | 103.4%      |

武蔵小金井地区：関野町2丁目、緑町3～5丁目、中町3丁目、本町、桜町、貫井北町、貫井南町3丁目

東小金井地区：東町、梶野町、関野町1丁目、緑町1～2丁目、中町2丁目

野川地区：中町1、4丁目、前原町、貫井南町1、2、4、5丁目



(3) 小金井市人口ビジョン（平成28年3月策定との比較）

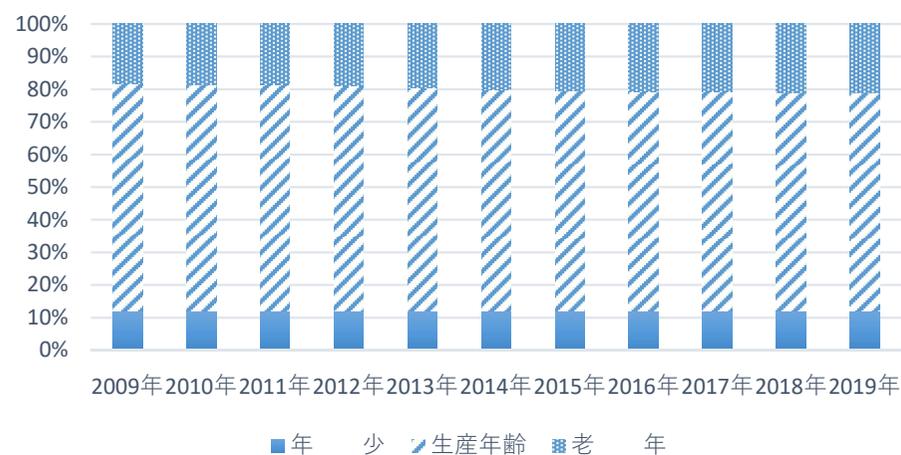
|      | 2016年   |         |     | 2017年   |         |     | 2018年   |         |       | 2019年   |         |       |
|------|---------|---------|-----|---------|---------|-----|---------|---------|-------|---------|---------|-------|
|      | ①推計     | ②実績     | ②-① | ①推計     | ②実績     | ②-① | ①推計     | ②実績     | ②-①   | ①推計     | ②実績     | ②-①   |
| 老年   | 24,500  | 24,536  | 36  | 24,904  | 24,997  | 93  | 25,188  | 25,350  | 162   | 25,453  | 25,749  | 296   |
| 生産年齢 | 79,665  | 79,682  | 17  | 79,669  | 80,156  | 487 | 79,814  | 80,745  | 931   | 79,879  | 81,104  | 1,225 |
| 年少   | 14,020  | 14,128  | 108 | 14,067  | 14,445  | 378 | 14,021  | 14,523  | 502   | 14,020  | 14,776  | 756   |
| 合計   | 118,185 | 118,346 | 161 | 118,640 | 119,598 | 958 | 119,023 | 120,618 | 1,595 | 119,352 | 121,629 | 2,277 |

(4) 年齢3区分の人口の推移（各年4月1日現在。年少人口0～14歳、生産年齢人口15～64歳、老年人口65歳以上。不詳者は除く。）

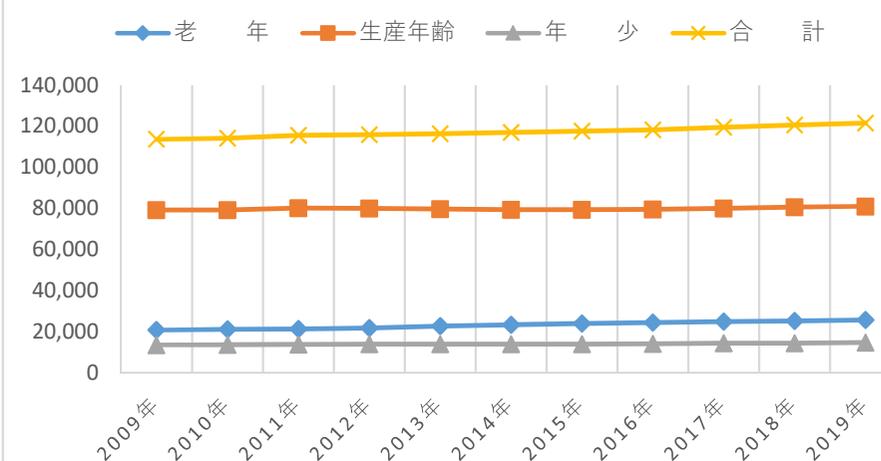
単位：人

|      | 2009年   | 2010年   | 2011年   | 2012年   | 2013年   | 2014年   | 2015年   | 2016年   | 2017年   | 2018年   | 2019年   | 2009年からの伸び率 | 2015年からの伸び率 |
|------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|-------------|-------------|
|      | 老年      | 20,844  | 21,225  | 21,390  | 21,911  | 22,745  | 23,470  | 24,102  | 24,536  | 24,997  | 25,350  | 25,749      | 123.5%      |
| 生産年齢 | 79,276  | 79,368  | 80,293  | 80,102  | 79,718  | 79,517  | 79,497  | 79,682  | 80,156  | 80,745  | 81,104  | 115.5%      | 115.5%      |
| 年少   | 13,605  | 13,657  | 13,941  | 13,958  | 13,982  | 14,092  | 14,072  | 14,128  | 14,445  | 14,523  | 14,776  | 108.6%      | 105.0%      |
| 合計   | 113,725 | 114,250 | 115,624 | 115,971 | 116,445 | 117,079 | 117,671 | 118,346 | 119,598 | 120,618 | 121,629 | 107.0%      | 103.4%      |

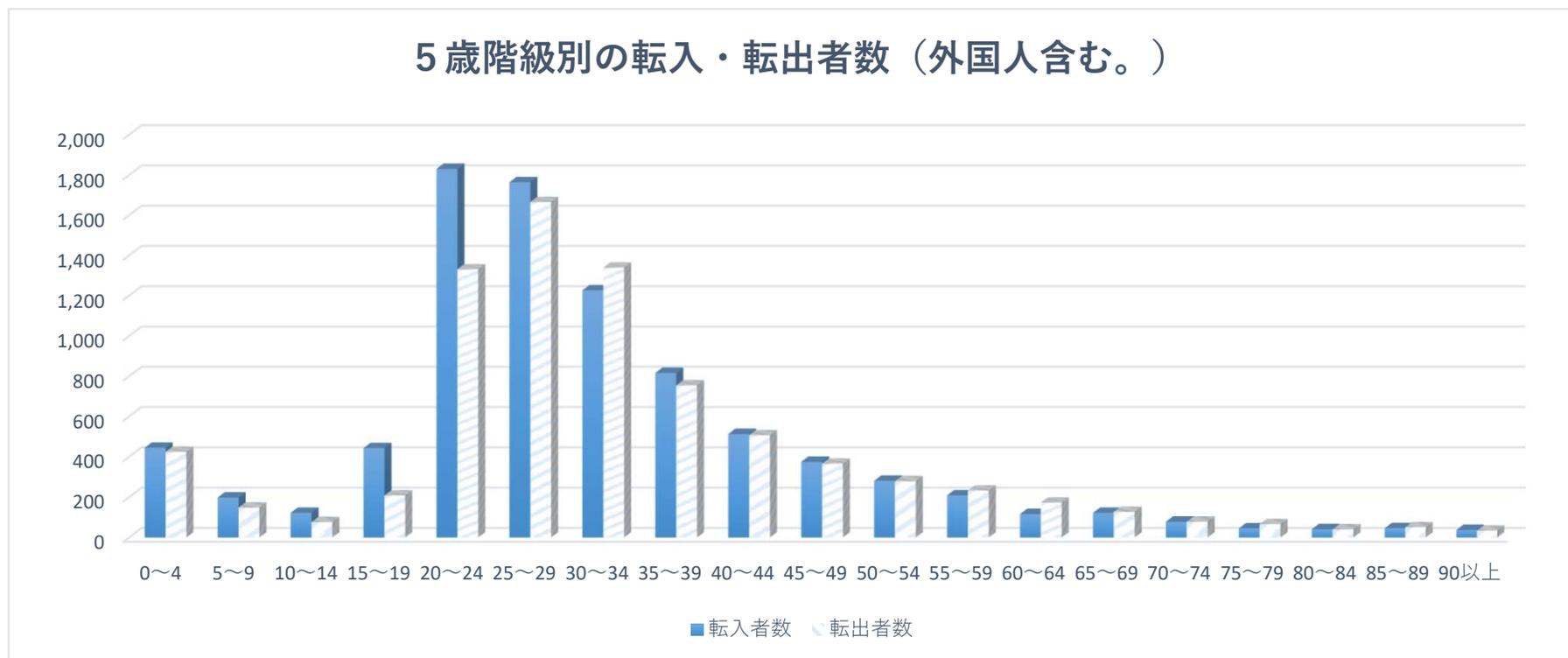
年齢3区分別の人口構成割合の推移



日本人+外国人登録人口



4 平成30年5歳階級別の転入・転出数（外国人含む。）（出典：住民基本台帳人口移動報告）

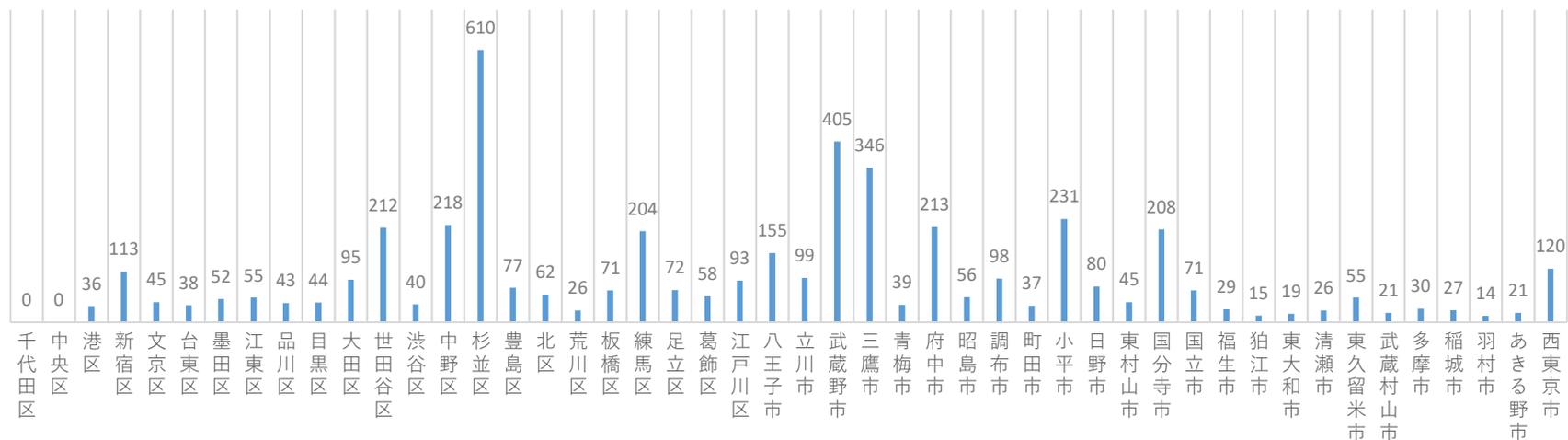


単位：人

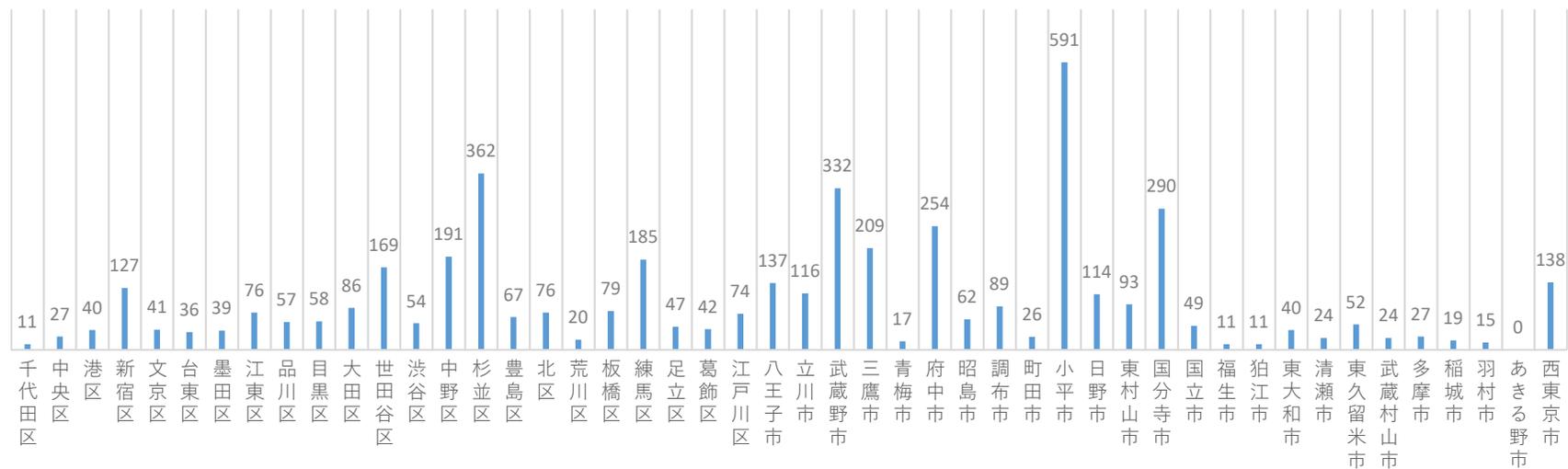
|      |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |
|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 年齢区分 | 0～4   | 5～9   | 10～14 | 15～19 | 20～24 | 25～29 | 30～34 | 35～39 | 40～44 | 45～49 |
| 転入者数 | 445   | 198   | 122   | 443   | 1,830 | 1,764 | 1,227 | 816   | 513   | 375   |
| 転出者数 | 424   | 148   | 76    | 208   | 1,331 | 1,665 | 1,339 | 754   | 507   | 366   |
| 差 引  | 21    | 50    | 46    | 235   | 499   | 99    | -112  | 62    | 6     | 9     |
| 年齢区分 | 50～54 | 55～59 | 60～64 | 65～69 | 70～74 | 75～79 | 80～84 | 85～89 | 90以上  | 総 数   |
| 転入者数 | 281   | 209   | 116   | 122   | 78    | 45    | 41    | 46    | 37    | 8,708 |
| 転出者数 | 279   | 233   | 173   | 127   | 78    | 66    | 40    | 51    | 34    | 7,899 |
| 差 引  | 2     | -24   | -57   | -5    | 0     | -21   | 1     | -5    | 3     | 809   |

5 転入・転出の状況（平成30年。外国人含む。）（出典：住民基本台帳人口移動報告）

### 都内区市町村別転入者数



### 都内区市町村別転出者数



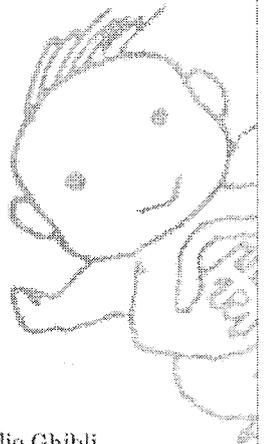
小金井市まち・ひと・しごと創生総合戦略数値目標の達成状況について

|       | 数値目標                       |    | 平成26年度   | 平成30年度        |
|-------|----------------------------|----|----------|---------------|
| 基本目標1 | 市内滞在人口の1日平均人口の増加           | 平日 | 204,400人 | —             |
|       |                            | 休日 | 206,000人 | —             |
|       | 市内3駅の1日平均の乗客数の増加           |    | 90,250人  | 96,731人 (H29) |
| 基本目標2 | 合計特殊出生率の向上                 |    | 1.34     | 1.21 (H29)    |
|       | 若者・子育て世代(15歳～39歳)の転入超過数の増加 |    | 401人     | 783人          |
| 基本目標3 | 小金井市の住みやすさの向上              |    | 75.3%    | 84.5%         |
|       | 小金井市に住みたいと思う市民の割合の増加       |    | 76.0%    | 80.0%         |

## 令和元年度

# 小金井市まち・ひと・しごと創生総合戦略

## 評価シート





小金井市まち・ひと・しごと創生総合戦略評価結果一覧表

基本目標1 小金井の魅力発信し、交流人口の増加を図ることにより、地域の活性化につながるまち

| 方向番号                           | 指標                          | 担当課       | 当初値<br>(平成26年度) | 参考<br>(平成27年度) | 参考<br>(平成28年度)  | 参考<br>(平成29年度)  | 現状値<br>(平成30年度) | 目標値<br>(平成31年度) | 評価 |
|--------------------------------|-----------------------------|-----------|-----------------|----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|----|
| 基本的方向1 魅力が共存する小金井らしいまちづくりの推進   |                             |           |                 |                |                 |                 |                 |                 |    |
| 1                              | 市民1人あたりの公園の整備面積             | 環境政策課     | 6.77㎡           | 6.81㎡          | 6.80㎡           | 6.75㎡           | 保留              | 6.84㎡           | 保留 |
| 2                              | 住居専用地域の割合                   | 都市計画課     | 85.9%           | 85.9%          | 85.9%           | 85.9%           | 85.9%           | 維持              | A  |
| 3                              | 市街地再開発事業施行完了地区数             | まちづくり推進課  | 1地区             | 1地区            | 1地区             | 1地区             | 1地区             | 2地区             | C  |
| 4                              | 東小金井駅北口土地区画整理事業の建物<br>移転進捗率 | 区画整理課     | 46%             | 57%            | 68%             | 70%             | 79%             | 100%            | B  |
| 5                              | 小売業の年間商品販売額                 | 経済課       | 650億円           | 650億円          | 617億<br>8,500万円 | 860億<br>1,400万円 | 860億<br>1,400万円 | 維持              | A  |
| 6                              | 東小金井事業創造センター卒所予定者の<br>市内定着率 | 経済課       | —               | 34.61%         | 42.86%          | 46.15%          | 53.85%          | 50%             | A  |
| 基本的方向2 小金井の魅力発信するシティプロモーションの推進 |                             |           |                 |                |                 |                 |                 |                 |    |
| 7                              | 観光協会のホームページアクセス数            | 経済課       | 74,982件         | 78,631件        | 79,196件         | 33,231件         | 112,528件        | 108,000件        | A  |
| 8                              | 地域情報発信サイトの市ホームページへの<br>連携   | 広報秘書課     | —               | —              | —               | —               | —               | 拡充              | C  |
| 9                              | 桜まつり等の来場者数                  | 経済課       | 約221,000<br>人   | 180,000人       | 219,000人        | 215,000人        | 299,000人        | 380,000人        | B  |
| 10                             | 市民交流センターの稼働率                | コミュニティ文化課 | 84.4%           | 86.0%          | 85.7%           | 85.1%           | 84.8%           | 維持              | A  |

|                                 |                         |            |        |        |        |          |          |                          |   |
|---------------------------------|-------------------------|------------|--------|--------|--------|----------|----------|--------------------------|---|
| 11                              | はけの森美術館の入館者数            | コミュニティー文化課 | 5,546人 | 6,464人 | 4,207人 | 3,958人   | 4,807人   | 5,900人                   | D |
| 12                              | 休日の9時から17時までにおける市内の滞在人口 | 経済課        | —      | —      | —      | 112,144人 | 112,160人 | 115,000人<br>(平成30年度の目標値) | B |
| 基本的方向3 多様な主体の交流、協働、連携を生み出す地域の実現 |                         |            |        |        |        |          |          |                          |   |
| 13                              | 市民協働支援センター準備室の相談件数      | コミュニティー文化課 | 71件    | 115件   | 147件   | 152件     | 179件     | 100件                     | A |
| 14                              | 国際交流事業の参加人数             | コミュニティー文化課 | 190人   | 271人   | 265人   | 256人     | 239人     | 293人                     | B |
| 15                              | 審議会等における公募市民の割合         | 企画政策課      | 22.7%  | 22.9%  | 23.0%  | 23.2%    | 22.9%    | 30.0%                    | B |

小金井市まち・ひと・しごと創生総合戦略評価結果一覧表

基本目標2 多様な働き方ができ、安心して結婚・出産・子育てできるまち

| 方向<br>番号                        | 指標                                   | 担当課                | 当初値<br>(平成26年度)        | 参考<br>(平成27年度)         | 参考<br>(平成28年度)         | 参考<br>(平成29年度)         | 現状値<br>(平成30年度)        | 目標値<br>(平成31年度)        | 評価  |
|---------------------------------|--------------------------------------|--------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|-----|
| 基本的方向1 子どもを安心して産み育てることのできる環境の充実 |                                      |                    |                        |                        |                        |                        |                        |                        |     |
| 16                              | 待機児童数                                | 保育課                | 257人                   | 164人                   | 154人                   | 156人                   | 88人                    | 0人                     | B   |
| 17                              | 認定こども園の設置数                           | 保育課                | —                      | 0園                     | 0園                     | 1園                     | 1園                     | 1園                     | A   |
| 18                              | 子育て支援ネットワークの参加団体数                    | 子育て支援課             | 51団体<br>44機関           | 56団体<br>44機関           | 64団体<br>44機関           | 68団体<br>44機関           | 73団体<br>45機関           | 56団体<br>46機関           | A B |
| 基本的方向2 子どもの育ち・学びのための環境の充実       |                                      |                    |                        |                        |                        |                        |                        |                        |     |
| 19                              | 冒険遊び場開催回数                            | 児童青少年課             | —                      | 週5回                    | 週5回                    | 週5回                    | 週5回                    | 週5回                    | A   |
| 20                              | 放課後子ども教室の推進委員会形式による実施件数              | 生涯学習課              | 9件                     | 9件                     | 9件                     | 9件                     | 9件                     | 維持                     | A   |
| 21                              | 大学との学習支援に関する協働研究連携協力校数               | 指導室                | 2校                     | 2校                     | 2校                     | 2校                     | 14校                    | 14校                    | A   |
| 22                              | よりよい地域社会を目指して地域貢献活動に関わろうとしている児童生徒の割合 | 指導室                | 小学校 53.9%<br>中学校 39.3% | 小学校 53.5%<br>中学校 35.7% | 小学校 57.4%<br>中学校 44.2% | 小学校 54.6%<br>中学校 47.4% | 小学校 57.3%<br>中学校 52.6% | 小学校 61.9%<br>中学校 47.3% | B A |
| 基本的方向3 小金井らしい働き方・ライフスタイルの実現     |                                      |                    |                        |                        |                        |                        |                        |                        |     |
| 23                              | しごとづくりに関する相談件数                       | 経済課                | —                      | 128件                   | 141件                   | 163件                   | 88件                    | 100件                   | D   |
| 24                              | 審議会等への女性の参画率                         | 企画政策課<br>(男女共向参画室) | 34.2%                  | 32.2%                  | 31.6%                  | 32.7%                  | 32.3%                  | 50.0%                  | B   |
| 25                              | 男性職員の育児休業取得率                         | 職員課                | 0%                     | 10%                    | 13%                    | 15%                    | 30%                    | 13%                    | A   |

小金井市まち・ひと・しごと創生総合戦略評価結果一覧表

基本目標3 時代に合った地域をつくり、安全・安心に暮らせるまち

| 方向                                | 番号 | 指標                   | 担当課   | 当初値<br>(平成26年度)      | 参考<br>(平成27年度)       | 参考<br>(平成28年度)       | 参考<br>(平成29年度)       | 現状値<br>(平成30年度)      | 目標値<br>(平成31年度) | 評価  |
|-----------------------------------|----|----------------------|-------|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|-----------------|-----|
| 基本的方向1 誰もが不安なく暮らせる安全・安心のまちづくりの推進  |    |                      |       |                      |                      |                      |                      |                      |                 |     |
|                                   | 26 | 住居専用地域の割合【再掲】        | 都市計画課 | 85.9%                | 85.9%                | 85.9%                | 85.9%                | 85.9%                | 維持              | A   |
|                                   | 27 | 高齢者自立支援住宅改修給付事業の給付件数 | 介護福祉課 | 42件                  | 40件                  | 30件                  | 38件                  | 30件                  | 60件             | D   |
|                                   | 28 | CoCoバスの利用者数          | 交通対策課 | 1,063,278人           | 1,052,648人           | 1,036,315人           | 1,043,760人           | 1,086,864人           | 1,161,087人      | B   |
|                                   | 29 | 自主防災組織の数             | 地域安全課 | 27団体                 | 27団体                 | 27団体                 | 27団体                 | 27団体                 | 30団体            | C   |
|                                   | 30 | 刑法犯の認知件数             | 地域安全課 | 1,070件               | 1,290件               | 1,070件               | 894件                 | 808件                 | 1,029件          | A   |
|                                   | 31 | 認知症サポーター数            | 介護福祉課 | 3,031人               | 4,146人               | 4,874人               | 5,626人               | 6,353人               | 4,700人          | A   |
|                                   | 32 | 地域密着型サービス事業所数        | 介護福祉課 | 28か所                 | 28か所                 | 28か所                 | 27か所                 | 26か所                 | 31か所            | D   |
| 基本的方向2 誰もが健康で、いきいきと暮らすことのできる地域の実現 |    |                      |       |                      |                      |                      |                      |                      |                 |     |
|                                   | 33 | 小金井さくら体操の参加者数        | 介護福祉課 | 400人                 | 510人                 | 774人                 | 907人                 | 950人                 | 700人            | A   |
|                                   | 34 | 65歳健康寿命の延伸           | 健康課   | 男性 81.6歳<br>女性 82.5歳 | 男性 81.4歳<br>女性 82.6歳 | 男性 81.4歳<br>女性 82.5歳 | 男性 81.4歳<br>女性 82.6歳 | 男性 81.7歳<br>女性 82.7歳 | 延伸              | A A |
|                                   | 35 | スポーツ教室・スポーツ大会の参加者数   | 生涯学習課 | 15,354人              | 14,815人              | 16,361人              | 16,336人              | 19,886人              | 20,060人         | B   |

|                                |                      |       |       |       |       |       |       |       |   |
|--------------------------------|----------------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|---|
| 36                             | 高齢者いきいき活動講座参加率       | 介護福祉課 | 81.0% | 83.0% | 76.0% | 78.0% | 94.2% | 100%  | B |
| 基本的方向3 生活を豊かにする地域のふれあい、つながりの醸成 |                      |       |       |       |       |       |       |       |   |
| 37                             | ボランティアセミナー参加者数       | 生涯学習課 | 76人   | 191人  | 183人  | 139人  | 233人  | 160人  | A |
| 38                             | 図書館における住民1人当たり図書貸出冊数 | 図書館   | 8.1冊  | 8.0冊  | 8.0冊  | 7.6冊  | 8.0冊  | 8.4冊  | D |
| 39                             | 公民館の平均稼働率            | 公民館   | 57.3% | 58.6% | 63.0% | 63.8% | 63.4% | 67.3% | B |

まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価シート(取りまとめ)

【基本情報】

|        |   |     |       |
|--------|---|-----|-------|
| 基本目標1  | 小金井の魅力を増進し、交流人口の増加を図ることにより、地域の活性化につながるまち                                    |     |       |
| 基本的方向1 | 魅力が共存する小金井らしいまちづくりの推進   |     |       |
| 指標     | 住居専用地域の割合   | 担当課 | 都市計画課 |
| 指標の説明  | 住居専用地域全体の割合(駅周辺の拠点性を高める地域(再開発促進地区)以外の第一種低層住居専用地域、第二種低層住居専用地域及び第二種中高層住居専用地域) |     |       |

【重要業績評価指標(KPI)】

| 年度   | 目標         | 結果 | 評価 | 結果の説明   | 次年度に向けての課題・展望                             | 委員評価取りまとめ   |
|------|------------|----|----|---|---|---|
| 26年度 | 85.9%      |    |    |   |   |   |
| 27年度 | ↓<br>85.9% | A  |    | 平成27年度は、用途地域等の都市計画の変更がなかったため、住居専用地域の割合の変更もなかった。 | 用途地域等の都市計画の変更の予定はないため、住居専用地域の割合の変更の予定もない。 | 計画どおり進捗しているものの、都市計画の変更がなくとも、様々なことを想定して検討を続けることが望ましい。  |
| 28年度 | ↓<br>85.9% | A  |    | 平成28年度は、用途地域の都市計画の変更がなかったため、住居専用地域の割合の変更もなかった。  | 用途地域等の都市計画の変更の予定はないため、住居専用地域の割合の変更の予定もない。 | 計画どおり進捗しているものの、まちづくりの推進に向けた様々な取組に期待したい。   |
| 29年度 | ↓<br>85.9% | A  |    | 平成29年度は、用途地域の都市計画の変更がなかったため、住居専用地域の割合の変更もなかった。  | 用途地域等の都市計画の変更の予定はないため、住居専用地域の割合の変更の予定もない。 | 計画どおり進捗しており、地区に応じたまちづくりを進めてもらいたい。<br>なお、目標85.9%に対し、平成27年度から平成29年度まで85.9%であり、指標の在り方については、見直しの方向も検討する必要がある。 |



まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価シート(取りまとめ)

|          |  |
|----------|--|
| 【基本情報】   |  |
| 基本目標1    | 小金井の魅力を発信し、交流人口の増加を図ることにより、地域の活性化につながるまち   |
| 基本方針(方向) | 魅力が共存する小金井らしいまちづくりの推進  |
| 施策       | 市街地再開発事業施行完了地区数  |
| 評価の指標    | 不足している道路・公園などの公共施設を計画的に整備することにより、良好な生活環境を備えた都市型住宅の供給や、業務施設の近代化を図るなど、安全かつ快適な生活空間を創出する総合的なまちづくりを行った地区数 |
| 担当課      | まちづくり推進課   |

【重要業績評価指標(KPI)】

| 年度   | 目標  | 結果 | 評価 | 結果の説明  | 次年度に向けての課題・展望  | 委員評点(取りまとめ)  |
|------|-----|----|----|--|--|--|
| 26年度 | 1地区 |    |    |  |  |  |
| 27年度 | 1地区 | 0  | C  | <p>武蔵小金井駅南口では平成27年9月5日に東京都から認可を受けた武蔵小金井駅南口第2地区市街地再開発組合が設立され、平成31年度の建築工事完了に向けて着実に事業進捗している。</p> <p>また、同駅北口では、地権者の方々が中心となって、平成27年4月に武蔵小金井駅北口駅前地区市街地再開発準備組合を設立し、事業の内容等について検討を行っている。</p> <p>これらに対して、市は、事業進捗に応じて要綱等に基づく支援等を行ってきた。</p>  | <p>武蔵小金井駅南口については、再開発組合の予定では、平成29年度中に権利変換計画認可及び工事着手を目的として、補助金の交付等の支援を行っていく。事業を進めるに当たっては、組合員に対する丁寧な説明を行いながら権利変換の手続きを進めることや、事業進捗に応じた積極的な情報発信に努めていくよう指導を行っている。</p> <p>同駅北口については、準備組合が引き続き、事業化に向けた検討を続けていくことから、適切な支援等を行っていく。</p>            | 結果としては、目標値に到達していないためC評価となっているが、次年度に向けての課題・展望の取組に関しては、おおむね順調に推移している。                              |
| 28年度 | 1地区 | 0  | C  | <p>武蔵小金井駅南口では、武蔵小金井駅南口第2地区市街地再開発組合が平成29年1月13日に東京都から権利変換計画の認可を受けた。その後、同組合は解体工事等に係る説明会を開催し、平成29年2月から解体工事に着手しており、引き続き、平成31年度の建築工事完了に向けて事業を進捗している。</p> <p>また、同駅北口では、地権者の方々が中心となって、平成27年4月に武蔵小金井駅北口駅前地区市街地再開発準備組合を設立し、事業の内容等について検討を行っている。</p> <p>これらに対して、市は、事業進捗に応じて要綱等に基づく支援等を行ってきた。</p> | <p>武蔵小金井駅南口については、平成29年度内に新築本体工事に着手する予定であり、当該工事の円滑な進捗に向けて、補助金の交付等の切れ目のない支援を続けていく。また、当該事業の進捗に応じた継続的な情報発信や、工事において、周辺住民、通行人等の安全の確保に努めていくよう指導を行っていく。</p> <p>同駅北口については、準備組合が引き続き、事業化に向けた検討を続けていくことから、適切な支援等を行っていく。</p>                       | <p>評価としてはCととなるが、適切な支援を実施しており、進捗は概ね良好である。引き続き周辺地域に配慮し、工夫した取組に期待したい。</p>                           |
| 29年度 | 1地区 | 0  | C  | <p>武蔵小金井駅南口では、武蔵小金井駅南口第2地区市街地再開発事業が平成29年7月から新築本体工事に着手しており、平成32年度の建築工事完了に向けて事業を進捗している。</p> <p>また、同駅北口では、再開発を検討していた一部の区域において、任意の共同化が検討されていくこととなり、平成30年3月に再開発準備組合が一度解散となった。当該区域における早期事業化が望まれる。</p> <p>これらに対して、市は、事業進捗に応じて要綱等に基づく支援等を行ってきた。</p>  | <p>武蔵小金井駅南口については、平成29年7月より新築本体工事に着手中であり、当該工事の円滑な進捗に向けて、補助金の交付等の切れ目のない支援を続けていく。また、当該事業の進捗に応じた継続的な情報発信や、工事において、周辺住民、通行人等の安全の確保に努めていくよう指導を行っていく。</p> <p>同駅北口については、駅前における一部区域での任意の共同化にあわせて、地元協議会が引き続き、まちづくりの検討を行っていくことから、適切な支援等を行っていく。</p> | <p>目標に向け、状況の変化に対応しながら事業を進めているものの、市民感覚として武蔵小金井駅北口は後退したように感じられる。地元と連携を密にしながら継続した支援等に努めていただきたい。</p> |



まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価シート(取りまとめ)

【基本情報】

|        |   |     |       |
|--------|---|-----|-------|
| 基本目標   | 小金井の魅力発信し、交流人口の増加を図ることにより、地域の活性化につながるまち   |     |       |
| 基本的方向性 | 魅力が共存する小金井らしいまちづくりの推進                     |     |       |
| 指標     | 東小金井駅北口土地区画整理事業の建物移転進捗率                   | 担当課 | 区画整理課 |
| 指標の説明  | 東小金井駅北口土地区画整理事業区域内の要移転の建物に対する移転が完了した建物の割合 |     |       |

【重要業績評価指標(KPI)】

| 年度   | 目標  | 結果  | 評価 | 結果の説明  | 次年度に向けての課題・展望   | 委員評価取りまとめ   |
|------|-----|-----|----|--|---|---|
| 26年度 | 46% |     |    |  |   |   |
| 27年度 | ↓   | 67% | B  | 27年度に移転を予定していた建物内、地権者の都合により移転が行えなかった建物もあるが、他の地権者に声掛けし、急遽、年度内に移転に応じてもらった建物もあり、事業が進捗した。                            | 年度内に予定している建物の移転を確実に完了させることに加え、駅前の大型物件の移転に向けてコアスケジュール調整し、早期に着手できるよう権利者と交渉すると共に移転同意後は権利者が滞りなく移転できるよう連絡を密に取らねばならぬことが重要である。また、困難地権者に対して移転に際しても移転に際しても積極的に接合を図る必要がある。  | 現状、目標を達成しているため、おおむね順調に進捗している。困難な課題もあると思われるが、平成31年度の目標値である100%に向けて課題を明確に整理し、事業に取り組みたい。 |
| 28年度 | ↓   | 68% | B  | 28年度に移転を予定していた建物について、概ね予定どおり進捗した。一部の建物について地権者の都合により移転時期について遅延が生じた。駅前の大型物件については、隣接地の建物移転の合意が必要となるため、権利者と交渉を進めている。 | 年度内に予定している建物の移転を確実に完了させることに加え、駅前の大型物件の移転に向けて中断期間の短縮化等、効率的なスケジュールを検討した上で、スケジュールに沿った移転に着手できるよう権利者と交渉する。移転同意後は権利者が滞りなく移転できるよう連絡を密に取らねばならぬことが重要である。また、困難地権者に対して移転に際しても移転に際しても積極的に接合を図る必要がある。結果を踏まえ今年度は前年度比プラス5%程度の進捗を目指し努力していく。 | 目標達成に向けて、概ね順調に推移している。困難地権者の具体的な課題の確認と対応に取り組んでほしい。また、並行して駅周辺の道路整備等を早めに進めてほしい。          |
| 29年度 | ↓   | 70% | B  | 駅前の大型物件の移転に着手したため、事業費ベースでは進捗を収めたものの、棟数ベースでの進捗はやや低調となった。また、事業計画変更を行い、事業期間を平成38年度末まで7年間延伸した。                       | 年度内に予定している建物の移転を確実に完了させることに加え、駅前の大型物件の移転に向けて中断期間の短縮化等、効率的なスケジュールを検討した上で、スケジュールに沿った移転に着手できるよう権利者と交渉する。移転同意後は権利者が滞りなく移転できるよう連絡を密に取らねばならぬことが重要である。また、困難地権者に対して移転に際しても移転に際しても積極的に接合を図る必要がある。結果を踏まえ今年度は前年度比プラス5%程度の進捗を目指し努力していく。 | 地権者への対応を丁寧に行っており、適切な延伸と考える。引き続き、話し合いに重きを置きつつ、早期完了に努めてほしい。                             |



まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価シート(取りまとめ)

|        |  |
|--------|--|
| 【基本情報】 |  |
| 基本目標   | 小金井の魅力を発信し、交流人口の増加を図ることにより、地域の活性化につながるまち |
| 重点的方針  | 魅力が共存する小金井らしいまちづくりの推進                    |
| 指標     | 小売業の年間商品販売額                              |
| 指標の説明  | 市内小売業の年間商品販売額(経済センサス活動調査)                |
| 担当課    | 経済課                                      |

| 【重要業績評価指標(KPI)】 |  | 年度          | 目標 | 結果    | 評価  | 結果の説明  | 次年度に向けての課題/展望  | 委員評価取りまとめ   |
|-----------------|--|-------------|----|-------|---|--|--|---|
| 26年度            |  | 650億円       |    |       |   |  |  |   |
| 27年度            |  | 650億円       | I  | 650億円 | C   | 直近(平成24年経済センサス活動調査)の指標結果は650億円であり、次回の調査は平成28年6月1日現在、平成29年5月から順次公表されることである。取組としては、商工会や商店会の取組(各種相談事業、イベント実施、施設整備等)に対し、補助金交付や情報提供、広報等の支援を行っている。   | 引き続き、商工会や商店会に対し、後方支援を図る。平成28年度から5年間で蓄積してきた人材ストック(市民レポーターや大学との連携等)や、商業振興イベントの実績、商業振興モニター地区策定実績を活用するとともに、中間支援組織や市民力を活かしながら産業振興、地域活性化を推進していく。 | 市内小売業の実態を踏まえつつ、支援組織との協働や市民懇話会など、より活動の具体化を図る必要がある。 |
| 28年度            |  | 617億8,500万円 | I  | D     | 結果については、平成26年に実施された商業統計調査の指標結果である。本指標については、経済センサス活動調査のほか、商業統計調査においても同様の指標の調査が行われていることから、いずれかの調査のうち、直近で把握できる数値を結果に反映している。(商業統計調査については、経済センサス活動調査(5年に1回実施)の2年後に実施の周期となっている) | 市の商業振興施策としては、商工会が行う商工業振興事業に関する補助及び商店会等が行うイベントや活性化事業等に対しする補助を実施している。今後同様の支援を実施しつつ、平成28年度に実施した「しごとづくり深化・拡大事業」で取り組んだ、教育をテーマにした産業の育成や江戸東京をテーマにした滞在(時間消費)型サービスの立ち上げについて、継続して取組を行う。                            | 市内小売業が不振である要因を分析し、実態を踏まえた支援策を実施していただきたい。商工会や商店会等と協力し、小売業の質の向上や市民利用の促進、広報支援等、地域の盛り起こしに繋がる事業に取り組んでいただきたい。                                    |   |
| 29年度            |  | 860億1,400万円 | I  | A     | 結果については、平成28年に実施された経済センサス活動調査の指標結果である。販売額が大幅に増加している。前回調査時から駅前の環境整備が進み、市においても従来から実施している商工会や商店会への補助に加え、新産業創出の検討、江戸東京をテーマとした取組の充実を、一部国の補助金を活用しながら図ってきたところである。                | 市の商業振興施策としては、商工会が行う商工業振興事業に関する補助及び商店会等が行うイベントや活性化事業等に対する補助を実施しており、今後同様に支援を行う。また、30年度も引き続き国の交付金を活用しながら、江戸東京をテーマにした滞在(時間消費)型サービスの立ち上げについて取組を行うとともに、武蔵野市、三鷹市と一体となった観光地域づくりにより、3市の交流人口の拡大を図ることで、商業の活性化につなげる。 | 大幅に販売額が増加しており、取組は評価できる。今後とも広域的な展開や来街者向けの工夫に取り組んでいただきたい。  |   |

|      |   |                     |   |  |  |   |  |   |   |   |   |   |
|------|---|---------------------|---|--|--|---|--|---|---|---|---|---|
| 30年度 | 1 | 860億<br>1,400<br>万円 | A | <p>結果については、平成28年に実施された経済センサス活動調査の指標結果である。事業所数には特段変化が見られないものの、販売額が大幅に増加している。前回調査時からは駅前の環境整備が進み、市においても従来から実施している商工会や商店会への補助に加え、新産業創出の後継、江戸東京をテーマとした取組の充実を、一部国の補助金を活用しながら図ってきたところである。</p> | <p>現行の産業振興プランが令和2年度を計画期間が終了になることに伴い、計画の改訂作業を予定している。令和元年度は改訂のための基礎調査を行い、商業振興施策に関し、市民のニーズや商店等の実態把握をし、今後の商業振興施策の方向性を検討していく。</p> | <p>新たな取り組みでは現状を正しく認識し、新たな方法にチャレンジしてほしい。</p> <p>○ 渡邊</p> <p>○ 小川</p> <p>△ 松本</p> <p>○ 鴨下</p> <p>△ 橋田</p> <p>△ 本間</p> <p>△ 山本</p> <p>△ 小宮</p> <p>○ 天野</p> | <p>平成28年データで評価するのは如何か、何らかの目安となる指標を別途採用すべきではないか。</p> <p>○ 今後の発表も期待しています</p> <p>△ 結果が以前の指標結果のため評価が難しい</p> <p>△ 前年度と同じ指標結果のため、評価が難しい。何らかの目安となる指標を別途採用すべきではないか。</p> <p>△ 前年度と同じ指標であり、判断できない。エリア毎の分析が可能であれば、詳細にみる必要がある。</p> <p>○ 今後の方向性については、よく検討していただきたい</p> | <p>前年度と同じ指標結果のため、評価が難しい。何らかの目安となる指標を別途採用すべきではないか。</p> |   |   |   |   |
| 31年度 |   |                     |   |  |  | 維持  |  |   |   |   |   |   |
| 合 計  |   |                     |   |  |  |   | 0  | 4   | △ | 5 | x | 0 |

まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価シート(取りまとめ)

【基本情報】

|       |                                       |     |
|-------|---------------------------------------|-----|
| 基本目標1 | 小金井の魅力発信し、交流人口の増加を図ることにより、地域の活性化につながる |     |
| 基本方針1 | 魅力が共存する小金井らしいまちづくりの推進                 |     |
| 指標    | 東小金井事業創造センター卒所予定者の市内定着率               | 経済課 |
| 指標の説明 | センター卒所者のうち、引き続き市内で事業実施する事業者の割合        | 担当課 |

【重要業績評価指標(KPI)】

| 目標   | 結果 | 評価     | 結果の説明 | 次年度に向けての課題・展望   | 委員評価取りまとめ   |   |
|------|----|--------|-------|---|---|---|
| 26年度 | -  | -      | -     | -   | -   |   |
| 27年度 | ↓  | 34.61% | B     | <p>H26～H27年度の2年間の卒所者のうち、市内で引き続き事業実施する事業者の割合は34.61%となった(H27年単年度では40%)。評価については、26年度は目標数値がないことから、到達はしていないが取組は推進しているという観点からBとしている。</p> <p>また、市では、センター卒所者が市内においてしごとを獲得することにより定着していく仕組みづくりとして、しごとづくり構連の醸成やマッチングイベント、定着先モデル構築等を行った(国交付金、地域活性化・地域住民等緊急支援交付金地方創生先行型「しごとづくり事業」)。</p>                      | <p>センター卒所者の市内定着に向けた仕組みづくりが大きな課題である。</p> <p>今後も引き続き、指定管理者の協力ののもと、市内定着に向けた支援や情報提供等を実施する。</p> <p>また、28年度は国交付金である地方創生加速化交付金を活用し、「しごとづくり深化拡大事業」として、創業機運の拡大事業、教育的特性を活用したローカルイノベーション事業、江戸東京テーマにした滞在型ビジネス創出事業を実施し、市内でのしごと創出を図ることで、市内定着の促進につなげていく。</p> <p>センター卒所者の市内定着に関しては、今後の方向性について企画部門や都市計画部門を中心に市全体で取り組むことが必須である。</p> | <p>適切な「課題・展望」認識のもと、実施されている。</p> <p>センター卒所者の市内定着率は総合戦略において重要な指標であるため、更なる工夫を凝らして増加する取組を行うべきであるという意見がある。</p> <p>一方、入居者の市内定着に固執する必要はないのではないか、という意見もあり、指標に係る目標達成に向け、企画部門・都市建設部門等との連携強化を進めるべきである。</p> |
| 28年度 | ↓  | 42.86% | B     | <p>市内定着に向けた具体的な取組としては、東小金井事業創造センターの指定管理者により、以下の3点を柱に実施した。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 市内空き物件情報の提供</li> <li>2. 同センター利用者を中心に、市内の事業者、地域でのしごとに関心をもつ市民、金融機関、行政職員、支援団体等を対象とした異業種交流会の開催</li> <li>3. 同センター利用者に対する定期的な面談の実施によるフォロー</li> </ol> <p>上記取組を実施した結果、3先の市内定着に繋がりに定着率が改善した。</p> | <p>市内定着の促進に向けては、同センター利用者が利用期間中に、いかに地域でしごとを作つて、地域とのつながりを深めていけるかということをも一つの大きな要素と捉え、市内で活動している事業者等とのマッチングが重要になっている。</p> <p>28年度においても、そのような視点で取組を実施してきており、指定管理者の協力ののもと、継続的に支援を行っている。</p> <p>また、ハード面については、空き物件の活用や事業所向け物件が少ない等の課題があるため、継続して検討を行う必要があることから、関係部署とも連携した取組が必須である。</p>                                       | <p>適切な取組を実施しており、結果は概ね良好と思われる。卒所した事業者の立地選別の要因を分析し、今後の対策に繋げていただきたい。</p>   |

|      |   |  |   |   |   |  |    |   |                                   |    |   |  |    |   |          |    |   |               |    |   |              |    |   |  |    |   |                              |    |   |                               |    |   |                         |     |  |  |   |   |   |   |   |   |
|------|---|--|---|---|---|--|----|---|-----------------------------------|----|---|--|----|---|----------|----|---|---------------|----|---|--------------|----|---|--|----|---|------------------------------|----|---|-------------------------------|----|---|-------------------------|-----|--|--|---|---|---|---|---|---|
| 29年度 | ↓ | 46.15%                                     | B | <p>個室及びブース入居者の定着率は高い数値を保っているが、シェアスペース入居者の定着率が低い傾向にある。個室及びブースは入居審査を実施し、3年間(最長5年)施設にて事業展開することを想定している一方で、シェアブースは入居審査のない登録制となっていることから比較的に替わりが多く、短期間で退去する利用者もいると表えている。</p> <p>今後も引き続き指定管理者の協力のもと、事業所等のマッチングなど入居期間中の支援を継続し、定着率の向上に努めていく。</p> <p>また、隣接地に新たに開設した民間の創業支援施設も、今後KOO-TOの定着先の一つとして期待される。</p> | <p>個室及びブース入居者の定着率は高い数値を保っているが、シェアスペース入居者の定着率が低い傾向にある。個室及びブースは入居審査を実施し、3年間(最長5年)施設にて事業展開することを想定している一方で、シェアブースは入居審査のない登録制となっていることから比較的に替わりが多く、短期間で退去する利用者もいると表えている。</p> <p>今後も引き続き指定管理者の協力のもと、事業所等のマッチングなど入居期間中の支援を継続し、定着率の向上に努めていく。</p> <p>また、隣接地に新たに開設した民間の創業支援施設も、今後KOO-TOの定着先の一つとして期待される。</p> | <p>年々順調に定着率が向上しており、良好な進捗状況である一方、どこで活躍してもセンターで学んでもらったことに意義があり、定着率は問題ではないという意見もある。空き家のマッチングや市内事業者等とのマッチング、事業内容や形態などを紹介するなど、更に発展した取組に期待したい。</p>   |    |   |                                   |    |   |  |    |   |          |    |   |               |    |   |              |    |   |  |    |   |                              |    |   |                               |    |   |                         |     |  |  |   |   |   |   |   |   |
| 30年度 | ↓ | 53.85%                                     | A | <p>指定管理者が行う起業家による空き家活用モデル事業は、東京都から認定を受け実施しており、事業者向け物件が市内に少ない等の課題解決を図っている。</p> <p>増設された創業支援施設についても、センターの定着率の一つとして期待され、今後も定着率の向上に努めていく。</p> <p>また、センター開設から5年経過し、登録制の個室及びブース入居者が満期となるため、高い定着率を保てるよう引き続き支援を行っていく。</p>   | <p>指定管理者が行う起業家による空き家活用モデル事業は、東京都から認定を受け実施しており、事業者向け物件が市内に少ない等の課題解決を図っている。</p> <p>増設された創業支援施設についても、センターの定着率の一つとして期待され、今後も定着率の向上に努めていく。</p> <p>また、センター開設から5年経過し、登録制の個室及びブース入居者が満期となるため、高い定着率を保てるよう引き続き支援を行っていく。</p>   | <p>目標値を上回ったことを評価する。東小金井事業創造センター卒所予定者の市内定着率の目標指数50%あり、さらなる定着率の増加を期待する。</p>  |    |   |                                   |    |   |  |    |   |          |    |   |               |    |   |              |    |   |  |    |   |                              |    |   |                               |    |   |                         |     |  |  |   |   |   |   |   |   |
| 31年度 |   | 50%  |   |   |   | <table border="1"> <tr> <td>渡邊</td> <td>○</td> <td>小金井の町作りに重要な施策です、さらなる定着率の増加を期待します。</td> </tr> <tr> <td>小川</td> <td>○</td> <td>東小金井事業創造センター卒所予定者の市内定着率の目標指数50%にも関わることである。</td> </tr> <tr> <td>松本</td> <td>○</td> <td>定着率向上を評価</td> </tr> <tr> <td>鴨下</td> <td>○</td> <td>目標を上回る結果だったため</td> </tr> <tr> <td>橋田</td> <td>○</td> <td>目標値を上回っているため</td> </tr> <tr> <td>本間</td> <td>△</td> <td></td> </tr> <tr> <td>山本</td> <td>○</td> <td>目標を上回る成果であった。割合なので実数を調べてほしい。</td> </tr> <tr> <td>小宮</td> <td>○</td> <td>目標値を上回ったので評価出来る。引き続き取り組んで頂きたい</td> </tr> <tr> <td>天野</td> <td>○</td> <td>目標を上回ったが、引き続き支援を続けていきたい</td> </tr> <tr> <td colspan="3" style="text-align: center;">合 計</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>8</td> <td>△</td> <td>1</td> <td>x</td> <td>0</td> </tr> </table> | 渡邊 | ○ | 小金井の町作りに重要な施策です、さらなる定着率の増加を期待します。 | 小川 | ○ | 東小金井事業創造センター卒所予定者の市内定着率の目標指数50%にも関わることである。 | 松本 | ○ | 定着率向上を評価 | 鴨下 | ○ | 目標を上回る結果だったため | 橋田 | ○ | 目標値を上回っているため | 本間 | △ |  | 山本 | ○ | 目標を上回る成果であった。割合なので実数を調べてほしい。 | 小宮 | ○ | 目標値を上回ったので評価出来る。引き続き取り組んで頂きたい | 天野 | ○ | 目標を上回ったが、引き続き支援を続けていきたい | 合 計 |  |  | ○ | 8 | △ | 1 | x | 0 |
| 渡邊   | ○ | 小金井の町作りに重要な施策です、さらなる定着率の増加を期待します。          |   |   |   |  |    |   |                                   |    |   |  |    |   |          |    |   |               |    |   |              |    |   |  |    |   |                              |    |   |                               |    |   |                         |     |  |  |   |   |   |   |   |   |
| 小川   | ○ | 東小金井事業創造センター卒所予定者の市内定着率の目標指数50%にも関わることである。 |   |   |   |  |    |   |                                   |    |   |  |    |   |          |    |   |               |    |   |              |    |   |  |    |   |                              |    |   |                               |    |   |                         |     |  |  |   |   |   |   |   |   |
| 松本   | ○ | 定着率向上を評価                                   |   |   |   |  |    |   |                                   |    |   |  |    |   |          |    |   |               |    |   |              |    |   |  |    |   |                              |    |   |                               |    |   |                         |     |  |  |   |   |   |   |   |   |
| 鴨下   | ○ | 目標を上回る結果だったため                              |   |   |   |  |    |   |                                   |    |   |  |    |   |          |    |   |               |    |   |              |    |   |  |    |   |                              |    |   |                               |    |   |                         |     |  |  |   |   |   |   |   |   |
| 橋田   | ○ | 目標値を上回っているため                               |   |   |   |  |    |   |                                   |    |   |  |    |   |          |    |   |               |    |   |              |    |   |  |    |   |                              |    |   |                               |    |   |                         |     |  |  |   |   |   |   |   |   |
| 本間   | △ |  |   |   |   |  |    |   |                                   |    |   |  |    |   |          |    |   |               |    |   |              |    |   |  |    |   |                              |    |   |                               |    |   |                         |     |  |  |   |   |   |   |   |   |
| 山本   | ○ | 目標を上回る成果であった。割合なので実数を調べてほしい。               |   |   |   |  |    |   |                                   |    |   |  |    |   |          |    |   |               |    |   |              |    |   |  |    |   |                              |    |   |                               |    |   |                         |     |  |  |   |   |   |   |   |   |
| 小宮   | ○ | 目標値を上回ったので評価出来る。引き続き取り組んで頂きたい              |   |   |   |  |    |   |                                   |    |   |  |    |   |          |    |   |               |    |   |              |    |   |  |    |   |                              |    |   |                               |    |   |                         |     |  |  |   |   |   |   |   |   |
| 天野   | ○ | 目標を上回ったが、引き続き支援を続けていきたい                    |   |   |   |  |    |   |                                   |    |   |  |    |   |          |    |   |               |    |   |              |    |   |  |    |   |                              |    |   |                               |    |   |                         |     |  |  |   |   |   |   |   |   |
| 合 計  |   |  |   |   |   |  |    |   |                                   |    |   |  |    |   |          |    |   |               |    |   |              |    |   |  |    |   |                              |    |   |                               |    |   |                         |     |  |  |   |   |   |   |   |   |
| ○    | 8 | △  | 1 | x   | 0   |  |    |   |                                   |    |   |  |    |   |          |    |   |               |    |   |              |    |   |  |    |   |                              |    |   |                               |    |   |                         |     |  |  |   |   |   |   |   |   |

まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価シート(取りまとめ)

【基本情報】

|       |   |
|-------|---|
| 基本目標1 | 小金井の魅力を発信し、交流人口の増加を図ることにより、地域の活性化につながる                      |
| 基本目標2 | 小金井の魅力を発信するシティプロモーションの推進                                    |
| 指標    | 観光協会のホームページアクセス数  |
| 指標の説明 | 観光協会のホームページアクセス数(現:一般社団法人小金井市観光まちおこし協会)ホームページのアクセス数(セッション数) |
| 担当課   | 経済課   |

【重要業績評価指標(KPI)】

| 目標                   | 結果 | 評価 | 結果の説明   | 次年度に向けての課題/展望   | 委員評価取りまとめ  |
|----------------------|----|----|---|---|--|
| 26年度<br>74,982件      |    |    |   |   |  |
| 27年度<br>↓<br>79,881件 | B  |    | イベントの内容やフェイスブックの充実を図ったことでアクセス数の増加につながったと思われる。   | 平成28年4月に小金井市観光協会は法人化し、中間支援組織としての役割も担う一般社団法人小金井市観光まちおこし協会となった。ホームページ更新を専門に行う人員も配置したことから、更なる内容の充実、アクセス数の増加が期待できる。         | 平成31年度の目標を達成するために、市内在住者だけでなく、市外の方にも認識していただく必要がある。ホームページへのアクセス数増加を各種イベントへの来場数増につなげる工夫が必要である。  |
| 28年度<br>↓<br>79,198件 | B  |    | ホームページ更新を専門に行う人員も配置したことから、フェイスブックを含むホームページの内容が更に充実し、アクセス数の増加に繋がっている。  | ホームページの全面リニューアル(平成29年5月)に向けて準備を進めており、今後は観光情報の発信に加え、中間支援組織としての情報もより積極的に取り扱う予定である。  | 目標達成に向けて、積極的に取り組んでいるものの、人員の増加と内容の充実に対しアクセス数の増加が限定的であった。リニューアル後の増加に期待したい。併せて、イベント自体の魅力向上や、市内高等教育機関(大学、専門学校)との連携により若者の意見を取り入れる等、取り組んでいただきたい。 |
| 29年度<br>↓<br>32,231件 | D  |    | 平成29年7月にホームページリニューアルに伴い、平成29年7月～平成30年3月の数値とアクセス数については減少となっているが、ホームページのリニューアルとともにSNSでの情報発信も強化しており、そこから情報取得しているケースも多くなっていること想定されることから、アクセス数の減につながっていると分析している。 | 単発的なイベント等の情報についてはSNSでの発信を強化していることもあり、ホームページを訪れる頻度が減っていると考えられるため、市内散策の地図や観光スポットの紹介など読んで知らせてもらうような内容の充実を図ることを検討していく予定である。 | アクセス数の減少は残念である。今後、他団体等との連携やQRコードの活用、SNSと連携を図り、積極的にホームページアクセス数を増やす取組を行っていただきたい。   |



まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価シート(取りまとめ)

【基本情報】

|        |  |       |
|--------|--|-------|
| 基本目標1  | 小金井の魅力発信、交流人口の増加を図ることにより、地域の活性化につながるまち |       |
| 基本的方向2 | 小金井の魅力発信するシティプロモーションの推進                |       |
| 指標     | 地域情報発信サイトの市ホームページへの連携                  | 広報秘書課 |
| 指標の説明  | 市ホームページ内における市に関する情報を発信している他団体へのリンク数    | 担当課   |

【重要業績評価指標(KPI)】

| 年度   | 目標 | 結果 | 評価 | 結果の説明   | 次年度に向けての課題・展望  | 委員評価取りまとめ  |
|------|----|----|----|---|--|--|
| 26年度 | -  | -  | -  |   |  |  |
| 27年度 | ↓  | -  | C  | 市ホームページ内に市に関する情報を発信している民間を含めた他団体をリンクすることが可能ななど、新たな方式を検討し、後期基本計画策定に向けた検討会において、リンクする方向で決定したが、具体的な検討は行っていない。   | 市ホームページをリニューアルしたことに伴い、市ホームページ内に市に関する情報を発信している民間を含めた他団体をリンクするといった取組みに活用しやすい環境が整ったため、今後は、こうした取組みを実施している自治体の事例を参考に、新たな方式の実現に向け検討を進める。 | ホームページは市の「顔」であるため、デザイン性と機能性に優れたページを作りたい。そのためには市内にある大学や専門家との協働が効果的であり、市域からの情報発信も増やすべきである。                   |
| 28年度 | ↓  | -  | C  | 拡充に向けた新たな方式について、具体的な検討は行っていないが、協定締結等市と関連のある他団体の情報を、内容を協議のうえ、リンクするといった取組を試行的に行なった。(2~3件程度) デザイン性と機能性に優れたページの作成については、平成27年度に実施したリニューアルにて既に取り組んでいるが、大学や専門家との協働は行っていない。 | 関係作業部会での検討等を視野に入れながら、他自治体の事例を参考に、新たな方式の実現に向け引き続き検討を進める。<br>なお、情報の多様化に伴い、市ホームページについては平成30年度を目標として広報部門に事務移管することを検討している。              | リンクを増やすことは技術的に容易いことである。市として発信していきたい情報・メッセージを明確にし、戦略的シティープロモーションの検討が必要である。<br>高度な連携を目指し、大学等との協働も検討していただきたい。 |
| 29年度 | ↓  | -  | C  | 市として発信していきたい情報の明確化及び戦略的シティプロモーションの検討を含む情報発信のありかたなどについては、他自治体の事例を参考に拡充に向けた新たな方式の検討を進めてきたが実現に至らなかった。  | 市報、SNSなどの他の情報発信ツールの活用も含め、シティプロモーションにおける基本的な方向性の作成へ向けて検討を進める。   | 連携に至らなかった結果は、大変残念である。様々な団体との連携は可能であろうと思うが、方向性をもって取り組んでもらいたい。   |

| 30年度 | + | - | ○ | シティブロモーションの定義を「明確なビジョンを持って市の魅力を市内外に発信し、市民に対しては地元への誇りや愛着を醸成し、対外的には認知度の向上を図ること」とし、これを戦略的・継続的に推進することを目的とし、小金井市シティブロモーション基本方針(案)を策定し、平成31年3月15日より、同案に対し、パブリックコメントを募集開始した。 | パブリックコメントの結果を踏まえ、小金井市シティブロモーション基本方針を策定。関係団体や市民と連携することにより、行政ではできないような地域の魅力の発掘・発信を行う。 | 渡邊  | ○ | 市民との協働が不可欠です。  | 基本方針策定を評価するが、今後、市民との協働が不可欠であり、行政の枠にとられず、小金井市の魅力をどの層にも落とし込めるようにプロモーションしてほしい。 |   |   |  |
|------|---|---|---|---|---|-----|---|--|---|---|---|--|
|      |   |   |   |   |   | 小川  | △ | 前のにぎわいプロジェクトを受けた、施策⑥創造的産業の支援の観点から考えると農工大・多摩小金井ベンチャーポートとの連携が重要と言える。 |   |   |   |  |
|      |   |   |   |   |   | 松本  | × | 「拡充」という目標を設定すること自体KPIの趣旨から逸脱しているのではないか。                            |   |   |   |  |
|      |   |   |   |   |   | 嶋下  | ○ | 行政の枠にとられず、小金井市の魅力をどの層にも落とし込めるようにプロモーションしてほしい                       |   |   |   |  |
|      |   |   |   |   |   | 橋田  | × | これら方針を決めるようでは少し遅い  |   |   |   |  |
|      |   |   |   |   |   | 本間  | △ |  |   |   |   |  |
|      |   |   |   |   |   | 山本  | △ | 基本計画に沿い、関係機関と連携の上、進めてほしい。  |   |   |   |  |
|      |   |   |   |   |   | 小宮  | △ |  |   |   |   |  |
|      |   |   |   |   |   | 天野  | ○ | 基本方針策定を評価する。   |   |   |   |  |
|      |   |   |   |   |   | ○   | 3 | △  | 4   | x | 2 |  |
|      |   |   |   |   |   | 合 計 |   |  |   |   |   |  |
| 31年度 |   |   |   |   |   |     |   |  |   |   |   |  |

まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価シート(取りまとめ)

【 基本情報 】

|        |   |  |     |     |
|--------|---|--|-----|-----|
| 基本目標1  | 小金井の魅力発信し、交流人口の増加を図ることにより、地域の活性化につながるまち |  |     |     |
| 基本的方向2 | 小金井の魅力を発信するシティプロモーションの推進                |  |     |     |
| 指標     | 桜まつり等の来場者数                              |  | 担当課 | 経済課 |
| 指標の説明  | 桜まつり、阿波おどり大会・お月見のつどいの来場者数の合計            |  |     |     |

【 重要業績評価指標(KPI) 】

| 目標                | 結果 | 評価 | 結果の説明   | 次年度に向けての課題・展望  | 委員評価取りまとめ   |
|-------------------|----|----|---|--|---|
| 20年度<br>9871,000人 |    |    |   |  |   |
| 27年度<br>180,000人  | D  |    | 親光協会が実施するお月見のつどいは、市のイベントを同会場で行うことで来場者数を増やしたが、桜まつりは天候等に恵まれないため、来場者数が伸びなかつたため、結果に影響を及ぼしている。   | イベントの内容や市報及びHP以外の周知方法の導入の検討・調整を行い、市内のみならず、市外から来客できるようにすることが課題。来場者数は天候等に左右されるため、行事実施日に悪天候であった場合や桜の開花時期がずれた場合など、指標の達成は困難になることが考えられる。   | 天候の影響を避けて通ることはできないが、市外からの来場を促すための広報や新たなイベントとの連携を図るなど、天候に左右されて目標が達成できなかったというところがないほどのイベントを創造するべきである。 |
| 28年度<br>219,000人  | D  |    | 一般社団法人親光まちおこし協会が主催する桜まつりは、天候は曇りだったものの桜の開花状況には恵まれて実施。平成28年度から開催期間を変更(3日間→2日間)したこともあり、来場者数に影響が出ている。<br>お月見のつどいでは、協会単独で熱気球(平成27年度に市のイベント事業で実施し、好評を得た)を実施したこともあり、多数の来場者が訪れた。<br>阿波おどり振興協議会が主催する阿波おどり大会では、天候等にも恵まれ、前年度と同様に好評を得た。 | 桜まつりについて、2日間という中で、いかに来場者数を増やしていくかは、引き続き課題である。平成29年度については、「東京2020オリンピック・パラリンピックラグッツア一歓迎セレモニー」と同時開催するなどの工夫を行う。<br>お月見のつどいでは、第50回記念として特別な装飾等の実施を検討する。<br>阿波おどりの場合、天候に左右されない新たなイベントとの連携や市外からの来場者を増やすための新たな広報活動を行うことは、今後の課題である。 | 開催時期や天候等の諸条件がある中で、集客の工夫を実施している。目標達成に向け、大学生などの若者の意見を取り入れた企画や、ジェイコム等の積極的な活用により広報面の充実に取り組んでいただきたい。     |

|      |   |              |   |   |  |  |   |   |   |
|------|---|--------------|---|---|--|--|---|---|---|
| 29年度 | ↓ | 215,000<br>人 | D | <p>小金井市観光まちおこし協会が主催する桜まつりは、桜の開花状況が2～3分咲きであったこと及び2日間のうち初日が雨に見舞われたため、来場者数に影響が出た。</p> <p>お月見のつどいは2日間とも天候に恵まれ、2日目が都民の日と重なったため、これまでない来場者数であった。</p> <p>阿波踊り振興協議会が主催する阿波踊り大会では、天候等にも恵まれ、前年度と同様に好評を得た。</p> <p>なお、平成29年度より、第二庁舎1階待合場所に設置したパネルにてイベント情報を放映し周知した。</p> | <p>平成30年度は小金井市市制施行60周年に合わせて、桜まつりと阿波踊り大会において記念事業を実施する予定である。天候等の影響は免れないところであるため、引き続きイベント内容及び周知の方法について検討を行っていく。</p>                           | <p>雨による来場者数減はやむを得ない。毎回新たな仕掛けを用意し、趣向を凝らしたイベントとすることが必須であろうと考える。また、前年度評価と同様、若者の意見を取り入れたり、シェアコム等の地域情報ネットワークとの連携も積極的に検討してもらいたい。</p> |   |   |   |
| 30年度 | ↓ | 289,000<br>人 | B | <p>小金井市観光まちおこし協会が主催する桜まつりは、2日間とも天候及び開花状況に恵まれ、過去3年間で最大の来場者数となった。お月見のつどいは2日間とも天候に恵まれ、多数の来場者が訪れた。</p> <p>阿波踊り振興協議会が主催する阿波踊り大会は、2日間のうち初日が荒天のため中止となり、2日目のみの開催であったため、来場者数に影響が出た(桜まつりは平成30年3月31日、4月1日実施分)。</p>   | <p>イベントの在り方を工夫されることが重要で、再編・統合の源には初心に戻って検討を希望したい。イベントも大勢だが名勝(壺井(ウケウ))の週末の復活や緑道の整備も重要では？</p> <p>努力を評価。</p>                                   | <p>来場者増は評価する。お月見のつどいについては他のイベントとの再編・統合とあるが、その際にも初心に帰って検討をお願いするとともに新たな魅力あるイベントや天候に左右されないイベントを考えて欲しい。</p>                        |   |   |   |
| 31年度 | ↓ | 380,000<br>人 |   |   | <p>屋外イベントは天候等の影響は免れないところであるが、観光まちおこし協会と連携しイベント内容及び周知方法の強化を図る。</p> <p>お月見のつどいについては、他のイベントとの再編・統合を検討しており、令和2年度から新イベントとして開催できるよう準備を進めている。</p> | <p>来場者数が増えなかったため</p> <p>来場者数が増えたとあるが、新たな魅力あるイベントや天候に左右されないイベントを考えて欲しい。</p> <p>来場者数が大幅増を評価したい</p>                               |   |   |   |
|      |   | 合計           |   | 0   | 7  | △  | 2 | x | 0 |

まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価シート(取りまとめ)

【基本情報】

|       |   |     |           |
|-------|---|-----|-----------|
| 基本目標  | 小金井の魅力発信し、交流人口の増加を図ることにより、地域の活性化につながるまち |     |           |
| 重点的方針 | 小金井の魅力を発信するシティプロモーションの推進                |     |           |
| 指標    | 市民交流センターの稼働率                            |     |           |
| 指標の説明 | 市民交流センターの有効区分数における貸出区分数の割合              |     |           |
|       |   | 担当課 | コミュニティ文化課 |

【重要業績評価指標(KPI)】

| 目標                 | 結果 | 評価 | 結果の説明   | 次年度に向けての課題・展望   | 委員評価取りまとめ   |
|--------------------|----|----|---|---|---|
| 26年度<br>84.4%      |    |    |   |   |   |
| 27年度<br>↓<br>86.0% |    | A  | <p>貸館運営については、稼働日率は100%、区分数による稼働率で86.0%(マルチパーパスベースを除く。)であった。平成27年度は本格的な運営の4年目であり、かつ、指定管理者による運営の第2期初年度でもあるため、更なる安定運営に努めた。</p>   | <p>貸館運営については、高水準を維持しており、非常に評価できる。大ホール、和室の貸出区分数による稼働率をさらに高めていきたい。自主事業については、情報が入っていない「知らない声」という声がいまだにあるため、広報・宣伝の強化を図る。一方、企画性、話題性の高い主催事業には、市外からも多くの来場者を集めており、さらなる広報・宣伝活動により、市外広域での交流センターの認知と評価を高めることで、小金井市の文化的イメージアップに貢献する。また、次年度は、平成27年度から付与された愛称(小金井宮地蔵堂ホール)の市民への定着もしてきており、指定管理者第2期目(平成27年度～)の2年目として、サービスの質の維持・向上を図った上で、更なる安定運営に努めたい。</p>      | <p>高稼働率を維持している一方、その使われ方の質の評価も重要である。どのような方々が利用されているのか中身を精査していく必要もあり、ブランド力の向上も進める必要がある。</p>   |
| 28年度<br>↓<br>85.7% |    | A  | <p>貸館運営については、稼働日率は100%、区分数による稼働率で85.7%(大ホール:73.9%、小ホール:84.9%、ギヤラリー:77.9%、練習室1~4:94.3%、和室)であり、特に音楽利用、式典・講演会・講習会利用、展示利用が多かった。平成28年度は本格的な運営の5周年を迎える年であり、かつ、指定管理者による運営の第2期2年目となり、更なる安定運営に努めた。</p> | <p>貸館運営については、高水準を維持している。大ホール、小ホールの利用率は前年よりも上昇しており、マルチパーパスベースを活用した展示による利用も増加した。自主事業については、ホールの特性を活かす施設と差別化を図りながら、内容を厳選して実施するとともに、来場者アンケートの結果等も参考にし、近隣地区と連携の強化を図りたい。一方、企画性、話題性の高い主催事業には、市外からも多くの来場者を集めており、さらなる広報・宣伝活動により、市外広域での交流センターの認知と評価を高めることで、小金井市の文化的イメージアップに貢献すること、次年度は、指定管理者第2期目(平成27年度～)の3年目として、サービスの質の維持・向上を図った上で、更なる安定運営に努めていきたい。</p> | <p>高稼働率を維持しており、安定した運営を実施出来ている。特定の団体の既得権として優先使用にならないよう留意し、引き続き取り組んでいただきたい。近隣施設との差別化を図るため特徴やブランド力の向上に引き続き取り組んでいただきたい。サービスの質の向上とあるが具体的に何を実施し、どのような効果があるのか、記載して欲しい。</p> |



まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価シート(取りまとめ)

【基本情報】

|        |  |
|--------|--|
| 基本目標1  | 小金井の魅力を発信し、交流人口の増加を図ることにより、地域の活性化につながるまち     |
| 基本方針第2 | 小金井の魅力を発信するシティプロモーションの推進                     |
| 指標     | はげの森美術館の入館者数                                 |
| 指標の説明  | はげの森美術館にて開催した展覧会の観覧や、ワークショップ等に参加するために入館した方の数 |
| 担当課    | コミュニティ文化課                                    |

【重要業績評価指標(KPI)】

| 目標   | 結果     | 評価 | 結果の説明   | 次年度に向けての課題・展望  | 委員評価取りまとめ   |
|------|--------|----|---|--|---|
| 26年度 | 5,546人 |    |   |  |   |
| 27年度 | 6,454人 | A  | <p>甲田孫一展は、共同巡回展以外の館単独企画展としては過去最高の入館者数3,624人を記録した。これは、甲田孫一の多彩な業績に負うものであり、昨年度に続き、助成金による広報活動を十分にできたことの結果である。昨年度から引き続き、多くの入館者を得たことに加え、当館主催の展覧会への期待度は高まっていると考えられる。しかしながら、助成金の活用をしながらの運営であるので、恒常的に市民の期待に応えられる展覧会を維持していくのは、財政的にも厳しいものがあると考ええる。</p>   | <p>所蔵作品展の開催だけでは入館者増を望むことは難しく、目標値を継続してクリアすることは難しい。26年度からは企画展を年2回開催に戻した。美術品輸送等の経費が多かかると、企画展と所蔵作品展との組み合わせができていない。来館者の足を運ぼうという気持ちで呼び起こすことができない。助成金は毎年確実に獲得できるものではなく、不確定要素であるので、個人確保の基盤にはなり得ない。緊急雇用創出事業も直接雇用が認められなくなり、非常勤学芸員2名の週4日勤務で6日の開館を支えるのにも限界があり、専業のクオリティを維持することが難しくなっている。引き継ぎ休館日を週2日にするなどの工夫を検討していきたい。</p>               | <p>市民参加型の美術館企画や学校の美術・情操課程と連動させ、はげの森美術館の存在価値をさらに上げることが必要である。また、飲食の場の提供など、展覧会以外にも入館者数を増やす工夫が必要である。</p>  |
| 28年度 | 4,207人 | D  | <p>平成28年度は、開館10周年にあたるため、記念の企画展を2回予定していたが、そのうち1回が、年度当初の暫定予算の影響を大きく受け、展覧会の規模の縮小を余儀なくされた。効果的な広報活動もまったく行えず、予定していたメイン作品の借用もできなかったため、企画展としては異例の少ない入館者数となってしまった。秋の企画展で、ようやく10周年記念らしい展覧会を開催することができ、来館者数も増えたが、一昨年度から引き続き、多くの入館者を得て、当館主催の展覧会への期待度が高まっているところへのダメージの大きさには形のないものがある。改めて、広報活動の重要性を痛感したところであるが、助成金を活用しながらの運営であるの、特に広報活動のよ方に形のないものへの投資は、財政的な認知に厳しいものがある。教育普及活動では、市立小学校全校における4年生の鑑賞教室と市立中学校(希望校)における職場体験学習を受け入れている。希望する小学校には学芸員が同行して事前授業なども行っているが、非常勤学芸員2名の週4日勤務という体制の中では、これ以上の受け入れは難しく、限界である。<br/>平成28年3月末で前事業者が撤退した喫茶棟は、公認により新しい事業者を決定し、平成29年3月の所蔵作品展開始と同時に、営業を再開した。</p> | <p>所蔵作品展の開催だけでは入館者増を望むことは難しく、目標値を継続してクリアすることは難しい。<br/>助成金を活用しながら、専業のクオリティを維持する運営であるが、助成金は毎年確実に獲得できるものではなく、不確定要素であるので、個人確保の基盤にはなり得ない。例年の課題である。28年度未から、喫茶棟(旧中村研一邸)での飲食の提供が再開された。喫茶棟運営事業者との協定を結び、双方が連携し、美術館本体、喫茶棟、茶室などの建物及び美術の森緑地のロケーションなどを一体とした魅力を引き出し、当地の美術館ならではの特色ある企画・運営及び建物の有効活用を行い、何れも足を運んでももらえる場、空間の魅力を展開を考えていきたい。</p> | <p>利用者の大幅な減少は大変残念に思う。その中でも、小・中学校の鑑賞教室や職場体験学習を実施しており、継続して取り組んでほしい。さらに、喫茶店の再開も実現し、魅力の創出に期待したい。予算的な課題により単独取組は難しいものの、周辺施設との協働や地域イベントとの連携などを工夫し、広報活動に取り組みんでいただきたい。</p> |

29年度 1 3,959人 D

平成29年度は、はげの森美術館初となる2人の作家、伊東深木と、児島善三郎の企画展を行った。所蔵作品展は、開館以来の寄付作品を中心にしたもの、中村研一の没後50年を偲ぶものを行った。補助金を財源に新聞、雑誌等への広報活動を行ったり、雨の日に来館してくれる方への特典などを行ったが、昨年度からの来館者の減少は食い止めることができなかった。

平成29年3月より再開した附属喫茶は、当初は、なかなか客足が伸びず、利用者が少ずつ増えている。展覧会毎に美術館との相互サービスの工夫なども行い、3月の所蔵作品展の前には、プレ企画として、附属喫茶にて、建築についてのトークイベントを開催し、大変盛況であった。

30年度 1 4,807人 D

平成30年度の企画展は、一般財団法人地域創造の助成による市町村立美術館活性化事業第18回共同巡回展「絵画で国立公園めぐり」一巨匠が描いた日本の風景」と、台東区所蔵の法隆寺聖画、敦煌高窟壁画の模写を展示した「ぼとけをえがく、そしてうつす」を開催した。所蔵作品展は、年度を跨いだ中村研一の没後50年を偲ぶものと、緑地にある研一旧宅と茶室が国登録有形文化財(建造物)に登録されたことを記念し、「茶」をテーマにしたものを行った。文化財登録を記念して行った、ハーピスト吉野直子氏によるギョラリーコンサートは、大変好評であり、今後の継続した開催を望む声が多かった。附属喫茶との連携では、引き続き相互サービスを進めるとともに、各展覧会にちなんだスイーツの提供の他、ギョラリーコンサートや、講演会参加者のための特別メニューによるアフタートータイムを設けるなど、美術館を訪れることにプラスされる楽しみ方を工夫した。

31年度 5,900人

美術館の立地状況から、雨の日や、夏季は客足が伸びない。そのため、来年度も夏季の雨の日の来館者への特典は引き続き行い、夏季の来館者増への工夫を行っていく。

広報費用については、全体の90%を助成金を活用していたが、来年度については、獲得できなかったもので、広報媒体が大幅に縮小することとなる。助成金は毎年確実に獲得できるものではなく、不確定要素であるので、歳入確保の基盤にはなれない。例年の課題であるが、広報費用については、今後予算算成時に何らかの対応が必要になることを考える。唯一の広報媒体であるチラシ、ポスターの配布を展覧会前に余裕を持って行えるようスケジュール調整を綿密に行うことで少しでも広報効果が上がるようにしていきたい。

美術館だけのイベントでは距離的不利を克服し、雨の日や、夏季は客足が伸びない。そのため、来年度も夏季の雨の日の来館者への特典は引き続き行い、夏季の来館者増への工夫を行っていく。

広報費用については、全体の90%を助成金を活用していたが、来年度については、獲得できなかったもので、広報媒体が大幅に縮小することとなる。助成金は毎年確実に獲得できるものではなく、不確定要素であるので、歳入確保の基盤にはなれない。例年の課題であるが、広報費用については、今後予算算成時に何らかの対応が必要になることを考える。唯一の広報媒体であるチラシ、ポスターの配布を展覧会前に余裕を持って行えるようスケジュール調整を綿密に行うことで少しでも広報効果が上がるようにしていきたい。

年度途中で確保できた東京の多様性を活かした観光まちづくり推進支援事業費補助金を活用し新聞、雑誌、インターネット等の広報活動をしたり、昨年引き続き雨の日に来館していただける方への特典などをを行った。秋以降は国登録有形文化財(建造物)への登録のニュースによる来館者もあり、5,000人台には届かなかったものの、4,000人台後半まで来館者を回復させ、減少傾向に一定の阻止めをかけることができた。

来年度も夏季の雨の日の来館者への特典は引き続き行い、夏季の来館者増への工夫を行っていく。

広報費用については、全体の90%を助成金を活用していたが、来年度については、獲得できなかったもので、広報媒体が大幅に縮小することとなる。助成金は毎年確実に獲得できるものではなく、不確定要素であるので、歳入確保の基盤にはなれない。例年の課題であるが、広報費用については、今後予算算成時に何らかの対応が必要になることを考える。唯一の広報媒体であるチラシ、ポスターの配布を展覧会前に余裕を持って行えるようスケジュール調整を綿密に行うことで少しでも広報効果が上がるようにしていきたい。

入館者数の減少傾向は残念であるが、プレ企画や附属喫茶との連携など、来場者の裾野を広げる工夫がみられる。観光協会や周辺施設との連携も視野に入れ、引き続き改善策を検討してもらいたい。

|     |             |  |
|-----|-------------|--|
| 遠 遷 | ○           | この美術館だけのイベントでは距離的不利を克服し、雨の日や、夏季は客足が伸びない。そのため、来年度も夏季の雨の日の来館者への特典は引き続き行い、夏季の来館者増への工夫を行っていく。                                    |
| 小 川 | △           | はげの森美術館の入場者数の目標6000人のための企画を市民から募集してはどうか。   |
| 松 本 | ○           | 努力を評価 (資料目標5900人(週)20人、日20人)だが、人数確保か?収入確保か?人数確保であれば、希少な球技を生かして文化的なセミナー・イベントとして、あるいは学習室として開放することも考えられる。夏には、インスタ映を演出してもいいのでは。) |
| 陽 下 | ○           | 小金井市の貴重な美術館でありながら予算をたてて広報を継続し、来館者数を空気にさせてほしい   |
| 橋 田 | △           | SNS等を活用し、費用が少なく中で広報のあり方を工夫すべき  |
| 本 間 | △           |  |
| 山 本 | △           | 助成金に頼らない広報を構築してほしい。  |
| 小 宮 | △           | 入館者増は評価。予算に左右されない広報活動を考えた方がいいのでは。  |
| 天 野 | △           |  |
| 合 計 | ○ 3 4 6 x 0 |  |

はげの森美術館の入場者数の目標6,000人達成するために周辺の環境(野川やその付帯設備)を用いるイベントとの連携や市民からの募集を考えてはどうか。

はげの森美術館の入場者数の目標6000人達成のために、努力を評価 (資料目標5900人(週)20人、日20人)だが、人数確保か?収入確保か?人数確保であれば、希少な球技を生かして文化的なセミナー・イベントとして、あるいは学習室として開放することも考えられる。夏には、インスタ映を演出してもいいのでは。)

小金井市の貴重な美術館でありながら予算をたてて広報を継続し、来館者数を空気にさせてほしい

SNS等を活用し、費用が少なく中で広報のあり方を工夫すべき

助成金に頼らない広報を構築してほしい。

入館者増は評価。予算に左右されない広報活動を考えた方がいいのでは。

まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価シート(取りまとめ)

【基本情報】

|        |  |     |     |
|--------|--|-----|-----|
| 基本目標1  | 小金井の魅力を発信し、交流人口の増加を図ることにより、地域の活性化につながるまち |     |     |
| 基本的方向2 | 小金井の魅力を発信するシティプロモーションの推進                 |     |     |
| 指標     | 滞在人口(休日9-17の滞在人口)                        | 担当課 | 経済課 |
| 指標の取扱い | 休日の9時から17時までにおける市内の滞在人口                  |     |     |

【重要業績評価指標(KPI)】

|      | 目標                   | 結果 | 評価 | 結果の説明   | 次年度に向けての課題・展望   | 委員評価取りまとめ  |
|------|----------------------|----|----|---|---|--|
| 26年度 |                      |    |    |   |   |  |
| 27年度 |                      |    |    |   |   |  |
| 28年度 | 105,000人             | -  | -  | <p>地方創生加速化交付金事業「RESAS等を活用したごづくり事業の深化・拡大事業」の3本の事業軸のうち、「江戸東京」テーマによる滞在型ビジネスの創出の横展開として、当該年度の事業実施内容及びその成果をもとに、2年目、3年目の事業計画を策定した。</p>   | <p>平成28年度に策定した「江戸東京でおもてなし事業」の事業計画をもとに、滞在型ビジネスの深耕を図るため、地域のステークホルダーで立ち上げる協議会での企画立案とモデル事業を支援する。併せて、市内事業者による事業展開を支援するシティプロモーション用コンテンツ作りとプロモーションイベントを実施する。</p> |  |
| 29年度 | 110,000人<br>112,144人 |    | B  | <p>平成28年度に策定した「江戸東京でおもてなし事業実施ビジョン」に基づき、「江戸東京」テーマによるシティプロモーションの推進及び「江戸東京」テーマを核とした滞在(時間消費)型ビジネスの創出・拡大を2つの柱として事業を実施した。</p> <p>主な事業としては、プロモーションビデオの制作、江戸東京野菜のPR、市内回遊促進イベントの謎解きクイズラリー、今昔まちあるきツアーなどを実施し、市の魅力向上を図った。</p> | <p>29年度に実施した事業をベースに引き続き事業を実施していく。</p> <p>将来的に事業の一部自走を目指すため、謎解きクイズラリー等においては、収入を得ていく仕組みについても研究していく。</p>   | <p>年度の目標は達成されており、様々な取組を行った点が評価できる。若者の意見を取り入れられたり、転入者・子どももいる世帯をターゲットにするなど、他自治体の事例も参考にしながら積極的な仕掛けづくりを引き続き行ってほしい。</p> |

| 30年度 | 115,000人 | 112,160人 | 8人 | 平成28年度に策定した「江戸東京でおもてなし事業実施ビジョン」に基づき、「江戸東京」テーマによるシティプロモーションの推進及び「江戸東京」テーマを核とした滞在(時間消費)型ビジネスの創出・拡大を2つの柱として事業を実施した。主な事業としては、昭和30年～40年代の音博かしい写真を題材にしたPR冊子の製作、江戸東京野菜のPR、市内回遊促進イベントの謎解きクイズラリー、今昔まちあるきツアーなどを実施し、市の魅力向上を図った。 | 平成30年度において国の補助事業計画期間は終了となるが、まちおこし協会等の関係団体と連携しながら、引き続き市の魅力向上を図るため、一般財源で必要な事業を継続していく。 | 継続的にこの人口を増やすためには単発的なイベントでは限界がある。小金井における経済活動、文化活動などを総動員して取り組むべきと思ふ。<br>多様な企画が同日に実施されることのないように各団体等の連携が重要と考える。<br>市の人口と同数の滞在客をどう評価すればよいのか？併せて、市境域からの出入りを計測する副次的データや、市民以外の利用状況を示すサンプル調査などが必要ではないか。<br>引き続き滞在型ビジネスを実施できることを期待する | △ | △ | △ | ○ | ○ | △ | △ | △ | △ | △ | △ | △ | △ | △ |
|------|----------|----------|----|--|---|--|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 渡邊   |          |          |    |  |   |  |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
| 小川   |          |          |    |  |   |  |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
| 松本   |          |          |    |  |   |  |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
| 嶋下   |          |          |    |  |   |  |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
| 橋田   |          |          |    |  |   |  |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
| 本間   |          |          |    |  |   |  |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
| 山本   |          |          |    |  |   |  |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
| 小宮   |          |          |    |  |   |  |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
| 天野   |          |          |    |  |   |  |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
| 合計   |          |          |    |  |   |  |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
| 0    | 2        | △        | △  | 7  | x   | 0  |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |

継続的にこの人口を増やすためには単発的なイベントでは限界がある。小金井における経済活動、文化活動などを総動員して取り組むべきと思ふ。  
多様な企画が同日に実施されることのないように各団体等の連携が重要と考える。  
市の人口と同数の滞在客をどう評価すればよいのか？併せて、市境域からの出入りを計測する副次的データや、市民以外の利用状況を示すサンプル調査などが必要ではないか。  
引き続き滞在型ビジネスを実施できることを期待する

平成28年度に策定した「江戸東京でおもてなし事業実施ビジョン」に基づき、「江戸東京」テーマによるシティプロモーションの推進及び「江戸東京」テーマを核とした滞在(時間消費)型ビジネスの創出・拡大を2つの柱として事業を実施した。主な事業としては、昭和30年～40年代の音博かしい写真を題材にしたPR冊子の製作、江戸東京野菜のPR、市内回遊促進イベントの謎解きクイズラリー、今昔まちあるきツアーなどを実施し、市の魅力向上を図った。

平成30年度において国の補助事業計画期間は終了となるが、まちおこし協会等の関係団体と連携しながら、引き続き市の魅力向上を図るため、一般財源で必要な事業を継続していく。

まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価シート(取りまとめ)

|       |  |
|-------|--|
| 基本情報  | 小金井の魅力を生かし、交流人口の増加を図ることにより、地域の活性化につながるまち |
| 基本方針  | 多様な主体の交流、協働、連携を生み出す地域の実現                 |
| 指標    | 市民協働支援センター準備室の相談件数                       |
| 指標の説明 | 市民協働支援センター準備室で受けた相談件数                    |
| 担当課   | コミュニティ文化課                                |

【重要業績評価指標(KPI)】

| 年度   | 目標  | 結果   | 評価 | 結果の説明   | 次年度に向けた課題(要望)  | 委員評価取りまとめ   |
|------|-----|------|----|---|--|---|
| 26年度 | 71件 |      |    |   |  |   |
| 27年度 | ↓   | 115件 | A  | 市民協働支援センターの設置は、場所的問題、財政的問題等から早急な対応は難しいものの市民協働支援センター準備室を設置し、①市民協働・市民活動等に関する相談、②市民活動団体等と行政の間や市民活動団体相互間の協働のコーディネート、③市民協働に関する各種会合・行事等への参加・協力、④市民活動・市民協働についての情報の収集・発信、⑤市民協働の推進に向けた仕組み等の検討、⑥市民活動団体リストの管理などを行った。相談件数は115件あり、一定の効果を出している。   | 現下の厳しい財政状況、小金井市新庁舎建設基本計画等、他の計画等との整合性を十分に踏まえつつ、長期的視点に立って検討していく必要がある。市民協働支援センター準備室は、平成27年度には相談件数が115件となり、市民協働に関する各種会合、行事等に参加・協力するほか、各種コーディネート、ブログ等による情報発信等を行っている。(仮称)市民協働支援センターの整備ができるまでの間は、本準備室を活用していく。なお、福祉会館閉館に伴う本準備室の移転に関しては、開所情報の周知を図り、市民に影響が生じないよう努めていく。               | 準備室の努力は評価できるものの、市民の自己実現の場として行政の仕事のお手伝いは、単に市役所における人手不足解消と本質的に異なる。今後は、相談内容を分析し、新たな動きを支援できる体制を整備していく必要がある。 |
| 28年度 | ↓   | 147件 | A  | 市民協働支援センター準備室は平成28年度以下の項目を中心に活動を実施した。<br>①市民協働・市民活動についての相談<br>②市民活動団体等と行政の間や市民活動団体相互間の協働のコーディネート<br>③市民協働に関する各種会合・行事等への参加・協力<br>④市民活動・市民協働についての情報の収集・発信<br>⑤市民協働の推進に向けた仕組み等の検討<br>⑥市民活動団体リストの管理<br>平成28年度から始めた協働事業提案制度の関連相談が延べ55件あったことも影響し、相談件数は計147件に伸び、市民協働の新たなきっかけ作りの一翼を担った。<br>なお、福祉会館閉館に伴う本準備室の移転については、事前周知に努めたことで、スムーズに対応できた。 | 市民協働支援センター準備室は、平成28年度には相談件数が147件となり、市民協働に関する各種会合、行事等に参加・協力するほか、各種コーディネート、ブログ等による情報発信等を行っている。相談件数の増加・維持を目指し、今後も協働事業提案制度の提案に関する相談業務を継続していく。更に協働が推進される地域にしていきたいための課題としては、(仮称)市民協働支援センターの整備が最たるものであるが、現状の厳しい財政状況、小金井市新庁舎建設基本計画等、他の計画等との整合性を十分に踏まえながら、長期的視点に立って検討していく必要があると考える。 | 施設の閉鎖、移転の中で相談件数が増加したことを評価したい。今後は支援の質の向上と支援メニュー拡充を図り、地域の課題を地域自らが解決していく体制を構築していただきたい。                     |

|      |      |      |   |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |   |   |   |   |   |   |    |  |  |  |  |
|------|------|------|---|--|--|--|----|---|--|--|--|--|--|--|--|--|--|----|---|--|--|--|--|--|--|--|--|--|----|---|--|--|--|--|--|--|--|--|--|----|---|--|--|--|--|--|--|--|--|--|----|---|--|--|--|--|--|--|--|--|--|----|---|--|--|--|--|--|--|--|--|--|----|---|--|--|--|--|--|--|--|--|--|----|---|--|--|--|--|--|--|--|--|--|----|---|--|--|--|--|--|--|--|--|--|---|---|---|---|---|---|----|--|--|--|--|
| 29年度 | 1    | 152件 | A | <p>市民協働支援センター準備室は平成29年度以下の項目を中心に活動を実施した。</p> <p>①市民協働・市民活動についての相談<br/>②市民活動団体等と行政の間や市民活動団体相互間の協働のコーディネート<br/>③市民協働に関係する各種会合・行事等への参加・協力<br/>④市民活動・市民協働についての情報の収集・発信<br/>⑤市民協働の推進に向けた仕組み等の検討<br/>⑥市民活動団体リストの管理</p> <p>昨年度と同様に協働事業提案制度の関連の相談が多く、延べ51件あった。</p> | <p>市民協働支援センター準備室は、平成29年度は相談件数が152件となった。市民協働に関する各種会合、行事等に参加・協力するほか、各種コーディネート、ブログ等による情報発信等を行ってきたが、今後はSNS等も活用して市民協働の推進に向けた仕組み作りを行っていく予定である。</p> <p>また、(仮称)市民協働支援センターの整備を行うための調査・検討を行い、(仮称)小金井市新福祉会館建設基本計画など、他の計画等との整合性を十分に踏まえながら、長期的視点に立って機能配置等の検討を行う。</p>  | <p>相談件数の増加率は、平成27年度から平成28年度は28%、平成28年度から平成29年度は3%と、頭打ちになっている中で市民への認知が進んでいると考えられる。今後は、長期的な視点に立って、着実にセンター整備を進めていきたい。</p>   |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |   |   |   |   |   |   |    |  |  |  |  |
| 30年度 | 1    | 179件 | A | <p>市民協働支援センター準備室は平成30年度以下の項目を中心に活動を実施した。</p> <p>①市民協働・市民活動についての相談<br/>②市民活動団体等と行政の間や市民活動団体相互間の協働のコーディネート<br/>③市民協働に関係する各種会合・行事等への参加・協力<br/>④市民活動・市民協働についての情報の収集・発信<br/>⑤市民協働の推進に向けた仕組み等の検討<br/>⑥市民活動団体リストの管理</p> <p>SNS等の活用による情報発信が増え、メールでの相談件数も多かった。</p>  | <p>市民協働支援センター準備室は、平成30年度は相談件数が179件となった。市民協働に関する各種会合、行事等に参加・協力するほか、各種コーディネート、ブログ等による情報発信等を実施した。また、SNS等の活用を開始して、さらなる情報発信に努め、市民協働の推進を図ることができた。</p> <p>(仮称)市民協働支援センターの整備については、(仮称)小金井市新福祉会館建設基本計画など、他の計画等との整合性を十分に踏まえながら、長期的視点に立って機能配置等の検討を継続して行っていくきたい。</p> | <p>件数は増加し、認知され、きており、その努力を評価する。人権・平和・男女共同参画の推進施策とも整合性があり、協働は行政にとっても市民にとっても重要なもので、総合的に強力を進めてほしい。</p>   |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |   |   |   |   |   |   |    |  |  |  |  |
| 31年度 | 100件 |      |   |  |  | <table border="1"> <tr> <td>渡邊</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>小川</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>松本</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>鴨下</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>橋田</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>本間</td> <td>△</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>山本</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>小宮</td> <td>△</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>天野</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>7</td> <td>△</td> <td>2</td> <td>x</td> <td>0</td> <td colspan="5">合計</td> </tr> </table> <p>協働は行政にとっても市民にとっても重要、総合的に強力を進めてほしい。</p> <p>人権・平和・男女共同参画の推進施策とも整合性がある。</p> <p>努力を評価</p> <p>認知されてきている結果が出てきているため</p> <p>件数は増加し、認知され、きており、その努力を評価する。人権・平和・男女共同参画の推進施策とも整合性があり、協働は行政にとっても市民にとっても重要なもので、総合的に強力を進めてほしい。</p> <p>取組の成果が出ている</p> | 渡邊 | ○ |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 小川 | ○ |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 松本 | ○ |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 鴨下 | ○ |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 橋田 | ○ |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 本間 | △ |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 山本 | ○ |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 小宮 | △ |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 天野 | ○ |  |  |  |  |  |  |  |  |  | ○ | 7 | △ | 2 | x | 0 | 合計 |  |  |  |  |
| 渡邊   | ○    |      |   |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |   |   |   |   |   |   |    |  |  |  |  |
| 小川   | ○    |      |   |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |   |   |   |   |   |   |    |  |  |  |  |
| 松本   | ○    |      |   |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |   |   |   |   |   |   |    |  |  |  |  |
| 鴨下   | ○    |      |   |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |   |   |   |   |   |   |    |  |  |  |  |
| 橋田   | ○    |      |   |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |   |   |   |   |   |   |    |  |  |  |  |
| 本間   | △    |      |   |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |   |   |   |   |   |   |    |  |  |  |  |
| 山本   | ○    |      |   |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |   |   |   |   |   |   |    |  |  |  |  |
| 小宮   | △    |      |   |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |   |   |   |   |   |   |    |  |  |  |  |
| 天野   | ○    |      |   |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |   |   |   |   |   |   |    |  |  |  |  |
| ○    | 7    | △    | 2 | x  | 0  | 合計   |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |   |   |   |   |   |   |    |  |  |  |  |

まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価シート(取りまとめ)

【基本情報】

|        |   |     |              |
|--------|---|-----|--------------|
| 基本目標   | 小金井の魅力発信し、交流人口の増加を図ることにより、地域の活性化につながるまち |     |              |
| 基本的方向① | 多様な主体の交流、協働、連携を生み出す地域の実現                |     |              |
| 指標     | 国際交流事業の参加人数                             | 担当課 | コミュニケーション文化課 |
| 指標の説明  | 国際交流事業に参加した人数                           |     |              |

【重要業績評価指標(KPI)】

| 年度   | 目標   | 結果   | 評価 | 結果の説明   | 次年度に向けての課題・展望   | 委員評価取りまとめ  |
|------|------|------|----|---|---|--|
| 26年度 | 190人 |      |    |   |   |  |
| 27年度 | I    | 271人 | B  | <p>昨年度中止となった事業を27年度において開催することができたため、参加者人数は増加した。</p>   | <p>うどん打ち体験会&amp;国際交流懇親会(平成26年度42人、平成27年度39人)ととも国際交流フットサル大会(平成26年度95人、平成27年度82人)は参加者が前年から減ってしまっただけで、平成28年度は多くの方々に参加していただけた。よう周知の強化を予定している。その他の事業についても、引き続き適切な経費削減について検討しながら、市民団体と連携して事業の充実を図っていききたい。</p>   | <p>国際交流の意義は、ローカルな文化の相互理解であり、この意義が具体化すれば結果として国際交流事業に参加する人数は増える。また、国際化で重要なことの一つは、小金井文化の世界への発信であることから、地元企業(料理店)などと協力して国際交流を図れるイベントを増やしていったらつとよ。</p>               |
| 28年度 | I    | 265人 | B  | <p>新たに平成28年度から、都との共催により「外国人おもてなし語学ボランティア」育成講座を開催した。前年度と比較すると参加者人数は全体で減少した。</p> <p>国際交流フットサル大会においては、新たに東京学芸大学の協力を仰ぎ、事業の充実を図った。</p> | <p>うどん打ち体験会&amp;国際交流懇親会(平成27年度39人、平成28年度34人)は参加者が前年から減ってしまっただけで、平成29年度は多くの方々に参加していただけた。よう周知の強化を予定している。また、先方との都合がつかず開催できなかつた事業もあり、各事業について引き続き適切な経費削減について検討しながら、市民団体と連携して事業の充実を図っていききたい。</p> <p>今後については、引き続き事業に協力してもらえる団体等を模索し、事業の充実及び参加者の増を図っていききたい。</p> | <p>うどん打ち体験会は参加者の減少や小金井の独自性も無く、具体的な周知の検討もなされていないため、再度検討していただきたい。</p> <p>市内大学等の留学生や、市内奉仕団体との連携を図り、周知の工夫等に取り組んで欲しい。また、オリンピック・パラリンピックも視野に入れて、他市を含めた取組を検討してほしい。</p> |

|      |  |   |  |   |   |   |  |  |                      |                      |                      |                      |                      |                      |
|------|--|---|--|---|---|---|--|--|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|
| 29年度 |  |   |  |   | <p>昨年までと同様に日本語スピーチコンテスト(参加者52人)・うどん打ち体験会(30人)・こと国際交流フットサル大会(115人)・「外国人おもてなし語学ボランティア」育成講座(2回開催:26人、33人)を開催した。</p> <p>「外国人おもてなし語学ボランティア」育成講座については平成29年度は11月の開催としていたが、参加者数を増やすために学生等が夏休み期間中の8月に開催していく予定である。</p>    | <p>昨年までと同様に日本語スピーチコンテスト(参加者48人)・うどん打ち体験会(32人)・こと国際交流フットサル大会(94人)・「外国人おもてなし語学ボランティア」育成講座(2回開催:36人、29人)を開催した。「外国人おもてなし語学ボランティア」育成講座については平成30年度は参加者数を増やすために学生等が夏休み期間中の8月に開催し、参加者が増加したため、今後も夏休み期間中に開催していく予定である。</p> | <p>昨年度に引き続き、都との共催により「外国人おもてなし語学ボランティア」育成講座を開催した。平成28年度は100人の参加者数であったが、平成29年度は59人の参加者数となり減少した。</p>          | <p>昨年度に引き続き、都との共催により「外国人おもてなし語学ボランティア」育成講座を開催した。この講座については平成29年度は59人の参加者数であったが、平成30年度は65人の参加者数となり、微増した。</p> | <p>256人</p> <p>B</p> | <p>239人</p> <p>B</p> | <p>299人</p> <p>B</p> | <p>299人</p> <p>B</p> | <p>299人</p> <p>B</p> | <p>299人</p> <p>B</p> |
| 30年度 |  |   |  |   | <p>昨年までと同様に日本語スピーチコンテスト(参加者48人)・うどん打ち体験会(32人)・こと国際交流フットサル大会(94人)・「外国人おもてなし語学ボランティア」育成講座(2回開催:36人、29人)を開催した。「外国人おもてなし語学ボランティア」育成講座については平成30年度は参加者数を増やすために学生等が夏休み期間中の8月に開催し、参加者が増加したため、今後も夏休み期間中に開催していく予定である。</p> | <p>昨年までと同様に日本語スピーチコンテスト(参加者48人)・うどん打ち体験会(32人)・こと国際交流フットサル大会(94人)・「外国人おもてなし語学ボランティア」育成講座(2回開催:36人、29人)を開催した。「外国人おもてなし語学ボランティア」育成講座については平成30年度は参加者数を増やすために学生等が夏休み期間中の8月に開催し、参加者が増加したため、今後も夏休み期間中に開催していく予定である。</p> | <p>昨年度に引き続き、都との共催により「外国人おもてなし語学ボランティア」育成講座を開催した。この講座については平成29年度は59人の参加者数であったが、平成30年度は65人の参加者数となり、微増した。</p> | <p>239人</p> <p>B</p>   | <p>239人</p> <p>B</p> | <p>239人</p> <p>B</p> | <p>239人</p> <p>B</p> | <p>239人</p> <p>B</p> | <p>239人</p> <p>B</p> |                      |
| 31年度 |  |   |  |   | <p>昨年までと同様に日本語スピーチコンテスト(参加者52人)・うどん打ち体験会(30人)・こと国際交流フットサル大会(115人)・「外国人おもてなし語学ボランティア」育成講座(2回開催:26人、33人)を開催した。</p> <p>「外国人おもてなし語学ボランティア」育成講座については平成29年度は11月の開催としていたが、参加者数を増やすために学生等が夏休み期間中の8月に開催していく予定である。</p>    | <p>昨年までと同様に日本語スピーチコンテスト(参加者48人)・うどん打ち体験会(32人)・こと国際交流フットサル大会(94人)・「外国人おもてなし語学ボランティア」育成講座(2回開催:36人、29人)を開催した。「外国人おもてなし語学ボランティア」育成講座については平成30年度は参加者数を増やすために学生等が夏休み期間中の8月に開催し、参加者が増加したため、今後も夏休み期間中に開催していく予定である。</p> | <p>昨年度に引き続き、都との共催により「外国人おもてなし語学ボランティア」育成講座を開催した。平成28年度は100人の参加者数であったが、平成29年度は59人の参加者数となり減少した。</p>          | <p>256人</p> <p>B</p>   | <p>239人</p> <p>B</p> | <p>239人</p> <p>B</p> | <p>239人</p> <p>B</p> | <p>239人</p> <p>B</p> | <p>239人</p> <p>B</p> |                      |
|      | <p>目標人数に達しておらず、参加者数は低減しており、例年と事業に変化がみられず残念である。新しい事業や既存事業を発展させた展開など、同じ人が毎年参加したくなるような工夫をしてもらいたい。</p> | <p>渡邊</p> <p>小川</p> <p>松本</p> <p>鴨下</p> <p>橋田</p> <p>本間</p> <p>山本</p> <p>小宮</p> <p>天野</p> <p>0</p> <p>3</p> <p>4</p> <p>5</p> <p>6</p> <p>7</p> <p>8</p> <p>9</p> <p>合計</p> | <p>小金井市と協定する大学には多くの留学生がいる。協定を活かす意味でも行政から大学に働きかけを強化すべき。</p> <p>施策38の文化交流の推進の国際交流事業の充実の実施を。</p> <p>2系列あるが、「外国人参加」系列の一層の充実を期待</p> <p>交流を活発にするためにもコンテツを増やすなど充実させることを期待する</p> <p>また、連携協定を結ぶ</p> <p>大学には多くの留学生がおり、協定を活かす意味でも行政から大学に働きかけを強化すべきである。</p> <p>交流を活発にするためにもコンテツを増やすなど充実させるべき。</p> <p>また、連携協定を結ぶ</p> <p>大学には多くの留学生がおり、協定を活かす意味でも行政から大学に働きかけを強化すべきである。</p> | <p>0</p> <p>3</p> <p>4</p> <p>5</p> <p>6</p> <p>7</p> <p>8</p> <p>9</p> <p>合計</p> | <p>0</p> <p>3</p> <p>4</p> <p>5</p> <p>6</p> <p>7</p> <p>8</p> <p>9</p> <p>合計</p>   | <p>0</p> <p>3</p> <p>4</p> <p>5</p> <p>6</p> <p>7</p> <p>8</p> <p>9</p> <p>合計</p>   |  |  |                      |                      |                      |                      |                      |                      |

まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価シート(取りまとめ)

【基本情報】

|       |   |     |       |
|-------|---|-----|-------|
| 基本目標  | 小金井の魅力発信し、交流人口の増加を図ることにより、地域の活性化につながるまち |     |       |
| 基本的方向 | 多様な主体の交流、協働、連携を生み出す地域の実現                |     |       |
| 指標    | 審議会等における公募市民の割合                         | 担当課 | 企画政策課 |
| 指標の説明 | 審議会等における構成委員のうち、公募市民が占める割合              |     |       |

【重要業績評価指標(KPI)】

|      | 目標    | 結果    | 評価 | 結果の説明   | 次年度に向けての課題・展望   | 委員評価取りまとめ  |
|------|-------|-------|----|---|---|--|
| 26年度 | 22.7% |       |    |   |   |  |
| 27年度 | I     | 22.9% | B  | 比較的公募市民の割合の高い審議会等が新設され、その際に無作為抽出で公募委員を選考するなど、多様な市民参加の推進について具体的な取組を実施したため審議会等への公募市民の割合は拡大したが、目標は達成しなかった。   | 公募委員の無作為抽出について、その実績を踏まえ、企画政策課内での審議会等の公募の際も試行的に実施した。今後、実施方法を全庁に周知していく。第5期推進会議から提出された提言を受け、若者をはじめとした多様な市民参加の拡大を図る方策を庁内で検討する。市民参加推進会議での提言を実施に移した場合、評価測定の方法がないなど見直しがつらく、不必要な制度についても残存する傾向にある。実施後のフォロー手法の検討も必要である。 | 審議会での公募市民の参加には限界があるが、一方で公募された委員は市に対する貢献の実感があると思われる。なお、アンケートや公聴会などの併用も有用ではないか、とする意見もある。 |
| 28年度 | I     | 23.0% | B  | 前年度の実績より評価結果は微増となったおり、市民公募については全庁的に継続して実施している。しかし、公募を行っても応募人員が定員に満たない場合も散見される状況である。各種審議会等により個別の事情があるものもあるが、引き続き公募市民の割合の向上を図るべく、関係各課への働きかけに努めていく。                  | 市民参加推進会議においては、若者(概ね30歳以下)の市政への参加が芳しくないのではないか、との議論があり、新たな手法としてワークショップの開催などが提案され、これらによる審議会委員への参加意欲が希薄だった年齢層への働きかけを行い、審議会参加への掘り起こしを行っている。  | 実際の公募市民になった方の感想など、市民がイメージしやすい工夫に取り組んでいただきたい。HPやSNSの活用などにより、更なる市民への周知に取り組んでいただきたい。      |
| 29年度 | I     | 23.2% | B  | 前年度と比較して、評価実績は微増となったおり、引き続き全庁を挙げた取組をしている。多様な市民の参加を促すにあたり、職員の理解を深めるために29年度中には全庁に対して「附属機関等における公募市民の無作為抽出による選出について」という事務連絡を発出した。公募市民の割合の向上に向けて、関係各課への働きかけに今後とも努めていく。 | 第6期市民参加推進会議において、若者の参加を念頭に置きつつも、より広範な市民参加を促すべく、地域課題等を議論するワークショップの実施とフィードバックを提言された。ワークショップの開催をきっかけとして、市政への興味関心を持ち、附属機関等の公募委員として参加していただけるよう、働きかけをしていく。   | 公募市民の占有率は微増しているものの、公平に民意が反映できるような配慮の下で提言の実現を目指し、さらに審議会終了後の継続的連携など、新たな働きかけを進めてもらいたい。    |

|      |   |       |   |   |  |  |  |   |   |
|------|---|-------|---|---|--|--|--|---|---|
| 30年度 | I | 22.9% | B | <p>26年度より上昇しているものの、昨年度より減少している。公募市民が減少しているというよりも、公募市民の入らない専門性の高い審議会が多く追加になり、分母が増えたことによる。引き続き無作為抽出の推進など全庁を挙げた取組をしている。公募市民の割合の上に向けて、特に若年層の市民参加について、市民参加推進会議での積極的な議論を進めた。関係各課への働きかけに今後とも努めた。</p> | <p>第7期市民参加推進会議において、若者の市民参加を進めるための手段等の検討を行っており、次年度になされる提言を受け、更なる市民参加を推進するための検討を行う。</p> <p>一方、公募市民の入らない審議会を対象とするかは次期の指標作成においては検討事項である。</p> | <p>審議会への市民参加の意識について、行政と参加しようとする市民の間で合理的に共有する仕組みが必要。お願ひする行政にも受けた市民にも責任がある。審議対象の範囲を明確にして何を審議するかを明確にして参加を中学生の市長への提言などとも関連をつけるとよいのではないか。</p> | <p>審議会への市民参加の意識について、行政と参加しようとする市民の間で合理的に共有する仕組みが必要。お願ひする行政にも受けた市民にも責任がある。審議対象の範囲を明確にして何を審議するかを明確にして参加を中学生の市長への提言などとも関連をつけるとよいのではないか。</p> |   |   |
| 31年度 | I | 30.0% |   |   |  |  |  |   |   |
| 渡邊   | △ |       |   |   |  |  |  |   | 0 |
| 小川   | △ |       |   |   |  |  |  |   | 0 |
| 松本   | △ |       |   |   |  |  |  |   | 0 |
| 鴨下   | ○ |       |   |   |  |  |  |   | 0 |
| 橋田   | △ |       |   |   |  |  |  |   | 0 |
| 本間   | △ |       |   |   |  |  |  |   | 0 |
| 山本   | △ |       |   |   |  |  |  |   | 0 |
| 小宮   | △ |       |   |   |  |  |  |   | 0 |
| 天野   | △ |       |   |   |  |  |  |   | 0 |
| 合 計  |   |       |   |   |  |  |  |   |   |
| 0    | 1 | △     | △ | △   | △  | △  | △  | x | 0 |

まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価シート(取りまとめ)

|        |  |
|--------|--|
| 【基本情報】 |  |
| 基本目標   | 多様な働き方ができ、安心して結婚・出産・子育てできるまち           |
| 基本方針   | 子どもを安心して産み育てることのできる環境の充実               |
| 評価項目   | 待機児童数                                  |
| 評価の範囲  | 保育所等への利用の申込みをしているが、定員超過等により利用できていない児童数 |
| 担当課    | 保育課                                    |

| 年度   | 目標        | 結果 | 評価 | 結果の説明   | 次年度に向けての課題・展望   | 委員評価取りまとめ   |
|------|-----------|----|----|---|---|---|
| 26年度 | 257人      |    |    |   |   |   |
| 27年度 | ↓<br>184人 |    | B  | 認可保育所、子ども・子育て支援新制度で新たに創設された小規模保育事業、家庭的保育事業の開設等により定員数を増やし、待機児童数は減少したが、目標は達成しなかった。  | 年々保育へのニーズが高まり、入所希望者数が増え、傾向がある。新規に保育施設を増やすだけでなく、既存の施設の定員拡充や企業の育休制度の充実などの政策対応を求めていることを含めて検討していく必要がある。   | 待機児童の95名減少は評価できるものの、国会で話題になった「メール」の思いを持つ人は少なくないと思われる。潜在的な数を想定して評価することにも、国の政策も変わりつつあるが現状のペースでは目標達成が難しく、強力に取り組むべき課題である。 |
| 28年度 | ↓<br>154人 |    | B  | 本市の喫緊の課題である待機児童解消に向け、平成28年度中に約4億円の補正予算を計上し、平成29年4月の保育施設の開設に取り組んだ。結果、新たに認定こども園1園、特定保育施設1園、小規模保育事業1園、家庭的保育事業1園、家庭福祉員1人の開設及び既存園の増築1園、公立保育園5園の定員拡充により保育の認可定員を229人拡大したところであるが、平成29年4月1日現在の待機児童数は156人、前年度比で2人増加し、ゼロという目標は達成しなかった。                   | 保育ニーズが依然高く、入所希望者数も増加傾向である。新規施設の開設だけでは追い付かない実態であり、引き続き既存の施設の定員拡充や企業の育休制度の充実などの政策対応を求めていること等検討していく。   | 積極的な予算措置を行った結果、定員229増を実現したことは評価したい。待機児童が増加した要因を分析し、今後の駅周辺の開発等に伴う人口増加といった、長期的な視点を持ち、引き続き強力に取り組んでいきたい。                  |
| 29年度 | ↓<br>156人 |    | B  | 平成29年4月1日時点の待機児童数が、前年よりも増加していたため、より一層の待機児童解消に向け、平成29年度中に約6億円の補正予算を計上し、平成30年4月までの保育施設の新規開設に取り組んだ。結果、平成29年10月に特定保育施設1園、平成30年4月に特定保育施設3園、小規模保育事業1園の開設及び既存園の定員拡充3園により、保育の認可定員を324人拡大した。平成30年4月1日現在の待機児童数は88人、前年度比で68人減少することができたが、ゼロという目標は達成しなかった。 | 前年4月1日時点と比べ、待機児童数は減少したが、依然0-2歳児クラスの待機児童数が多い。特に0-2歳児クラスの待機児童数が多いことに加え、3歳以上のクラスに欠員が多く生じていることや、地域によっては0歳児クラスに欠員が生じているなど、年齢及び地域による保育需要に差が生じている。 | 前年に引き続き、324人の定員増の実現は評価したい。今後も目標達成のための計画的な取組が重要であるとともに、児童数や状況の変化に即応できるよう、様々な検討を進めていきたい。                                |



まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価シート(取りまとめ)

【基本情報】

|        |                              |     |
|--------|------------------------------|-----|
| 基本目標?  | 多様な働き方ができ、安心して結婚・出産・子育てできるまち |     |
| 基本的方向? | 子どもを安心して産み育てることのできる環境の充実     |     |
| 指標     | 認定こども園の設置数                   | 担当課 |
| 指標の説明  | 認定こども園の設置数                   | 保育課 |

【重要業績評価指標(KPI)】

| 目標   | 結果 | 評価 | 結果の説明  | 次年度に向けての課題・展望  | 委員評価取りまとめ   |
|------|----|----|--|--|---|
| 26年度 | -  | -  | -  | -  | -   |
| 27年度 | 0園 | C  | 開園を希望する運営業者からの相談などにより、平成27年度での開設を検討したが、平成27年度での開設はなかった。                    | 平成27年度の開園はできなかったが、開園を希望する運営業者より相談を受け、これに基づき協議を重ねた結果、平成29年4月の開園に向け、取り進むこととなった。      | 目標に向けて取り組んでいることは評価できるが、子ども・子育て会議の答申などとの関連性を重視する必要がある。                     |
| 28年度 | 0園 | C  | 平成29年4月の開設に向け、開設補助や児童の募集・入所等の開設準備業務を行い、適切に開設準備を進めることができた。                  | 市内初の幼保連携型認定こども園(定員計120人。保育部分81人、幼稚園部分39人。)であり、平成29年4月以降の運営等について適宜サポート等を行っていく必要がある。 | 計画的に進捗しており、評価したい。開園後のサポートと併せて、優先度の高いテーマであるため、目標達成後も引き続き拡充に向けて取り組んでいただきたい。 |
| 29年度 | 1園 | A  | 平成29年4月1日に市内初の幼保連携型認定こども園である小金井けやきの森認定こども園(定員120人、保育部分81人、幼稚園部分39人。)を開園した。 | 安定した運営を行ってもらうため、公定価格を含む各種補助金等による経済的な支援、及び、指導検査等を通じての運営的な支援を行っていく。                  | 目標を達成し、素晴らしい成果と考える。より安定的かつ魅力的な園の運営ができるよう、支援していただきたい。                      |

| 30年度 | 1園 | A | 小金井市民間保育所等に対する補助要綱等に基づいた各種補助金の交付及び園の運営に関する指導等を行うことで、園の安定的な運営の支援を行った。 | 園の安定的な運営のための支援を継続していく。 | 渡邊 ○<br>小川 ○<br>松本 △<br>鴨下 ○<br>橋田 ○<br>本間 △<br>山本 ○<br>小宮 ○<br>天野 ○ | 安定運営の支援はまさしく妥当です。<br>内容の継続的実施や充実のために確実な予算を確保したい。<br>29年度に目標を達成した後の年の評価をどうすべきか？<br>安定運営は素晴らしいが、指標は設置数から質の方へ振るべき<br>目標達成しており、評価できる。<br>引き続きの支援を。<br>引き続き安定的な運営のための支援を行っていただきたい | 0<br>7<br>△<br>2<br>×<br>0 | 0<br>×<br>0 |
|------|----|---|--|------------------------|--|--|----------------------------|-------------|
| 31年度 | 1園 |   |  |                        |  | 目標達成後の安定運営のための支援は評価できるといふ意見と目標達成後の評価についてはどうすべきかとの意見がある。  |                            |             |
| 合 計  |    |   |  |                        |  |  |                            |             |

まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価シート(取りまとめ)

【基本情報】

|                 |  |
|-----------------|--|
| 基本目標2           | 多様な働き方ができ、安心して結婚・出産・子育てができるまち                  |
| 事業の方向性          | 子どもを安心して産み育てることのできる環境の充実                       |
| 指標              | 子育て支援ネットワークの参加団体数                              |
| 指標の説明           | 小金井子育て・子育て支援ネットワーク協議会の加入団体数・要保護児童対策地域協議会の参加機関数 |
| 【重要業績評価指標(KPI)】 |  |
| 担当課             | 子育て支援課   |

| 目標                   | 結果   | 評価 | 結果の説明   | 次年度に向けての課題・展望  | 委員評価取りまとめ  |
|----------------------|------|----|---|--|--|
| 26年度<br>51団体<br>44機関 |      |    |   |  |  |
| 27年度<br>↓            | 56団体 | A  | 小金井子育て・子育て支援ネットワーク協議会については新たな加入団体があり、目標を達成できた。一方、要保護児童対策地域協議会については、認証保育所などの参加について検討をしているところであるが、参加するにあたっての課題も多く、また、要保護児童対策地域協議会自体が子どもを中心とした高度な個人情報扱ったため、一概に参加機関数を増やしてよいものではないことでもあり、参加機関数を増やすことができず、目標を達成できなかった。  | 【子どもの健やかな成長のためのネットワーク】<br>小金井子育て・子育て支援ネットワーク協議会が安定的、継続的な活動を行えるよう、引き続き補助金を交付する。また、市内の団体加入促進を始め、活動の広報等支援を行っていく。今後、団体の加入促進にあたり魅力ある事業運営を行う必要があり、自立運営のための仕組み作りの支援が課題である。<br>【支援が必要な子どものためのネットワーク】<br>引き続き、児童虐待への組織的対応、円滑な情報交換を行うため、要保護児童対策地域協議会の運営方法、内容を充実していく。                         | ネットワーク協議会の参加数だけで評価すべきではなく、各団体の活動や取組を確認し、それらの取組を支援するほうが重要なのではないかと、成果を見える化してもらえば更に良い。                                    |
| 28年度<br>↓            | 64団体 | A  | 小金井子育て・子育て支援ネットワーク協議会については、子育て関係イベント等で積極的呼びかけを行うことにより、加入団体数が順調に伸びており、目標を達成できた。なお、ネットワーク協議会の関連事業については、市職員も積極的に参加し、相互理解に努めるようにした。<br>一方、要保護児童対策地域協議会については、認証保育所などの参加について検討をしているところであるが、未だ課題も多く、また、要保護児童対策地域協議会自体が子どもを中心とした高度な個人情報扱ったため、一概に参加機関数を増やしてよいものではないことでもあり、参加機関数を増やすことができず、目標を達成できなかった。 | 【子どもの健やかな成長のためのネットワーク】<br>小金井子育て・子育て支援ネットワーク協議会が安定的、継続的な活動を行えるよう、引き続き補助金を交付する。また、市内の団体加入促進を始め、活動の広報等支援を行っていく。今後、団体の加入促進にあたり魅力ある事業運営を行う必要があり、自立運営のための仕組み作りの支援方法について検討する。<br>【支援が必要な子どものためのネットワーク】<br>引き続き、児童虐待への組織的対応、円滑な情報交換を行うため、次年度は要保護児童対策地域協議会の実務者会議で各機関からの事例を検証するなど、問題意識を高める。 | ネットワーク協議会については参加団体が拡充していることは評価したい。今後は支援の質の向上などに取り組むべきと思われる。<br>前回の委員評価でも触れたが、各団体の活動や取組を確認し、支援の効果や、成果の見える化に取り組んでいただきたい。 |

| 年度   | 回数 | 内容           | 【子どもの健やかな成長のためのネットワーク】<br>小金井子育て・子育て支援ネットワーク協議会が<br>安定的、継続的な活動を行えるよう、引き続き補助<br>金を交付する。また、市内の団体加入促進を始め、<br>活動の広報等支援を行っていく。今後、団体の加<br>入促進にあたり魅力ある事業運営を行う必要があ<br>り、自立運営のための仕組み作りの支援方法につ<br>いて検討する。  | 【支援が必要な子どものためのネットワーク】<br>新たな参加機関について、要保護児童対策地域<br>協議会代表者会議に諮り、参加機関を増やす事<br>定。 | 【子どもの健やかな成長のためのネットワーク】<br>小金井子育て・子育て支援ネットワーク協議会が<br>安定的、継続的な活動を行えるよう、引き続き補助<br>金を交付する。また、市内の団体加入促進を始め、<br>活動の広報等支援を行っていく。今後、団体の加<br>入促進にあたり魅力ある事業運営を行う必要があ<br>り、自立運営のための仕組み作りの支援方法につ<br>いて検討する。 | 【支援が必要な子どものためのネットワーク】<br>引き続き、参加機関の拡大について検討を行うと<br>ともに、要保護児童対策地域協議会構成機関との<br>研修の機会を増やすなど地域ネットワークの連携<br>強化に取り組む。 |
|------|----|--------------|--|---|---|---|
| 29年度 | 1  | 68団体<br>44機関 | 小金井子育て・子育て支援ネットワーク協議会に<br>ついては、子育て関係イベント等で積極的に関<br>わり、目録を達成できた。なお、ネットワーク協<br>会の関係事業については、市職員も積極的に参<br>加し、相互理解に努めるようにした。また、各団<br>体の活動、取組状況については、子育てメッセ<br>がねや小金井子育て・子育て支援サイト等から<br>把握に努めたところである。<br>一方、要保護児童対策地域協議会については、<br>参加機関の拡大について検討しているところであ<br>るが、未だ課題も多く、また、要保護児童対策<br>協議会自体が子どもを中心とした高度な個人情<br>報を扱ったため、一概に参加機関数を増やして<br>いき、目標を達成できなかった。 |   |   |   |
| 30年度 | 1  | 73団体<br>45機関 | 小金井子育て・子育て支援ネットワーク協議会に<br>ついては、子育て関係イベント等で積極的に関<br>わり、目録を達成できた。なお、ネットワーク協<br>会の関係事業については、市職員も積極的に参<br>加し、相互理解に努めるようにした。また、各団<br>体の活動、取組状況については、子育てメッセ<br>がねや小金井子育て・子育て支援サイト等から<br>把握に努めたところである。<br>要保護児童対策地域協議会については、新た<br>な参加機関について代表者会議に諮り、1機<br>関増えた。   |   |   |   |
| 31年度 | 1  | 56団体<br>46機関 |  |   |   |   |

ネットワーキング協議会については、順調に増加しており評価したい。要保護児童対策地域協議  
会については、一概に増やせば良い指標ではないが、より一層力を注いでほしい。

|     |   |  |
|-----|---|--|
| 渡邊  | ○ | 面ネットワークへの連携強化を具体的方策に落とし込んで検討してほ<br>しい。     |
| 小川  | ○ | 本市の協議会同士の連携・協力ができ、更に検討できることはとよ<br>いと考えられる。 |
| 松本  | ○ | 努力を評価                                      |
| 嶋下  | ○ |  |
| 橋田  | ○ | 増加が難しい中で、増えたため                             |
| 本間  | △ |  |
| 山本  | △ | 加入数の増加は評価できる。団体間の連携が促進されるよう支援してほ<br>しい。    |
| 小宮  | ○ | 団体数増を評価。減少としないよう支援に取り組んで欲しい。               |
| 天野  | ○ | 増加を評価する。今後力を入れていきたい                        |
| 合 計 |   |  |
| ○   | 7 | △ 2 x 0                                    |

団体及び機関数の増加  
を評価する。本市の協議  
会同士の連携・協力ができ  
る、更に検討できることば  
とてもよいと考えており、  
ネットワーキングへの連携強  
化を具体的方策に落とし  
込んで検討してほしい。

まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価シート(取りまとめ)

|        |                              |
|--------|------------------------------|
| 【基本情報】 |                              |
| 基本目標2  | 多様な働き方ができ、安心して結婚・出産・子育てできるまち |
| 基本的方向2 | 子どもの育ち・学びのための環境の充実           |
| 指標     | 冒険遊び場開催回数                    |
| 指標の説明  | 一週間における開催回数                  |
| 担当者    | 児童青少年課                       |

| 【重要指標評価指標(KPI)】 |   | 結果の説明 | 次年度に向けた課題・展望   | 委員評価取りまとめ  |
|-----------------|---|-------|--|--|
| 26年度            | - |       |  |  |
| 27年度            | ↓ | A     | 子どもの遊び場の充実を図るため、東京学芸大学構内でいけとおがわプレーパーク]を週4回、武蔵野公園で「くじら山プレーパーク]を週1回、併せて週5回開催し、雨天により休止になることもあったが、冒険遊び場への参加者数も屋外にもかかわらず1万人を超えるなど目標を達成できた。  | 小金井の特徴は市内に3大学のキャンパスを構え、さらに1専門学校を持つ事である。これら教育機関との協働は極めて重要である。市として積極的にこれら教育機関に働きかけられるべきであり、地方創生のポイントの一つに地域における教育を忘れてはならない。地方によっては一大学でもあって欲しいと願望している地方もあり、小金井市は恵まれている環境にある。また、児童学童の遊び、運動の場として小金井公園を活用できるよう工夫するなど、質的にも更なる充実が必要である。 |
| 28年度            | ↓ | A     | 平成28年度は冒険遊び場を4月から開始し、子どもの遊び場の充実を図るため、東京学芸大学構内でいけとおがわプレーパーク]を週4回、武蔵野公園で「くじら山プレーパーク]を週1回、併せて週5回開催した。雨天により休止になることもあったが、屋外にもかかわらず約1万8千人の参加があり、目標を達成できた。  | 地道な努力の結果、目標を達成しており、評価したい。子どもへの支援と併せて、親同士の繋がりや支援にもなるよう、工夫していただきたい。今後は組織的安全管理の検討や、更なる大学との連携など引き続き取り組んでほしい。   |
| 29年度            | ↓ | A     | 子どもの遊び場の充実を図るため、東京学芸大学構内でいけとおがわプレーパーク]を週4回、武蔵野公園で「くじら山プレーパーク]を週1回、併せて週5回開催した。雨天により休止になることもあったが、屋外にもかかわらず18,705人の参加があり、目標を達成できた。月1回程度乳幼児親子のイベント「いちご」を開催し、保護者同士の交流の場も設けた。地域の子どもたちの居場所の一つとして需要があり、児童館と同様に、冒険遊び場も利用者が定着してきた。 | 継続開催を続け、参加者も増加しており、順調な取組状況である。安全性を高めつつ参加者数を維持できるような工夫を、関係者で話し合いながら進めてもらいたい。  |



まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価シート(取りまとめ)

【基本情報】

|        |                              |
|--------|------------------------------|
| 基本目標2  | 多様な働き方ができ、安心して結婚・出産・子育てできるまち |
| 基本的方向? | 子どもの育ち・学びのための環境の充実           |
| 指標     | 放課後子ども教室の推進委員会形式による実施件数      |
| 指標の説明  | 推進委員会形式により放課後子ども教室を開催した件数    |
|        | 生涯学習課                        |
|        | 担当課                          |

【重要業績評価指標(KPI)】

|      | 目標 | 結果 | 評価 | 結果の説明   | 次年度に向けた課題/展望  | 委員評価取りまとめ  |
|------|----|----|----|---|---|--|
| 26年度 | 9件 |    |    |   |   |  |
| 27年度 | 1  | 9件 | A  | 全ての小学校区で推進委員会を設置し、各校での放課後子ども教室について、推進委員会で見直しを調整しながら運営できている。   | 放課後子ども教室事業は、体制面では9校全てにコーディネートを設置し、地域の特性に合わせた事業を展開できている。今後は学童保育との一体化やその他細かい問題について、現場の意見を踏まえつつ、内容を更に精査していく。   | 生涯学習課と教育委員会との意見交換を十分に実施することが重要。一方、学校側は様々な理由からためらう場合もあろう。十分に議論して、両者が納得のいく方法やあり方を確立すべきである。ポイントは本当に子どもたちを育む施策かどうかであり、今後とも各教育機関との連携を密に行っていただきたい。 |
| 28年度 | 1  | 9件 | A  | 全ての小学校区で推進委員会を設置し、各校での放課後子ども教室について、推進委員会で見直しを調整しながら運営できている。<br>放課後子どもプラン運営委員会では、指導室長、庶務課長、校長、副校長を交えて、放課後子ども教室について情報交換し、議論をしている。   | 放課後子ども教室事業は、体制面では9校全てにコーディネートを設置し、地域の特性に合わせた事業を展開できている。今後は学童保育や小学校との連携を図り、放課後の児童の安全安心な居場所作りについて、さらに内容を充実していく。   | 積極的な取組を評価したい。今後は議論の結果、生まれた良い取組を見える化し、広げていただきたい。引き続き情報交換を密に実施し、市長部局と市教育委員会がさらなる疎通を図れるように取り組んで欲しい。   |
| 29年度 | 1  | 9件 | A  | 全ての小学校区で推進委員会を設置し、各校での放課後子ども教室について、推進委員会で見直しを調整しながら運営できている。<br>放課後子どもプラン運営委員会では、校長、副校長、指導室長、庶務課長、児童青少年課長等を交え、放課後子ども教室について議論をしている。 | 放課後子ども教室事業は、体制面では9校全てにコーディネートを設置し、地域の特性に合わせた事業を展開できている。また、30年度は4校、31年度は全9校で、学校、学童保育所、放課後子ども教室の3者で協議会を行い、連携を促進し、情報共有を図りながら、放課後の児童の安全安心な居場所作りに向けて、さらに内容を充実していく。 | 安定した継続運営ができている。今後は情報共有や管理体制を構築しながら、更に発展的な事業の充実に努めたい。   |

| 30年度 | 1 | 9件 | A | 全ての小学校区で推進委員会を設置し、各校での放課後子ども教室について、推進委員会で意見を出し合い調整しながら運営できている。<br>放課後子どもプラン運営委員会では、校長、副校長、指導室長、庶務課長、児童青少年課長等と交え、放課後子ども教室について議論をしている。<br>平成30年度は、4校で学校関係者、学童関係者、放課後子ども教室関係者で協議会を開催し、連携を深め情報を共有した。 | 渡邊  | ○ | 是非とも進めてほしい。                           |   |   |   |
|------|---|----|---|--|-----|---|---------------------------------------|---|---|---|
|      |   |    |   | 平成30年度に4校で実施した協議会を、31年度は全9校で実施し、学校、学童保育所、放課後子ども教室の3者の連携を促進し、情報共有を図りながら、放課後の児童の安全安心な居場所作りに向けて、さらに内容を充実していく。<br>また、安定した居場所作りのため、本町小学校を先行校とした放課後子ども教室の平日全日開催を、次年度中に実施できるように取り組んでいく。                 | 小川  | ○ | 取り組むためにも「講師」の確保が重要となるので、予算面でも検討して欲しい。 |   |   |   |
|      |   |    |   |  | 松本  | ○ | 横の連絡体制も構築されており、努力を評価                  |   |   |   |
|      |   |    |   |  | 鴨下  | ○ |                                       |   |   |   |
|      |   |    |   |  | 橋田  | ○ | 情報共有しながら取組を続けているため                    |   |   |   |
|      |   |    |   |  | 本間  | △ |                                       |   |   |   |
|      |   |    |   |  | 山本  | ○ | 目標達成している。                             |   |   |   |
|      |   |    |   |  | 小宮  | △ |                                       |   |   |   |
|      |   |    |   |  | 天野  | ○ | より良いものになるよう取り組んでいただきたい                |   |   |   |
|      |   |    |   |  | 合 計 |   |                                       |   |   |   |
|      |   |    |   |  | ○   | 7 | △                                     | 2 | x | 0 |
|      |   |    |   |  |     |   |                                       |   |   |   |
|      |   |    |   |  |     |   |                                       |   |   |   |
|      |   |    |   |  |     |   |                                       |   |   |   |
|      |   |    |   |  |     |   |                                       |   |   |   |
| 31年度 |   |    |   | 維持   |     |   |                                       |   |   |   |

まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価シート(取りまとめ)

【基本情報】

|       |                              |
|-------|------------------------------|
| 基本目標2 | 多様な働き方ができ、安心して結婚・出産・子育てできるまち |
| 基本方針2 | 子どもの育ち・学びのための環境の充実           |
| 指標    | 大学との学習支援に関する協働研究連携協力校数       |
| 指標の説明 | 東京学芸大学との学習支援に関する協働研究連携協力校    |
|       | 担当課                          |
|       | 指導室                          |

【重要業績評価指標(KPI)】

|      | 目標 | 結果 | 評価 | 結果の説明  | 次年度に向けての課題・展望  | 委員評価取りまとめ  |
|------|----|----|----|--|--|--|
| 26年度 | 2校 |    |    |  |  |  |
| 27年度 | 1  | 2校 | C  | 東京学芸大学との学習支援に関する協働研究連携協力校は、小金井第二小学校と南中学校の2校である。  | 東京学芸大学との学習支援に関する協働研究連携協力校を、今年度とは別の学校を新規に指定校としていく。  | 東京学芸大学との協働支援にかかわらず、参加校が2校とはいかがなものか。「子どもを育む」という視点において取組を強化するべきであり、東京学芸大学とは別に農工大学等の協力を得ることも検討する必要がある。他方、大学の研究資料収集のための調査などならないように注意する必要がある。 |
| 28年度 | 1  | 2校 | C  | 東京学芸大学との学習支援に関する協働研究連携協力校は、学芸大学と協議し、昨年度に引き続き、小金井第二小学校と南中学校の2校である。<br>平成29年度より、学大の意向で各拠点校と連携協力校に変更し、新たな拠点校のもと、段階的に連携協力校を増やしていく。平成31年度の時点で全14校が拠点校または連携協力校となる。 | 東京学芸大学との学習支援に関する協働研究連携協力校を、今年度とは別の学校として設定する。<br>連携した取組についても、学習支援だけでは見えない形態で充実させていく。  | どのような観点で、どのような取組が実施されているか示してほしい。進捗が停滞している原因が不明であり、目標達成に向けたロードマップを提示して欲しい。また、目標達成に向けて小・中学校側に過剰に負担が発生しないよう、互いのニーズを理解し、進めていただきたい。           |
| 29年度 | 1  | 2校 | C  | 平成29年度東京学芸大学との学習支援に関する連携協力校は本町小学校と南中学校である。<br>連携協力校においては、放課後学習教室が実施されており、本町小学校では週1回、南中学校では定期考査前に集中して行っている。<br>新たな拠点校を設定することが困難であるため、連携協力校の数は現状維持である。         | 学習支援に関する連携協力について、学博ランディングの確保及び学校における時間調整が難しく、新たな拠点校の設定が困難であると判断し、これまでの計画を見直すことになった。<br>今年度からは、新規拠点校の設定はせず、全小中学校を対象にした学習支援教室の計画を検討している。 | 計画の見直しは理解できるが、そこに至った原因をより深く突き止め、評価も含めて学習支援についで抜本的に見直すことが必要ではないだろうか。<br>連携協力校数については、引き続き増加に向けた努力を続けていただきたい。                               |

| 30年度 | 1   | 14校 | A | 東京学芸大学との連携協力の研究テーマは「経済的に困難な状況にある児童・生徒への支援」であり、児童・生徒への学習支援を行っている。平成30年度連携協力支援は全小中学校(14校)へ呼びかけて学習支援を実施した。児童・生徒の支援が補強されている。 | 東京学芸大学ではCCSS(児童・生徒支援連携センター)という組織が設置され、本研究に当たっている。担当する教授も教名であり、動員できる学生にも限りがある。連携協力ということで、本市から補充を要望することはできない。他大学との新たな連携協力を検討していく。 | 渡邊  | △ | 市が連携協定を結ぶ他大学への働きかけをしてほしい。              |   |   |   |
|------|-----|-----|---|--|---|-----|---|--|---|---|---|
|      |     |     |   |  |   | 小川  | △ | 他大学との新たな連携協力を単位の互換性が可能なかという点を含め検討されたい。 |   |   |   |
|      |     |     |   |  |   | 松本  | ○ | 努力を評価(内容を教えていただきたい。)                   |   |   |   |
|      |     |     |   |  |   | 鴨下  | ○ |  |   |   |   |
|      |     |     |   |  |   | 橋田  | ○ | 大幅に増えたため                               |   |   |   |
|      |     |     |   |  |   | 本間  | △ |  |   |   |   |
|      |     |     |   |  |   | 山本  | ○ | 全小中学校で実施したことは評価できる。他大学との接点を持ってほしい。     |   |   |   |
|      |     |     |   |  |   | 小宮  | ○ | 協力校増加を評価。問題点も出てきているので引き続き検討をお願いしたい。    |   |   |   |
|      |     |     |   |  |   | 天野  | ○ | 大幅増であるが、他の大学とも連携できないか検討していただきたい        |   |   |   |
|      |     |     |   |  |   | 合 計 |   |  |   |   |   |
|      |     |     |   |  |   | 0   | 6 | △                                      | 3 | x | 0 |
| 31年度 | 14校 |     |   |  |   |     |   |  |   |   |   |

まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価シート(取りまとめ)

【基本情報】

|       |  |
|-------|--|
| 基本目標2 | 多様な働き方ができ、安心して結婚・出産・子育てできるまち                     |
| 基本的方向 | 子どもの育ち・学びのための環境の充実                               |
| 指標    | よりよい地域社会を目指して地域貢献活動に関わろうとしている児童生徒の割合             |
| 指標の説明 | 地域貢献活動に関わろうとしている児童生徒の割合は、ボランティア活動に関わり児童生徒の割合とする。 |
|       | 担当者  |
|       | 指導室  |

【重要業績評価指標(KPI)】

| 目標                                   | 結果                           | 評価 | 結果の説明   | 次年度に向けての課題・展望  | 委員評価取りまとめ  |
|--------------------------------------|------------------------------|----|---|--|--|
| 26年度<br>小学校<br>53.9%<br>中学校<br>39.3% |                              |    |   |  |  |
| 27年度<br>I                            | 小学校<br>53.5%<br>中学校<br>35.7% | D  | 「よりよい地域社会を目指して社会貢献活動に関わろうとしている児童生徒の割合」は、小学校53.5%、中学校35.7%であり、約4割から5割の児童・生徒が社会貢献活動に関わっていると見える。一定回数以上のボランティアを行った児童・生徒に対して、庁内作成物を景品として選んだり、学校全体でボランティアに取り組んだ学校を表彰したりするなどして、経費を削減しつつ、児童・生徒のボランティア意識の向上に努めたが、目標の達成には至らなかった。    | 次年度は「よりよい地域社会を目指して社会貢献活動に関わろうとしている児童生徒の割合」が小学校5割5分、中学校4割に達することを目標とする。一定回数以上のボランティアを行った児童・生徒に対して、学校で積極的に表彰するなどして、児童・生徒のボランティア意識の向上に努める。   | ボランティア活動に取り組んだ児童生徒の割合の向上を目標としているが、数字を伸ばすことのみを目標にするのではなく、質・量ともに充実を図る必要がある。子どもたちに取組の興味・重要性を浸透させてからでないと、この数字は伸びないし、伸びたとしても意味のないものになってしまうことが懸念される。なお、学校が独自に行っている教育課程上の社会貢献活動もボランティア活動としての視点をあてらるべきである。 |
| 28年度<br>I                            | 小学校<br>57.4%<br>中学校<br>44.2% | B  | 「よりよい地域社会を目指して社会貢献活動に関わろうとしている児童生徒の割合」は、小学校57.4%、中学校44.2%であり、約4割から5割強の児童・生徒が社会貢献活動に関わっていると見える。一定回数以上のボランティアを行った児童・生徒に対して、庁内作成物を景品として選すなど意欲の向上を図った。また、小金井市児童・生徒表彰において、学校全体でボランティアに取り組んだ学校を表彰したことが児童・生徒の意識の高まりにつながったと考えられる。 | 次年度は「よりよい地域社会を目指して社会貢献活動に関わろうとしている児童生徒の割合」が小学校6割、中学校4割5分に達することを目標とする。日々の教育活動において、児童・生徒のボランティア精神を高め、積極的に参加しようとする意識を高めていくなど、管理職を通して教員に声かけをしていく。子どもだけでなく教員の意識も同時に高めていく。             | 数値が向上しており評価できる。実際にどのようなボランティア活動が多いのかなど、内容も示していただきたい。ボランティア活動を受け入れる団体の拡充や、保護者の意識の向上に繋がる取組など、子どもを取り巻く環境についても取り組んでいただきたい。新学習指導要領との関係から教育課程上の位置づけを明確にしていくように教育現場との連携を図っていただきたい。                        |
| 29年度<br>I                            | 小学校<br>54.6%<br>中学校<br>47.4% | B  | 「よりよい地域社会を目指して社会貢献活動に関わろうとしている児童生徒の割合」は、小学校54.6%、中学校47.4%であった。ボランティアカードを活用したり、学校からの呼びかけがあったりするなど児童・生徒の意識の高まりにつながったと考えられる。小学生は地域の問題や出来事に関心があり、地域をよくするために何をすべきか考えている児童の割合、中学生はボランティア活動(清掃活動等)に参加したことのある割合である。               | 次年度は「よりよい地域社会を目指して社会貢献活動に関わろうとしている児童・生徒の割合」が小学校6割、中学校5割に達することを目標とする。日々の教育活動において、児童・生徒のボランティア精神を高めていくために、地域の行事等に積極的に参加しようとする意識を高めていくなど、管理職を通して教員に声かけをしていく。子どもだけでなく教員の意識も同時に高めていく。 | 小・中ともに高い割合を維持している。今後は、親子で参加できる内容、教員・保護者への意識改革、養成講座参加のポイン্তু化など多様な検討を進め、ボランティアに参加したい子どもが一步踏み出せるような工夫をしてもらいたい。   |

| 年度   | 小学校   | 中学校   | B   | A   | 渡邊 | 小川 | 松本 | 鴨下 | 橋田 | 本間 | 山本 | 小宮 | 天野 | 合計 | 0 | △ | 2 | x | 0 |   |
|------|-------|-------|---|---|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|---|---|---|---|---|---|
| 30年度 | 57.3% | 52.6% | 「よりよい地域社会を目指して社会貢献活動に関わろう」としている児童生徒の割合」は、小学校57.3%、中学校52.6%であった。ボランティアカードを活用したり、学校からの呼びかけがあったりするなど児童・生徒の意識の高まりにつながったと考えられる。<br>他部署や地域の団体からボランティアの要請が多数ある。これらの情報を整理して校長会等で周知したこともボランティア参加の増加につながっている。 | 次年度は「よりよい地域社会を目指して社会貢献活動に関わろう」としている児童・生徒の割合」を今年度より5ポイント増を目指す。<br>日々の教育活動において、児童・生徒のボランティア精神を高めていくために、地域の行事等に積極的に参加しようとする意識を高めていくなど、管理職を通して教員に声かけをしていく。子どもだけでなく教員の意識も同時に高めていく。 | 0  | △  | 0  | 0  | △  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0 | 7 | △ | 2 | x | 0 |
| 31年度 | 61.9% | 47.3% |   |   |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |   |   |   |   |   |   |

結果については年々増加しており、小中学校に浸透してきている。各校で児童や地域に合わせた「特別活動」を教育課程に明確にしていること、継続して実施後の検証をお願いしたい。また、文科省の教育方針の改定によりこの取組も重要な教育の一環になり得る。国の教育行政と考え方をうまく調整して連携し、効果的な情報発信を行い、取組を強化してほしい。

文科省の教育方針の改定によりこの取組も重要な教育の一環になり得る。国の教育行政と考え方をうまく調整して連携し、効果的な情報発信を行い、取組を強化してほしい。

各校で児童や地域に合わせた「特別活動」を教育課程に明確にしていること、継続して実施後の検証をしていく。

関係者の努力を評価

強制するものではないが、小学校から中学校で数字があまり下がらないのはいい傾向

市内団体と連携し、さらなる効果的な情報発信を行ってほしい。

割合増加を評価。引き続き取り組んでほしい

結果については、年々増加しており、小中学校に浸透してきている。今後も連携し取組を強化してほしい。

合計

まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価シート(取りまとめ)

|                 |                              |
|-----------------|------------------------------|
| 【基本情報】          |                              |
| 基本目標            | 多様な働き方ができ、安心して結婚・出産・子育てできるまち |
| 基本方針            | 小金井らしい働き方・ライフスタイルの実現         |
| 市役              | しごとづくりに関する相談件数               |
| 指標の説明           | 創業相談件数                       |
| 【重要業績評価指標(KPI)】 |                              |
| 目標              | 結果 評価                        |
| 26年度            |                              |
| 27年度            |                              |
| 28年度            |                              |
| 担当者             | 経済課                          |

| 年度   | 結果   | 評価 | 結果の説明  | 次年度に向けての課題・展望  | 委員評価取りまとめ   |
|------|------|----|--|--|---|
| 26年度 |      |    |  |  |   |
| 27年度 | 128件 | A  | <p>地域活性化・地域住民等緊急支援交付金を活用した「しごとづくり事業」において、起業家事例紹介パンフレット作成及び配布、女性や学生を対象としたキャリアイベント等を実施することで、起業への機運を高め、目標値を超える相談件数を得た。</p>  | <p>市内で具体的なしごとおこしを図って行くことが課題である。<br/>28年度は国交付金である地方創生加速化交付金を活用し、「しごとづくり深化・拡大事業」として、創業機運の拡大事業、教育的特性を活用したローカルイノベーション事業、江戸東京をテーマにした滞在型ビジネス創出事業を実施し、市内でのしごとづくりを図ることで、多様な働き方が可能なまちの実現を目指す。<br/>また、東小金井事業創造センターにおいても起業・創業相談を実施し、多様な働き方の支援を図る。今後も目標達成のために、創業が身近に感じられる環境を整備していくことを念頭に取組を行う。</p> | <p>相談件数に関しては、目標値を上回っており、評価ができる。創業相談も重要だが、創業のためのセミナーや研究会も積極的に取り組むべきである。</p>  |
| 28年度 | 141件 | A  | <p>国の地方創生加速化交付金を活用し、創業機運の拡大を図るための事業を実施した。具体的には、今までアプローズしてこなかった、主婦や子ども及びその保護者向けのセミナー(イベント)を開催し、市における創業支援に関する取組や創業を身近に感じられるような取組を実施するとともに、「そばではたらぐ」をテーマとしたウエブマガジン「リンジン」を開設し、新しい働き方が注目されている中で、社会課題の解決を目指すローカルベンチャー、職住近接や二地域居住など、多摩地域における新しい働き方や住み方を実践する人の紹介や関連する情報の発信を行う仕組みを構築した。<br/>「リンジン」の運営に関しては、市の創業支援のワンストップ相談窓口である東小金井事業創造センターの指定管理者が自主事業として継続して行っていく。</p> | <p>新しい働き方が注目されている中で、そのようなことに興味を持つ方の掘り起こしが重要になってくる。<br/>28年度に実施した、主婦向けのセミナー等幅広い方を対象に機運の醸成を継続していく必要がある。<br/>本市においては、東小金井事業創造センターを開設し、創業支援に取り組んでいることから、指定管理者と協力し、職住近接などおこしごとの創出を念頭におき、多摩地域において創業支援に積極的に取り組んでいる金融機関とも連携しながら取り組んでいく。</p>  | <p>目標値を達成しており、結果は良好である。今後も指定管理者と連携を取り、事業を進めていただきたい。職住近接と併せて、在宅勤務等の働き方改革への注目も高まっており、対応した支援を検討していただきたい。<br/>相談窓口の認知度の増加もあるため、引き続き相談件数の増加に取り組んでいただきたい。</p> |

| 29年度 | 1    | 163件 | A | <p>東小金井事業創造センターの認知度も高まっていることに加えて、働き方の多様化も進んでいる状況もあり、相談件数は増加している。</p> <p>ホームページやSNSでの情報発信、施設紹介リーフレットの作成や転出入増加時期に合わせて第二庁舎入口での案内看板設置など多様な広報を実施し、周知に努めている。</p>                                    | <p>東小金井事業創造センターの東側隣接地に民間主導で新たな創業支援施設が開設されたため、その施設とも相乗効果を図り創業気運の醸成を図っている。</p> <p>働き方改革への注目は引き続き高まっていくことから、引き続き指定管理者と協力し、小金井らしいことへの創出に向け、多摩地域において創業支援に積極的に取り組んでいる金融機関とも連携しながら取り組んでいく。</p> | <p>情報発信の取組が強化され、順調に件数が増加している。指定管理者や他団体と具体的な協力案を講じ、更なる支援に取り組んでいただきたい。今後、金融機関との連携実績や創業数についても示してもらいたい。</p>   |    |   |   |   |   |   |   |   |   |   |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |     |  |  |  |  |  |  |  |  |  |   |   |   |   |   |   |   |   |  |  |
|------|------|------|---|---|---|---|----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|----|---|--|--|--|--|--|--|--|--|----|---|--|--|--|--|--|--|--|--|----|---|--|--|--|--|--|--|--|--|----|---|--|--|--|--|--|--|--|--|----|---|--|--|--|--|--|--|--|--|----|---|--|--|--|--|--|--|--|--|----|---|--|--|--|--|--|--|--|--|----|---|--|--|--|--|--|--|--|--|-----|--|--|--|--|--|--|--|--|--|---|---|---|---|---|---|---|---|--|--|
| 30年度 | 1    | 88件  | D | <p>相談件数は前年度実績及び目標値を下回る結果となったが、東小金井事業創造センター指定管理者が起業家による空き家活用モデル事業を東京都より認定を受け実施し、不動産相対窓口を開設した。平成30年度中に108件の不動産相談があった。当該事業に関連したセミナー等も定期的に開催しており、事業者向け物件が少なくないという課題解決を図るとともに、創業機運の醸成に取り組んでいる。</p> | <p>平成29年に開設された民間の創業支援施設の東側隣接地に民間ベースで新たな創業支援施設が1棟増設され、東小金井事業創造センターと合わせて計3棟の創業に関する施設が整備された。</p> <p>東小金井事業創造センター指定管理者、金融機関と引き続き連携して行う各種セミナーや説明会等を通じて、今後も創業機運の醸成を図っていく。</p>                 | <p>相対件数は目標を下回っているが、関連事業での相談件数と合わせれば増加しており、今後も創業支援を継続してほしい。</p> <p>また、相談件数減少の要因を分析してほしいとの意見もある。連携協定を結んでいる大学と相談したり、民間に席を譲っていく工夫をしていくのがよいのではないかと。</p>  |    |   |   |   |   |   |   |   |   |   |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |     |  |  |  |  |  |  |  |  |  |   |   |   |   |   |   |   |   |  |  |
| 31年度 | 100件 |      |   |   |   | <table border="1"> <thead> <tr> <th>渡邊</th> <th>△</th> <th>△</th> <th>△</th> <th>△</th> <th>△</th> <th>△</th> <th>△</th> <th>△</th> <th>△</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小川</td> <td>△</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>松本</td> <td>△</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>鴨下</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>橋田</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>本間</td> <td>△</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>山本</td> <td>×</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>小宮</td> <td>△</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>天野</td> <td>△</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="10" style="text-align: center;">合 計</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>2</td> <td>△</td> <td>△</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>×</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 渡邊 | △ | △ | △ | △ | △ | △ | △ | △ | △ | 小川 | △ |  |  |  |  |  |  |  |  | 松本 | △ |  |  |  |  |  |  |  |  | 鴨下 | ○ |  |  |  |  |  |  |  |  | 橋田 | ○ |  |  |  |  |  |  |  |  | 本間 | △ |  |  |  |  |  |  |  |  | 山本 | × |  |  |  |  |  |  |  |  | 小宮 | △ |  |  |  |  |  |  |  |  | 天野 | △ |  |  |  |  |  |  |  |  | 合 計 |  |  |  |  |  |  |  |  |  | ○ | 2 | △ | △ | 0 | 0 | × | 1 |  |  |
| 渡邊   | △    | △    | △ | △   | △   | △   | △  | △ | △ |   |   |   |   |   |   |   |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |     |  |  |  |  |  |  |  |  |  |   |   |   |   |   |   |   |   |  |  |
| 小川   | △    |      |   |   |   |   |    |   |   |   |   |   |   |   |   |   |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |     |  |  |  |  |  |  |  |  |  |   |   |   |   |   |   |   |   |  |  |
| 松本   | △    |      |   |   |   |   |    |   |   |   |   |   |   |   |   |   |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |     |  |  |  |  |  |  |  |  |  |   |   |   |   |   |   |   |   |  |  |
| 鴨下   | ○    |      |   |   |   |   |    |   |   |   |   |   |   |   |   |   |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |     |  |  |  |  |  |  |  |  |  |   |   |   |   |   |   |   |   |  |  |
| 橋田   | ○    |      |   |   |   |   |    |   |   |   |   |   |   |   |   |   |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |     |  |  |  |  |  |  |  |  |  |   |   |   |   |   |   |   |   |  |  |
| 本間   | △    |      |   |   |   |   |    |   |   |   |   |   |   |   |   |   |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |     |  |  |  |  |  |  |  |  |  |   |   |   |   |   |   |   |   |  |  |
| 山本   | ×    |      |   |   |   |   |    |   |   |   |   |   |   |   |   |   |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |     |  |  |  |  |  |  |  |  |  |   |   |   |   |   |   |   |   |  |  |
| 小宮   | △    |      |   |   |   |   |    |   |   |   |   |   |   |   |   |   |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |     |  |  |  |  |  |  |  |  |  |   |   |   |   |   |   |   |   |  |  |
| 天野   | △    |      |   |   |   |   |    |   |   |   |   |   |   |   |   |   |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |     |  |  |  |  |  |  |  |  |  |   |   |   |   |   |   |   |   |  |  |
| 合 計  |      |      |   |   |   |   |    |   |   |   |   |   |   |   |   |   |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |     |  |  |  |  |  |  |  |  |  |   |   |   |   |   |   |   |   |  |  |
| ○    | 2    | △    | △ | 0   | 0   | ×   | 1  |   |   |   |   |   |   |   |   |   |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |     |  |  |  |  |  |  |  |  |  |   |   |   |   |   |   |   |   |  |  |

まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価シート(取りまとめ)

【基本情報】

|        |                                   |
|--------|-----------------------------------|
| 基本目標2  | 多様な働き方ができ、安心して結婚・出産・子育てできるまち      |
| 基本的方向3 | 小金井らしい働き方・ライフスタイルの実現              |
| 指標     | 審議会等への女性の参画率                      |
| 指標の説明  | 各年度の4月1日現在の行政委員会及び審議会等における女性委員の割合 |
|        | 担当課                               |
|        | 企画政策課(男女共同参画室)                    |

【重要業績評価指標(KPI)】

| 目標            | 結果 | 評価 | 結果の説明   | 次年度に向けての課題・展望  | 委員評価取りまとめ   |
|---------------|----|----|---|--|---|
| 26年度<br>34.2% |    |    |   |  |   |
| 27年度<br>32.2% | D  |    | 行政委員会及び審議会等における女性委員の参画率向上を図るため、結果を周知するとともに、審議会等委員を選出する際には、市民参加条例の規定に基づき、男女の偏りがなく、公算率以外の委員に際しても女性委員の参画促進のため、男女比率に配慮することを関係各課に働きかけているところではあるが、今年度は前年の目標値を下回る結果となった。     | 学識経験者等についても、男女比率に留意するよう求められているが、分野によっては、専門家が少なく、偏りが生じている。また、行政委員会及び審議会等における女性委員の割合を増やすため、引き続き全庁的に審議会委員等への女性の参画を要請していく。   | 数値だけで評価をするべきではないが、女性の割合が多くなれば意見が多様化すると考えられる。また、多摩地域で活躍する女性は多いが、その掘り起こしができていることが参画率が向上しない要因の一つとも考えられるので女性の参画方法について再考する必要がある。 |
| 28年度<br>31.6% | D  |    | 行政委員会及び審議会等における女性委員の参画率向上を図るため、結果を周知するとともに、審議会等委員を選出する際には、市民参加条例の規定に基づき、男女の偏りがなく、公算率以外の委員に際しても女性委員の参画促進のため、男女比率に配慮することを関係各課に働きかけているところではあるが、今年度も前年に引き続き目標値を下回る結果となった。 | 学識経験者等についても、男女比率に留意するよう求められているが、分野によっては、専門家が少なく、偏りが生じている場合もある。そのため、行政委員会及び審議会等における女性委員の割合を増やすため、引き続き全庁的に審議会委員等への女性の参画を要請していく。また、周知回数を増やし、各委員改選時の委員選任に際し、女性参画促進の呼びかけを行っている。 | 社会の変化を反映させるためにも女性参画の促進は必須、具体的な問題点を考える必要がある。セミナーや相談会、イベント等、接点を増加させることでハードルを下げ、協働できる体制をつくるなど、従来とは異なる取組を検討いただきたい。              |
| 29年度<br>32.7% | D  |    | 女性の構成比率の高い審議会等が新たに設置されたこともあり、今年度は前年度を上回ったが、依然として目標値を下回る結果となった。  | 学識経験者や関係団体などの構成委員について、分野によっては男女の偏りが生じていることもあり、直ちに目標を達成することは難しいが、審議会等における女性委員の割合を増やすため、女性の積極的な参画を要請する機会を増やし、周知を強化していく。  | 参画率を短時間で向上させることは難しいとは思いますが、開催日の配慮や女性が問題意識を持つてあろう会議のPRIに努めるなど、できることから取り組んでもらいたい。   |

| 30年度 | 31年度 | 32.3% | D | 行政委員会及び審議会等における女性委員の登用状況調査の結果を照和するとともに、審議会等委員を選出する際には、市民参加条例の規定に基づき、男女の偏りが無いようにすること及び公募枠以外の委員に際しても女性委員の登用促進のため、男女比率に配慮することを関係各課に働きかけているところであるが、昨年度からわずかに下がり、依然として目標値を下回る結果となった。 | 分野によっては、女性の専門家が少なく偏りが生じていることもあり、直ちに目標を達成することは難しいが、女性委員の割合を増やすため女性の積極的な登用を要請し、周知を強化していく。 | 性別ではなく、意欲や能力で委員を決めるべきであると思う。その結果として構成比率が適正となるのではないかと。 | 審議会によっては、平成26年度の34.2%を超えているところもあると思うが、、、 | シート数等:15も同様だが、審議会の開催時間等の工夫や、初開会期において基礎的な知識を提供しその後においても学習機会を提供する等の環境整備（及びその事前周知）が必要ではないか。 | 女性が関心を持つ環境整備やPR等が必要だという意見や、性別ではなく、意欲や能力で委員を決めるべきだという意見、KPIと施策の関係性が希薄であるという意見がある。 |
|------|------|-------|---|---|---|---|--|--|--|
| 渡邊   | △    | △     |   |   |   |   |  |  |  |
| 小川   | ○    |       |   |   |   |   |  |  |  |
| 松本   | △    |       |   |   |   |   |  |  |  |
| 鴨下   | △    |       |   |   |   |   |  |  |  |
| 橋田   | ×    |       |   |   |   |   |  |  |  |
| 本間   | △    |       |   |   |   |   |  |  |  |
| 山本   | △    |       |   |   |   |   |  |  |  |
| 小宮   | △    |       |   |   |   |   |  |  |  |
| 天野   | △    |       |   |   |   |   |  |  |  |
| 合計   |      |       |   |   |   |   |  |  |  |
| 0    | 1    | △     | 7 | x   | 1   |   |  |  |  |

まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価シート(取りまとめ)

【基本情報】

|        |                              |     |     |
|--------|------------------------------|-----|-----|
| 基本目標2  | 多様な働き方ができ、安心して結婚・出産・子育てできるまち |     |     |
| 基本的方向3 | 小金井らしい働き方・ライフスタイルの実現         |     |     |
| 指標     | 男性職員の育児休業取得率                 | 担当課 | 職員課 |
| 指標の説明  | 男性職員の育児休業取得率                 |     |     |

【重要業績評価指標(KPI)】

| 年度   | 目標 | 結果  | 評価 | 結果の説明   | 次年度に向けての課題・展望  | 委員評価取りまとめ   |
|------|----|-----|----|---|--|---|
| 26年度 | 0% |     |    |   |  |   |
| 27年度 | ↓  | 10% | B  | 平成27年6月に第2次小金井市職員次世代育成支援プラン(第2次小金井市特定事業主行動計画・前期行動計画(次世代育成))を策定し、本計画の数値目標として、男性職員の育児休業取得率を13%(平成32年度)と設定しており、平成27年度の取得率は10%だった。                    | 男性職員の育児休業取得推進のため、育児休業等に関する制度や費用等の給付について、必要な情報を提供していく。また、職員が安心して育児休業を取得できるよう、必要な措置に努める。                                   | 公務員と民間は環境・条件が違う中、市役所の男性職員の育児休業取得率を評価の対象とするべきではない。反面、行政が育児休業の取得率向上を図り、もって社会全体に浸透するためにも職員の意識を醸成する必要はあろう。            |
| 28年度 | ↓  | 13% | A  | 平成27年6月に第2次小金井市職員次世代育成支援プラン(第2次小金井市特定事業主行動計画・前期行動計画(次世代育成))を策定し、本計画の数値目標として、男性職員の育児休業取得率を13%(平成32年度)と設定しており、平成28年度の取得率は13%だった。                    | 男性職員の育児休業取得推進のため、育児休業等に関する制度や費用等の給付について、必要な情報を提供していく。また、職員が安心して育児休業を取得できるよう、必要な措置に努める。                                   | 数値としては良好であり、引き続き向上に向けて取り組んでいきたい。対象となる職員数など、実際の母数も提示して欲しい。育児休暇の取得による、市民サービスの向上における影響に対し、具体的にどのような対応するかも併せて提示してほしい。 |
| 29年度 | ↓  | 15% | A  | 平成27年6月に第2次小金井市職員次世代育成支援プラン(第2次小金井市特定事業主行動計画・前期行動計画(次世代育成))を策定し、本計画の数値目標として、男性職員の育児休業取得率を13%(平成32年度)と設定しており、平成29年度の取得率は15%(取得対象者数26名うち取得者数4名)だった。 | 男性職員の育児休業取得推進のため、育児休業等に関する制度や費用等の給付について、必要な情報を提供していく。また、職員が安心して育児休業を取得できるよう、必要な措置に努める。また、必要に応じて、育児取得者の代替として臨時職員の配置を検討する。 | 順調に割合が伸びている点は評価できるが、職員の子育て世代の構成人数などの影響もある。単純な数値の伸びだけでなく、市民サービスの維持を前提とした制度づくりと、より一層の職員意識改革に努めていきたい。                |

|      |   |     |   |  |   |   |   |
|------|---|-----|---|--|---|---|---|
| 30年度 | ↓ | 30% | A | <p>平成27年6月に第2次小金井市職員次世代育成支援プラン(第2次小金井市待定事業主行動計画・前期行動計画(次世代育成))を策定し、本計画の数値目標として、男性職員の育児休業取得率を13%(平成32年度)と設定しており、平成30年度の取得率は30%(取得対象者数10名うち取得者数3名)だった。</p> | <p>男性職員の育児休業取得推進のため、育児休業等に関する制度や費用等の給付について、必要な情報を提供していく。また、職員が安心して育児休業を取得できるよう、必要な措置に努める。また、必要に応じて、育児取得者の代替として臨時職員の配置を検討する。</p> | <p>目標達成していることから評価している意見と目標達成しているものの、取得者数の少なさを指摘している意見もある。また、情報の提供は重要であり、その下で対象者がどう考えるかという意見や育児取得者の代替として臨時職員の配置を検討する際に、こがねい仕事ネットワークの充実も図りたい。引き続き取り組みを進めてほしい。</p> | <p>目標達成していることから評価している意見と目標達成しているものの、取得者数の少なさを指摘している意見もある。また、情報の提供は重要であり、その下で対象者がどう考えるかという意見や育児取得者の代替として臨時職員の配置を検討する際に、こがねい仕事ネットワークの充実も図りたい。引き続き取り組みを進めてほしい。</p> |
| 31年度 |   | 13% |   |  |   |   |   |
| 合 計  |   |     |   |  |   |   |   |
| 0    | 0 | 5   | △ | 4  | x   | 0   |   |
| 渡邊   | ○ |     |   |  |   |   | 情報の提供は重要である。その下で受ける方がどう考えるかだと思う。  |
| 小川   | △ |     |   |  |   |   | 育児取得者の代替として臨時職員の配置を検討する際に、こがねい仕事ネットワークの充実も図れるのではないかと。   |
| 松本   | △ |     |   |  |   |   |   |
| 鴨下   | ○ |     |   |  |   |   |   |
| 橋田   | ○ |     |   |  |   |   | 目標達成したため  |
| 本間   | △ |     |   |  |   |   | 目標達成している。引き続き取り組みを進めてほしい。   |
| 山本   | ○ |     |   |  |   |   |   |
| 小宮   | △ |     |   |  |   |   |   |
| 天野   | ○ |     |   |  |   |   | 目標は達成したが、取得したのは年間3名のため、制度の浸透に力を入れてほしい   |

まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価シート(取りまとめ)

【基本情報】

|          |  |
|----------|--|
| 基本目標3    | 時代に合った地域をつくり、安全・安心に暮らせるまち                                    |
| 基本方針(方向) | 誰もが不安なく暮らせる安全・安心のまちづくりの推進                                    |
| 指標       | 高齢者自立支援住宅改修給付事業の給付件数   |
| 指標の説明    | 手すりの設置、段差解消、便器の洋式化、浴槽の取替え及び流し・洗面台の取替えなどの高齢者自立支援住宅改修給付事業の給付件数 |
| 担当者      | 介護福祉課  |

【重要業績評価指標(KPI)】

| 年度   | 目標  | 結果  | 評価 | 結果の説明  | 次年度に向けての課題・展望  | 委員評価取りまとめ   |
|------|-----|-----|----|--|--|---|
| 26年度 | 42件 |     |    |  |  |   |
| 27年度 | 1   | 40件 | D  | <p>手すりの設置4件、段差解消0件、便器の洋式化3件、浴槽の取替え31件、流し・洗面台の取替え2件。高齢者が居住する住宅改修を給付し、介護の軽減、転倒防止、動作の容易性の確保、行動範囲の拡大等生活の質の確保が図られた。介護保険の住宅改修と併用する場合は、利用者及び施行業者の郵送を一緒に送付し郵便料の縮減に努めたが、目標を達成できなかった。</p>  | <p>ひとりでも多くの高齢者が住みなれた住居で生活ができるように今後も高齢者の在宅サービスの一環として住宅改修の給付を行う。住宅改修は、自己負担の費用面を含め、希望する個々のニーズに応じて行うものであり、住まう住居のニーズにより制限もあるため、実施件数に影響が生じるが、事業の継続に向けて、今後も啓蒙に努めるものとする。</p>   | <p>高齢者の目に留まりやすい箇所事例集などを配布・周知するなど広報方法を工夫し、目標達成に向けた取組をする必要がある。</p>  |
| 28年度 | 1   | 30件 | D  | <p>手すりの設置4件、段差解消1件、便器の洋式化3件、浴槽の取替え20件、流し・洗面台の取替え2件。高齢者が居住する住宅改修を給付し、介護の軽減、転倒防止、動作の容易性の確保、行動範囲の拡大等生活の質の確保が図られた。介護保険の住宅改修と併用する場合は、利用者及び施行業者の郵送を一緒に送付し郵便料の縮減に努めたが、目標を達成できなかった。</p> <p>制度の周知や啓発については、敬老週間の市報の掲載や、ホームページでは常時掲載している他、「高齢者福祉のしおり」において、制度の掲載をしているため、配布先を、従来の市関係機関以外に、医師会、歯科医師会、薬剤師会、消防署にも配布した。</p> | <p>ひとりでも多くの高齢者が住みなれた住居で生活ができるように今後も高齢者の在宅サービスの一環として住宅改修の給付を行う。住宅改修は、自己負担の費用面を含め、希望する個々のニーズに応じて行うものであり、住まう住居の要件により制限もあるため、実施件数に影響が生じるが、平成28年度から総合事業が開始され、現在のところ対象者の具体的な増加入数は把握できてはいないが、今後在宅での介護生活を送る高齢者の増加は見込まれることに備え、市報やホームページ以外にも市民に判りやすい住宅改修のチラシ等を作成し、啓蒙に努める。</p> <p>また、引き続き要介護認定結果通知と共に制度の案内チラシを同封し啓蒙を行う。</p> | <p>制度の周知にも取り組んでいるにも関わらず、利用が増えないことについて、何が課題となっているか具体的に提示してほしい。今後、高齢人口の増加は明らかであり、介護事業者やリフォーム会社等とのさらなる連携に取り組む、現場のニーズに添ってほしい。判りやすいチラシの作成など、今後の取組に期待したい。</p> |

|   |   |     |   |   |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |     |  |  |  |  |  |  |  |  |  |   |   |   |   |   |   |  |  |  |  |  |
|---|---|-----|---|---|---|--|--|--|--|--|--|--|--|----|---|--|--|--|--|--|--|--|--|----|---|--|--|--|--|--|--|--|--|----|---|--|--|--|--|--|--|--|--|----|---|--|--|--|--|--|--|--|--|----|---|--|--|--|--|--|--|--|--|----|---|--|--|--|--|--|--|--|--|----|---|--|--|--|--|--|--|--|--|----|---|--|--|--|--|--|--|--|--|-----|--|--|--|--|--|--|--|--|--|---|---|---|---|---|---|--|--|--|--|--|
| 29年度  | ↓ | 38件 | D | <p>予防給付については実績は、手すりの設置5件であった。<br/>設備給付については実績は、浴槽の取替え30件、流し、洗面台の取替え1件、便器の洋式化2件であった。<br/>高齢者が居住する住宅に関し、浴槽等の改修費用を給付することで、介護の軽減、転倒防止、動作の容易性の確保、行動範囲の拡大等生活の質の確保を図ることができた。<br/>介護保険の住宅改修と併用する場合は、介護保険と連携し、住宅改修施工前後の自宅訪問を一緒に行うなど、事務効率及び利用者の負担軽減に努めた。<br/>制度の周知、啓発については、9月の敬老週間に市報へ掲載し、高齢者の目に留まりやすいよう工夫した。またホームページでは常時掲載している他、「高齢者福祉のしおり」において、制度の掲載をしているため、配布先を、従来の市の関係機関以外に、医師会、歯科医師会、薬剤師会、消防署にも配布した。</p> | <p>ひとりでも多くの高齢者が住みなれたた住居で自立した日常生活が営めるよう、今後も高齢者の在宅サービスの一環として住宅改修の給付を行う。当市における高齢化率(65歳以上)は21%に達し、いわゆる「超高齢社会」となり、自立支援住宅改修に資するニーズは年々増えるものと推定される。<br/>そのため、今後においても、高齢者にわかりやすい制度説明を心がけ、市報、市ホームページ、介護認定結果通知へのチラシ同封を始め、様々な媒体を通じ、自立支援住宅改修への利用を促進することで、利用実績の増加に繋げたい。</p> | <p>昨年度の評価でも記載したが、給付件数が増えない理由について検討し、事業内容の見直しに繋げていただきたい。<br/>また、民間企業やNPO法人とも連携し、事業の普及にも努めてもらいたい。</p>  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |     |  |  |  |  |  |  |  |  |  |   |   |   |   |   |   |  |  |  |  |  |
| 30年度  | ↓ | 30件 | D | <p>予防給付は、手すりの設置2件であった。設備給付は、浴槽の取替え20件、流し、洗面台の取替え2件、便器の洋式化6件であった。<br/>高齢者が居住する住宅に対し、浴槽等の改修費用を給付することで、介護の軽減、転倒防止、動作の容易性の確保、行動範囲の拡大等、高齢者に対する日常生活の質の確保の向上に努めた。また、利用者が介護保険の住宅改修を併用する場合、介護保険と連携し、住宅改修施工前後の自宅訪問を行うなど、事務効率の向上及び利用者の負担軽減に努めた。<br/>制度の周知、普及啓発については、特に、包括支援センター、介護事業所、施工業者等向けに、利用の呼びかけを実施した。また、9月の敬老週間に市報へ掲載し、高齢者の目に留まりやすいように施した。ホームページをカラー化し、見易さを重視し、医師会、歯科医師会、薬剤師会、消防署等幅広く配布した。</p>          | <p>ひとりでも多くの高齢者が住みなれたた住居で自立した日常生活が営めるよう、今後も高齢者の在宅サービスの一環として住宅改修の給付を行う。<br/>そのため、今後においても、高齢者にわかりやすい制度説明を心がけ、市報、市ホームページでの周知を始め、様々な媒体を通じ、自立支援住宅改修への利用を促進することで、利用実績の増加に繋げたい。</p>   | <p>本事業を必要としている人についていければ問題ないという意見と目標未到達であり、ニーズとの意見もある。<br/>また、高齢者の「自尊心」がある人は「他者に迷惑をかけたくない」という意見が、本事業にプレッシャーをかけているように思われる。また、高齢者の「自尊心」がある人は「他者に迷惑をかけたくない」という意見が、本事業にプレッシャーをかけているように思われる。また、高齢者の「自尊心」がある人は「他者に迷惑をかけたくない」という意見が、本事業にプレッシャーをかけているように思われる。</p> |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |     |  |  |  |  |  |  |  |  |  |   |   |   |   |   |   |  |  |  |  |  |
| 31年度  | ↓ | 60件 |   |   |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |     |  |  |  |  |  |  |  |  |  |   |   |   |   |   |   |  |  |  |  |  |
| <table border="1"> <tr> <td>渡邊</td> <td>△</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>小川</td> <td>△</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>松本</td> <td>△</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>陽下</td> <td>△</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>橋田</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>本間</td> <td>△</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>山本</td> <td>x</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>小宮</td> <td>△</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>天野</td> <td>△</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="10" style="text-align: center;">合 計</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>1</td> <td>△</td> <td>7</td> <td>x</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> |   |     |   | 渡邊  | △   |  |  |  |  |  |  |  |  | 小川 | △ |  |  |  |  |  |  |  |  | 松本 | △ |  |  |  |  |  |  |  |  | 陽下 | △ |  |  |  |  |  |  |  |  | 橋田 | ○ |  |  |  |  |  |  |  |  | 本間 | △ |  |  |  |  |  |  |  |  | 山本 | x |  |  |  |  |  |  |  |  | 小宮 | △ |  |  |  |  |  |  |  |  | 天野 | △ |  |  |  |  |  |  |  |  | 合 計 |  |  |  |  |  |  |  |  |  | ○ | 1 | △ | 7 | x | 1 |  |  |  |  | <p>高齢者の「自尊心」がある人は「他者に迷惑をかけたくない」という思いが、この事業にプレッシャーをかけているように思われる。また、高齢者の「自尊心」がある人は「他者に迷惑をかけたくない」という思いが、この事業にプレッシャーをかけているように思われる。</p> |
| 渡邊  | △ |     |   |   |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |     |  |  |  |  |  |  |  |  |  |   |   |   |   |   |   |  |  |  |  |  |
| 小川  | △ |     |   |   |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |     |  |  |  |  |  |  |  |  |  |   |   |   |   |   |   |  |  |  |  |  |
| 松本  | △ |     |   |   |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |     |  |  |  |  |  |  |  |  |  |   |   |   |   |   |   |  |  |  |  |  |
| 陽下  | △ |     |   |   |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |     |  |  |  |  |  |  |  |  |  |   |   |   |   |   |   |  |  |  |  |  |
| 橋田  | ○ |     |   |   |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |     |  |  |  |  |  |  |  |  |  |   |   |   |   |   |   |  |  |  |  |  |
| 本間  | △ |     |   |   |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |     |  |  |  |  |  |  |  |  |  |   |   |   |   |   |   |  |  |  |  |  |
| 山本  | x |     |   |   |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |     |  |  |  |  |  |  |  |  |  |   |   |   |   |   |   |  |  |  |  |  |
| 小宮  | △ |     |   |   |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |     |  |  |  |  |  |  |  |  |  |   |   |   |   |   |   |  |  |  |  |  |
| 天野  | △ |     |   |   |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |     |  |  |  |  |  |  |  |  |  |   |   |   |   |   |   |  |  |  |  |  |
| 合 計   |   |     |   |   |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |     |  |  |  |  |  |  |  |  |  |   |   |   |   |   |   |  |  |  |  |  |
| ○   | 1 | △   | 7 | x   | 1   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |     |  |  |  |  |  |  |  |  |  |   |   |   |   |   |   |  |  |  |  |  |

まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価シート(取りまとめ)

【基本情報】

|       |                           |
|-------|---------------------------|
| 基本目標3 | 時代に合った地域をつくり、安全・安心に暮らせるまち |
| 基本的方向 | 誰もが不安なく暮らせる安全・安心のまちづくりの推進 |
| 指標    | CoCoバスの利用者数               |
| 指標の説明 | 総合的見直しによる利用者数             |
| 担当課   | 交通対策課                     |

【重要業績評価指標(KPI)】

| 目標                 | 結果 | 評価 | 結果の説明  | 次年度に向けての課題・展望  | 委員評価取りまとめ   |
|--------------------|----|----|--|--|---|
| 26年度<br>1,032,278人 |    |    |  |  |   |
| 27年度<br>1,032,448人 |    | D  | <p>特に、北東部循環の減少が大きく、理由としては類似区域を運行している民間路線バスが均一料金化となり利便性が向上したことから路線バスに流れている傾向にある。また、東大通り内の自転車レーン設置により走行空間が整備され、レンタサイクルを含めた自転車利用者が拡大し、移動手段の転換も影響していると推測している。</p> <p>(参考)</p> <p>①CoCoバス北東部循環利用者数<br/>平成26年度526,075人 → 平成27年度496,759人<br/>平成26年度526,075人 → 平成27年度496,759人<br/>②スイクル東小金井駅ポート利用状況<br/>平成26年度 30,295台 → 平成27年度 38,796台</p>  | <p>交通現況や道路状況、市街地開発等取り巻く状況が以前より大きく変化しており、安心して暮らせる生活環境を整備するためには、現在の状況や利用者ニーズに沿った総合的な見直しが必要であると考えている。</p>   | <p>個別の課題を洗い出し、優先順位をつけて実施することが肝要である。必要に応じて見直しを行い、現状における最適化を図る必要がある。<br/>利用者数の多い路線と、少ない路線でバランスをとり、本数や時刻表の見直しを行ってはどうか。</p>                     |
| 28年度<br>1,032,315人 |    | D  | <p>CoCoバスミニ野川・七軒家循環については、これまで特に朝の時間帯での乗り残が発生しており、改善要望が多く寄せられていた。このことから、平成28年4月より朝便を一度増便し、乗客ニーズに対応したところであるが、他のルートを含めて利用者数が全体的に減少している。<br/>また、CoCoバス事業の総合的見直しについては未だ着手できていない。</p> <p>参考<br/>平成28年度CoCoバス利用者数(カッコ内は平成27年度)<br/>北東部循環 493,073人(496,759人)0.7%減<br/>真井前原循環 227,112人(235,440人)3.5%減<br/>東町循環 93,977人(93,092人)0.9%増<br/>中町循環 132,336人(137,311人)3.6%減<br/>野川・七軒家循環 89,817人(90,046人)0.3%減</p> <p>スイクル利用状況<br/>① 東小金井駅ポート<br/>平成28年度 40,150台<br/>平成27年度 600台(1日平均10台)<br/>② 武蔵小金井駅ポート(※)<br/>平成28年度 10,950台(1日平均30台)<br/>平成27年度 10,950台(1日平均30台)<br/>※ 武蔵小金井駅ポートは平成28年2月開業。</p> | <p>短期的な見直しとして、これまでの要望等を踏まえて既存ルートに対して、他の交通アクセスを踏まえた時刻表の見直し等を 年2回実施している地域公共交通会議での意見を踏まえながら検討する。<br/>長期的な見直しとして、現在のルートはJR中央本線連続立体交差事業より前に運行されているルートであり、その後の交通現況や道路状況、市街地開発等を取り巻く状況が以前より大きく変化していることから、安心して暮らせる生活環境を整備するため、CoCoバス事業の総合的見直しが必要であると考えている。現在、新行舎建設等に関して一定のスケジュールが示されたことから、見直し時期を新行舎等の運用開始にあわせスケジュール案を策定していく。</p> | <p>市民のニーズと現実的な事業案の見直しに取り組んでいただきたい。JR中央本線の連続立体交差事業等、地域の環境が変化しているため見直しが必要である。市内は狭隘な道路も多く、運用には限界がある。引き継ぎ問題の分析を継続し、優先順位を付けて検討改善されることを期待したい。</p> |

|      |   |            |   |   |
|------|---|------------|---|---|
| 29年度 | ↓ | 1,043,760人 | D | <p>全体の利用者数は、前年度と比べて7,445人増加しているが、1日あたりの平均値と前20人の増とほぼほぼ一致しており、利用者数の伸びが鈍化している。</p> <p>乗客の取り組みにより市内における一部都区内に自転車ナビマークが設置されたことによる走行空間の向上、また、レンタサイクルについても増加傾向にあることから自転車移動手段の拡充も影響している。</p> <p>短期的な見直し後の検討状況としては、要望が多く寄せられている東町循環と中町循環との美根吉利用状況向上について、担当課において運行ダイヤの調整を検討したところであるが、ダイヤ変更による影響等を勘案する上、需要を把握する必要性があることから、平成30年度より実施しているCoCoバス再編事業における総合的な見直しの中で上層を含めた2年までの短期的見直し事項についても整理・検討していくこととした。</p> <p>参考<br/>平成28年度CoCoバス利用者数(カッコ内は平成28年度)<br/>北東部循環 502,293人(493,073人)1.9%増<br/>東井前原循環 219,930人(227,112人)3.2%減<br/>東町循環 99,015人(93,977人)5.4%増<br/>中町循環 129,755人(132,336人)2.0%減<br/>野川・七軒家循環 92,767人(89,817人)3.3%増</p> <p>サイクル利用状況<br/>① 東小金井駅ポート<br/>平成28年度 40,150台(1日平均110台)<br/>平成29年度 41,610台(1日平均114台)<br/>平成30年度 45,500台(1日平均125台)<br/>② 武蔵小金井駅ポート(※)<br/>平成27年度 600台(1日平均10台)<br/>平成28年度 10,950台(1日平均30台)<br/>平成29年度 15,330台(1日平均42台)<br/>平成30年度 16,405台(1日平均49台)</p> <p>※ 武蔵小金井駅ポートは平成28年2月開業。</p> |
|------|---|------------|---|---|

|      |   |            |   |  |
|------|---|------------|---|--|
| 30年度 | ↓ | 1,088,864人 | B | <p>全体の利用者数は、前年度と比べ43,104人増加しており、特に中町循環における利用者が増加している。前年度より約18%増加していることから、平成30年4月からの民間路線バスの減便に伴い、代替交通手段としてCoCoバスを利用する人が増えたことが影響していると考えられる。</p> <p>また、平成30年度より小金井市コミュニティバス再編事業に着手し、人口動向や市内交通状況の整理と併せ、コミュニティバスを含むバスの利用実態や満足度、要望等を把握するため、利用実態調査及び市民アンケート調査を実施し、これらの結果から抽出した公共交通に関する課題を踏まえ、本事業における基本方針(案)の検討を行った。</p> <p>参考<br/>平成30年度CoCoバス利用者数(カッコ内は平成29年度)<br/>北東部循環 516,571人(602,283人)2.6%増<br/>東井前原循環 220,400人(219,930人)0.2%増<br/>東町循環 104,495人(99,015人)5.5%増<br/>中町循環 153,183人(129,755人)18.1%増<br/>野川・七軒家循環 92,215人(92,767人)0.6%減</p> <p>サイクル利用状況<br/>① 東小金井駅ポート<br/>平成28年度 40,150台(1日平均110台)<br/>平成29年度 41,610台(1日平均114台)<br/>平成30年度 45,500台(1日平均125台)<br/>② 武蔵小金井駅ポート(※)<br/>平成27年度 600台(1日平均10台)<br/>平成28年度 10,950台(1日平均30台)<br/>平成29年度 15,330台(1日平均42台)<br/>平成30年度 16,405台(1日平均49台)</p> <p>※ 武蔵小金井駅ポートは平成28年2月開業。</p> |
|------|---|------------|---|--|

現在のルートはJR中央本線・連続立体交差事業より前に運行されているルートであり、その後の交通状況や道路状況、市街地開発等、市内環境を取り巻く状況が以前より大きく変化していることから、安心して暮らせる生活環境を整備するため、平成30年度よりCoCoバス再編事業として、運行ルート・運行時間・運賃等の総合的な見直しを行う。本事業を推進するに当たっては、民間事業者による技術的支援の下、市民及び地域公共交通事業者の意見を踏まえながら検討を行い、平成34年度の運行開始を予定している。

平成30年度においては、支援事業者の決定後、コミュニティバスを含む既存路線の運行状況や利用実態、要望等の調査分析による課題抽出を行い、これを踏まえ、再編の基本方針及び運行基準の検討・策定を行う予定としている。

次年度に向けた課題・取組は適切である。様々な意見から利用実態・課題を抽出し、適切な見直しを行っていただきたい。

小金井市コミュニティバス再編事業については令和3年度までの継続事業であり、令和元年度については、引き続き、再編の基本方針及び運行基準の検討・策定を行う。また、これらを踏まえて地域懇談会を実施する予定であり、市民及び地域公共交通事業者の意見を踏まえながら、具体的な運行ルート・運行時間・運賃等の再編計画の検討に着手していく。

|    |   |   |   |   |   |
|----|---|---|---|---|---|
| 渡邊 | △ | 70歳以上の方のシルバーバス普及が利用率を伸ばさない。ルートをよく検討してシルバーバスが便がなく、切実な場所を通るルートの検討は要否。 |   |   |   |
| 小川 | ○ | 再編計画の検討に着手し、一層の向上を図りたい。   |   |   |   |
| 松本 | △ | 目標値との差は誤差の範囲。今後どうするかを検討すべき。   |   |   |   |
| 嶋下 | ○ | 引き続きダイヤの再編・向上をめざしてほしい   |   |   |   |
| 橋田 | ○ | 分析し、人数増の結果となったため  |   |   |   |
| 本間 | △ |   |   |   |   |
| 山本 | △ | 外部要因により利用者が増加している。利用実態に沿った再編を進めてほしい。                                |   |   |   |
| 小宮 | △ |   |   |   |   |
| 天野 | △ |   |   |   |   |
| 合計 |   |   |   |   |   |
| ○  | 3 | △   | 6 | x | 0 |

利用実態に沿って再編計画の検討に着手し、一層の向上を図りたい。

まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価シート(取りまとめ)

【基本情報】

|       |                                |  |       |
|-------|--------------------------------|--|-------|
| 基本目標  | 時代に合った地域をつくり、安全・安心に暮らせるまち      |  |       |
| 基本方向① | 誰もが不安なく暮らせる安全・安心のまちづくりの推進      |  |       |
| 指標    | 自主防災組織の数                       |  | 地域安全課 |
| 指標の説明 | 市内で町会・自治会等の地域組織が自主的に結成した防災組織の数 |  |       |

【重要業績評価指標(KPI)】

| 目標   | 結果   | 評価 | 結果の説明   | 次年度に向けての課題・展望  | 委員評価取りまとめ   |
|------|------|----|---|--|---|
| 26年度 | 27団体 |    |   |  |   |
| 27年度 | 27団体 | C  | <p>結成に関し具体的に調整を行っている団体はあるものの、正式な結成までには至らなかった。市の補助金及び他の助成事業の活用により、活動の活性化を促している。</p>  | <p>平成28年度以降も引き続き事業を展開し、自主防災活動の促進を図るとともに、新規組織の結成を推進する。自主防災組織で活躍する住民の高齢化が進んでいるため、高齢者のみならず地域全体で活動できるようさらなる広報、支援に努める必要がある。</p> | <p>高齢者が担う傾向が強くなってきている現状を鑑み、地域にある会社・事業所などとの連携を図っていく必要がある。市単位ではなく、地区単位で消防などの協力を得ながら定期的に防災訓練を行うなど、地区単位での取組を浸透させることが重要である。</p>              |
| 28年度 | 27団体 | C  | <p>平成28年度に、自主防災組織の新規結成を1団体予定していたが、年度内での結成が叶わなかった。</p> <p>総合防災訓練において、地域全体や全世代の参加を促進するために、スタンブラーを実施した。</p> <p>また、次年度に向けて、自主防災組織の要綱改正を行った。</p>                                       | <p>平成29年に自主防災組織の設置基準の緩和を予定。HP等で周知をし、新規組織の結成を推進する。</p> <p>自主防災組織の高齢化対策として、子育て世代を呼び込めるよう、他市の先進事例を取り入れた広報等も検討する。</p>          | <p>防災意識の問題であり意識が高まれば結果として組織が作られる。引き続き、全世代向けの取組を実施してほしい。</p> <p>各地域の自主防災強化へのさらなるバックアップも必要である。大震災の対策として、組織化されない近隣防災にも焦点を当ててほしい。</p>       |
| 29年度 | 27団体 | C  | <p>平成29年4月1日付で自主防災組織の設置基準の要綱改正を行った。これまでは結成に必要な世帯数が概ね250世帯以上であったが、今回の改正によって100世帯以上で組織の結成が可能となり、案件が緩和された。</p> <p>その効果もあって窓口や電話で自主防災組織新規結成についての問い合わせが何件かあったものの、結成に至る町会・自治会はなかった。</p> | <p>平成30年度においても、引き続き自主防災組織の新規結成を促進していく。</p> <p>自主防災組織の活動内容等の周知を図り、より身近なものとして認識してもらうよう努める。</p>                               | <p>防災組織の数は増えなかったが、今後一層重要性が高まるテーマであり、積極的な取組が必要である。会社へのアプローチや大学等教育・研究機関との連携強化など、様々な検討を行ってほしい。</p> <p>事例(立川災害ボランティアネットワーク)なども参考にしてほしい。</p> |



まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価シート(取りまとめ)

| 【基本情報】  |               | 【重要業績評価指標(KPI)】   |   | 委員評価取りまとめ  |              |
|---|---------------|---|---|--|--------------|
| 基本目標  | 達成状況          | 結果の説明   | 次年度に向けての課題/展望   | 委員評価取りまとめ  | 地域安全課        |
| <p>時代に合った地域をつくり、安全・安心に暮らせるまち<br/>誰もが不安なく暮らせる安全・安心のまちづくりの推進</p> <p>推進<br/>評価の説明</p> <p>1月から12月までの刑法犯の認知件数(審判庁発表)</p> | <p>1,070件</p> | <p>結果の説明</p>  | <p>次年度に向けての課題/展望</p>  | <p>委員評価取りまとめ</p>   | <p>地域安全課</p> |
| <p>26年度</p>   | <p>1,070件</p> | <p>各罪種の認知件数の中で、小金井市において<br/>は、自転車盗の件数が、平成26年中535件に對<br/>し、平成27年中は703件に上る(差168件)。刑法犯<br/>認知件数全体の増加件数の約3/4)など、突出し<br/>て増加している。また、侵入窃盗についても、平<br/>成26年中54件に對して、平成27年中は77件と約<br/>1.4倍に増加した。</p>   | <p>こきんちゃんあいさつ運動の周知のために作<br/>成した缶バッジ(2万個)の在庫がなくなくなり、現在<br/>配布を行っていることから、小金井市安全・安<br/>心まちづくり協議会において今後の広報につい<br/>て検討を行う。引き続き、運動の春季及び秋季<br/>推進月間を実施し、地域の防犯力向上並びに地<br/>域ぐるみで子どもたちを見守る運動の周知及び<br/>協力者の増加に努める。</p> | <p>「配布したら終わり」ではない活動を定着するよう何かを行えないものか。<br/>犯罪件数の量的な評価だけでなく、その質的变化を捉えるべきである。地域の防犯力向上を図ることが<br/>できる活動を、他の施策と合わせて行えるような方法を模索する必要がある。</p> |              |
| <p>27年度</p>   | <p>1,230件</p> | <p>平成27年に増加した侵入窃盗が777件から45<br/>件に、自転車盗が703件から544件に減少し<br/>た。自転車盗については、警察署にて作成した<br/>掲示物の学校への掲示依頼等を行い啓蒙を<br/>行った。万引き、暴行については平成26年以降<br/>やや増加の傾向がみられ、万引きが平成26年5<br/>6件、平成28年92件、暴行が平成26年17件、<br/>平成28年33件となっている。発生場所は駅周<br/>辺が比較的多い。</p>  | <p>こきんちゃんあいさつ運動広報物品の作成予<br/>算が指置されたため、安全・安心まちづくり協議<br/>会にて協議した広報物品を作成し、学校等への<br/>配布を行い運動の周知を図る。防犯指針に基づ<br/>く各課取組みの取りまとめを行い連携した施策<br/>の実施や、警察職員を含む同協議会の意見等を<br/>反映し継続的な取組の見直しを図る。</p>                        | <p>件数の減少は評価できる。効果的な防犯対策を分析し、継続して取り組んで欲しい。市内各校の生活指<br/>導主任会等との連携も効果的と思われる。パトロールの実施と併せて、予算は厳しいと思うが啓蒙活動に<br/>繋がるイベントの開催も検討して欲しい。</p>    |              |
| <p>28年度</p>   | <p>1,070件</p> | <p>子ども安全確保と地域防犯力向上のための<br/>こきんちゃんあいさつ運動を定着させる取り組み<br/>として、4月と9月を推進月間とし、開始日(始業<br/>式)にCoCoパトロール隊によるパトロール他、各課へ<br/>安全課による登下校時パトロールの他、各課へ<br/>青色回転灯装備車両による下校時間帯のパト<br/>ロールを依頼し、実施された。また、商店会や小<br/>中学校へポスト、のぼりの掲出を依頼するとと<br/>もに、小中学校への横断幕設置やJR武蔵小金<br/>井南口ポールへのぼりを掲出し、活動の周知を<br/>図った。</p> |   |  |              |

|      |        |   |   |   |   |  |                             |    |   |                          |    |   |   |    |   |  |    |   |  |    |   |  |    |   |                              |    |   |  |    |   |                          |    |  |  |   |   |   |   |   |   |                                     |
|------|--------|---|---|---|---|--|-----------------------------|----|---|--------------------------|----|---|---|----|---|--|----|---|--|----|---|--|----|---|------------------------------|----|---|--|----|---|--------------------------|----|--|--|---|---|---|---|---|---|-------------------------------------|
| 20年度 | 1      | 884件  | A | <p>刑法犯全体で前年比176件減少した。減少が大きいものとしては自転車盗が190件、侵入窃盗が20件、万引きが32件減少した。一方、詐欺が20件増加するなど予断を許さない状況が続いている。</p> <p>防犯に対する取組としては、こきんちゃんあいさつ運動時のハットロール等、防犯指針に基づく各課での取組を継続して実施したほか、特殊詐欺対策等をテーマとした「市民防犯講習会」の開催や、防犯協会主催の「防犯市民のつどい」「特殊詐欺撲滅隊伝」への協力・参加等、関係団体と連携し市民の防犯意識の高揚を図った。</p> <p>特殊詐欺等の被害防止への取組としては自動通話録音機を購入し、買与を再開した。</p>   | <p>防犯指針に基づく各課取組を継続するとともに、毎月の小金井警察署への刑法犯発生状況の聞き取りを行い、状況の把握を継続する。あいさつ運動については広報活動(商店会や小中学校へポスター、のぼりの掲出を依頼、小中学校等への横断幕設置やJR武蔵小金井駅南口ポールの懸垂幕を掲出等)の継続と併せ、安全・安心まちづくり協議会にて協議を行い作成した広報物品(反射材付ハッチ)の配布等で運動の周知及び更なる推進を図る。</p> | <p>刑法犯の認知件数については目標件数を達成し、更に件数を減らしつつあるが、増加している犯罪もあることから、関係機関と連携しながら、引き続き対応の強化に努めてもらいたい。また、発生事件の情報提供については、更に効果的な提供方法を検討していただきたい。</p> |                             |    |   |                          |    |   |   |    |   |  |    |   |  |    |   |  |    |   |                              |    |   |  |    |   |                          |    |  |  |   |   |   |   |   |   |                                     |
| 30年度 | 1      | 808件  | A | <p>刑法犯全体で前年比86件減少した。侵入盗・窃盗、詐欺(特殊詐欺等を含む。)は減少傾向にあるものの、自転車盗は増加している。犯罪の手法も巧妙化していることや、被害者が居ないこと等も影響し、把握できていない犯罪等も存在しており、依然として予断を許さない状況は続いている。</p> <p>防犯に対する取組としては、こきんちゃんあいさつ運動時のハットロールに加え、通常業務におけるハットロールを強化したほか、防犯指針に基づく各課での取組を継続して実施した。巧妙化された特殊詐欺対策等をテーマとした「市民防犯講習会」の開催や、防犯協会主催の「防犯市民のつどい」「特殊詐欺撲滅隊伝」への協力・参加を継続して実施し、関係団体と連携し市民の防犯意識の高揚を図った。</p>   | <p>自転車の防犯対策として、向山も視野に入れ、なまちづくりの構築を推進していく。継続して小金井警察署や安全・安心まちづくり協議会委員と協力しながら、こきんちゃんあいさつ運動、ハットロール及び出前講座等を通して、日常的な犯罪にまきこまれないよう、市民に注意喚起等をしていく。</p>   | <p>前年から減少している。引き続き関係機関と連携してほしい。</p>  |                             |    |   |                          |    |   |   |    |   |  |    |   |  |    |   |  |    |   |                              |    |   |  |    |   |                          |    |  |  |   |   |   |   |   |   |                                     |
| 31年度 | 1,020件 |   |   | <table border="1"> <tr> <td>渡邊</td> <td>○</td> <td>今までも優れた取り組みであった。今後も継続してほしい。</td> </tr> <tr> <td>小川</td> <td>○</td> <td>地域・関係機関との一層の連携をしていただきたい。</td> </tr> <tr> <td>松本</td> <td>○</td> <td>努力を評価。犯罪・事故発生原因あるいは事件手口などを周知することほか、(深夜、向かいの家の扉先をのぞきこんでいる人影を見たが、事件の遺体付近に潜んでいることを踏まえては思い起こすように)</td> </tr> <tr> <td>鴨下</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>緒田</td> <td>△</td> <td></td> </tr> <tr> <td>本間</td> <td>△</td> <td></td> </tr> <tr> <td>山本</td> <td>○</td> <td>前年から減少している。引き続き関係機関と連携してほしい。</td> </tr> <tr> <td>小宮</td> <td>△</td> <td>被害者件数減少は評価。増えている犯罪についての防止対策を考えるようにしてほしい。</td> </tr> <tr> <td>天野</td> <td>○</td> <td>今後もより安全なまちになるよう取り組んでほしい。</td> </tr> <tr> <td colspan="3" style="text-align: center;">合計</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>6</td> <td>△</td> <td>3</td> <td>x</td> <td>0</td> </tr> </table> | 渡邊  | ○  | 今までも優れた取り組みであった。今後も継続してほしい。 | 小川 | ○ | 地域・関係機関との一層の連携をしていただきたい。 | 松本 | ○ | 努力を評価。犯罪・事故発生原因あるいは事件手口などを周知することほか、(深夜、向かいの家の扉先をのぞきこんでいる人影を見たが、事件の遺体付近に潜んでいることを踏まえては思い起こすように) | 鴨下 | ○ |  | 緒田 | △ |  | 本間 | △ |  | 山本 | ○ | 前年から減少している。引き続き関係機関と連携してほしい。 | 小宮 | △ | 被害者件数減少は評価。増えている犯罪についての防止対策を考えるようにしてほしい。 | 天野 | ○ | 今後もより安全なまちになるよう取り組んでほしい。 | 合計 |  |  | ○ | 6 | △ | 3 | x | 0 | <p>前年から減少している。引き続き関係機関と連携してほしい。</p> |
| 渡邊   | ○      | 今までも優れた取り組みであった。今後も継続してほしい。   |   |   |   |  |                             |    |   |                          |    |   |   |    |   |  |    |   |  |    |   |  |    |   |                              |    |   |  |    |   |                          |    |  |  |   |   |   |   |   |   |                                     |
| 小川   | ○      | 地域・関係機関との一層の連携をしていただきたい。  |   |   |   |  |                             |    |   |                          |    |   |   |    |   |  |    |   |  |    |   |  |    |   |                              |    |   |  |    |   |                          |    |  |  |   |   |   |   |   |   |                                     |
| 松本   | ○      | 努力を評価。犯罪・事故発生原因あるいは事件手口などを周知することほか、(深夜、向かいの家の扉先をのぞきこんでいる人影を見たが、事件の遺体付近に潜んでいることを踏まえては思い起こすように) |   |   |   |  |                             |    |   |                          |    |   |   |    |   |  |    |   |  |    |   |  |    |   |                              |    |   |  |    |   |                          |    |  |  |   |   |   |   |   |   |                                     |
| 鴨下   | ○      |   |   |   |   |  |                             |    |   |                          |    |   |   |    |   |  |    |   |  |    |   |  |    |   |                              |    |   |  |    |   |                          |    |  |  |   |   |   |   |   |   |                                     |
| 緒田   | △      |   |   |   |   |  |                             |    |   |                          |    |   |   |    |   |  |    |   |  |    |   |  |    |   |                              |    |   |  |    |   |                          |    |  |  |   |   |   |   |   |   |                                     |
| 本間   | △      |   |   |   |   |  |                             |    |   |                          |    |   |   |    |   |  |    |   |  |    |   |  |    |   |                              |    |   |  |    |   |                          |    |  |  |   |   |   |   |   |   |                                     |
| 山本   | ○      | 前年から減少している。引き続き関係機関と連携してほしい。  |   |   |   |  |                             |    |   |                          |    |   |   |    |   |  |    |   |  |    |   |  |    |   |                              |    |   |  |    |   |                          |    |  |  |   |   |   |   |   |   |                                     |
| 小宮   | △      | 被害者件数減少は評価。増えている犯罪についての防止対策を考えるようにしてほしい。  |   |   |   |  |                             |    |   |                          |    |   |   |    |   |  |    |   |  |    |   |  |    |   |                              |    |   |  |    |   |                          |    |  |  |   |   |   |   |   |   |                                     |
| 天野   | ○      | 今後もより安全なまちになるよう取り組んでほしい。  |   |   |   |  |                             |    |   |                          |    |   |   |    |   |  |    |   |  |    |   |  |    |   |                              |    |   |  |    |   |                          |    |  |  |   |   |   |   |   |   |                                     |
| 合計   |        |   |   |   |   |  |                             |    |   |                          |    |   |   |    |   |  |    |   |  |    |   |  |    |   |                              |    |   |  |    |   |                          |    |  |  |   |   |   |   |   |   |                                     |
| ○    | 6      | △   | 3 | x   | 0   |  |                             |    |   |                          |    |   |   |    |   |  |    |   |  |    |   |  |    |   |                              |    |   |  |    |   |                          |    |  |  |   |   |   |   |   |   |                                     |

まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価シート(取りまとめ)

【基本情報】

|       |                           |
|-------|---------------------------|
| 基本目標  | 時代に合った地域をつくり、安全・安心に暮らせるまち |
| 基本的方向 | 誰もが不安なく暮らせる安全・安心のまちづくりの推進 |
| 指標    | 認知症サポーター数                 |
| 指標の説明 | 認知症サポーター養成講座受講者数          |
| 担当課   | 介護福祉課                     |

【重要業績評価指標(KPI)】

| 目標                  | 結果 | 評価 | 結果の説明   | 次年度に向けての取組・留意  | 委員評面取りまとめ   |
|---------------------|----|----|---|--|---|
| 26年度<br>3,081人      |    |    |   |  |   |
| 27年度<br>I<br>4,146人 | B  |    | 講座申込数が増え、特に警察署等大きな団体での申し込みがあったこともあり受講者数が増えた。しかし若年者への受講者増には苦慮している。   | フォローアップ講座受講者より認知症周知に関わるボランティア等地域での活動への参加希望者を募る。講座の周知、特にキッズサポーターの受講者数増について検討する必要がある。また、高齢社会においては市役所職員への講座は必要と考えられ、今後も継続していく。                              | 受講者数の増加は評価できる。今後は関係団体との連携を深めながら、認知症サポーター養成講座を幅広い年代の方に受講してもらえような働きかけを検討していく必要がある。  |
| 28年度<br>I<br>4,874人 | A  |    | 市内小中学校へ本講座の周知を進めており、また学校公開等の時間にて実際に講座を実施した学校も3校あり、若年層への普及・啓発に取り組むことができた。市役所職員への講座も継続した。地域での活動へつなげるため、フォローアップ講座では認知症対応型共同生活介護(グループホーム)で講座を実施し施設見学を行い、具体的な知識の習得に取り組めた。引き続き講座の周知、特に高齢者の介護を担う世代への取り組みを検討していく。   | 現在、地域包括支援センター職員が本講座を実施している。講師となるための研修受講者を関係機関等にお願いし、講座実施や周知等の協力依頼について検討していく。引き続き本講座の周知の実施や、市職員向け講座の継続、フォローアップ講座にて徘徊模倣訓練の実施を検討しており、本年度は実施にあたり方法等検討を進めていく。 | 素晴らしい結果であり、今後も引き続き取組を強化して欲しい。サポーターの養成と併せて、認知症の早期の段階での相談を受け付けていること等の周知をして欲しい。認知症の方のフォローは地域全体で取り組むべきものである。で、小中学校での講座開催に引き続き取り組んでいただきたい。 |
| 29年度<br>I<br>5,626人 | A  |    | 市内小中学校や市職員への講座を継続実施でき、さらに専門学校においても講座を実施できた。小中学校は3校228人、専門学校は2校149人、市職員は72人が受講している。フォローアップ講座でも関係機関に協力を呼びかけ、企画、講師等にも関わっていた。当日は市民同士で認知症の方への声かけの仕方について検討、演習などができた。さらに認知症施策の1つであるやすらぎ支援員への協力を呼びかけ、実際に2名支援員となった方がいるなど、サポーターの活用にも結びつけることができた。引き続き講座の周知、特に高齢者の介護を担う世代への取組を検討していく。 | お元氣サミットin小金井でも認知症の方への声かけについて検討、演習をするイベントを実施しており、フォローアップ講座との整理をして実施した。またPTAの連絡会にて周知するなど、幅広い年代への講座実施を図り、認知症についての正しい理解を広めていく。                               | 受講者数は目標数を超え、更に増加しており、大変評価できる。若い世代を含めた地域全体で、正しい理解と対応を学ぶ場づくりとなるよう、今後も取り組んでいただきたい。   |



まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価シート(取りまとめ)

|       |   |
|-------|---|
| 基本目標  | 時代に合った地域をつくり、安全・安心に暮らせるまち   |
| 事業的方向 | 誰もが不安なく暮らせる安全・安心のまちづくりの推進   |
| 指標    | 地域密着型サービス事業所数   |
| 評価の指標 | 小規模多機能型居宅介護、認知症対応型通所介護、認知症対応型共同生活介護、地域密着型特定施設入所者生活介護、看護小規模多機能型居宅介護、看護小規模多機能型通所介護、地域密着型居宅介護、夜間対応型訪問介護、定時巡回・随時対応型訪問介護看護、地域密着型通所介護の事業所数<br>※目標数値については、平成26年度時点で設定したものであり、法改正により、地域密着型サービスに移管している分については含まれない。 |

| 年度   | 目標                                    | 結果 | 評価 | 結果の説明   | 次の年度に向けた課題・進捗  | 達成状況(取り組み)  |
|------|---------------------------------------|----|----|---|--|---|
| 26年度 | 28か所                                  |    |    |   |  |   |
| 27年度 | I<br>28か所                             | C  | C  | 第6期小金井市介護保険・高齢者保健福祉総合計画においては、平成27年度の施設整備の計画がなかったため、このような結果となった。今後必要となるサービスの把握を行い、効率的な施設整備を行っていく必要がある。   | 地域密着型サービスは住み慣れた地域で暮らし続けることを支援するものではないが、一部の地域密着型サービスについては、稼働率にバラつきがあり、利用実績が伸びないサービスもある。制度の周知を図り、利用ニーズを見極めながら、施設整備を推進していく必要がある。  | 近隣他市のやり方も参考にしつつ、地域特性に応じた必要な事業を開設・運営できるよう事業者のフォローに努めていく必要がある。  |
| 28年度 | I<br>28か所<br>(その他、都からの指定業務による増え22件あり) | C  | C  | 介護保険法の改正により、平成28年度より、定員18名以下の通所介護について、従来の東京都指定の居宅サービスから、市が指定を行う地域密着型サービスに移行されたこと、事業所数が大幅に増えた(都からの引継22件)。<br>第6期小金井市介護保険・高齢者保健福祉総合計画において平成28年度は、地域密着型通所介護以外の施設整備は行っていない。<br>市内のケアマネおおよび地域密着型通所介護事業所に対して説明会を実施した。 | 地域密着型サービスは住み慣れた地域で暮らし続けることを支援するものではないが、一部の地域密着型サービスについては、稼働率にバラつきがあり、利用実績が伸びないサービスもある。今後継続しながら、施設整備を推進していく必要がある。<br>なお、平成29年度は4月1日時点で(介護予防)認知症対応型共同生活介護事業所、看護小規模多機能型居宅介護事業所及び地域密着型通所介護事業所の延べ4事業所が新規開設される予定である。 | 平成29年度4月1日時点で4事業所が開設されることとなり、準備段階を評価する。目標は達成されるので、今後は質の確保や向上を図るための検討をしてほしい。<br>引き続き適切な地域密着型サービス事業所の開設に向けて取り組んでいただきたい。 |
| 29年度 | I<br>27か所<br>(その他、都からの指定業務による増え22件あり) | D  | D  | 平成29年度に認知症対応型共同生活介護を2か所、看護小規模多機能型居宅介護を1か所、地域密着型通所介護事業所を1か所、計4か所の事業所の新規指定を行ったが、休止の事業所等もあり、事業所数は減となった。  | 平成30年度に市内に特別養護老人ホームを整備することとなっている。これまでは、特養待機者で待養に入所すべき状態の人も地域密着型サービスを利用する傾向にあったが、今後は地域密着型サービスにふさわしい対象者が利用すべく、市民や事業者が制度周知を行う必要がある。   | 事業所数が減少した点は残念に思う。地域密着型が増えるよう、理解しやすい制度づくりやこの事業に資する改善補助など、新たな工夫について検討してもらいたい。   |

| 30年度 | 31年度 | 1  | D | 26か所<br>(その他、<br>都からの<br>指定業務<br>の移管に<br>よる増が2<br>2件あり) | 平成30年度に、1か所の事業所の新規<br>指定を行ったが、休止の事業所等もあり、<br>事業者数は減となった。 | 平成30年度に特別養護老人ホームを整<br>備したことで、これまで地域密着型サービ<br>スを利用した人が、一定数特別養護老人<br>ホームに移行したと考えられる。<br>また、介護事業所の人員確保が困難で<br>あり、そのことが理由で休止となった事業<br>所もあるため、介護人材確保に向けた各<br>種支援策の周知をより積極的に行う必要<br>がある。 | 渡邊 | △   | 何とか具体策をひねり出し、事業者数をマイナスからプラスに転じてほしい。 |
|------|------|----|---|---|--|--|----|---|-------------------------------------|
|      |      | 小川 | × |   |  |  |    | 予算を伴う事業の難しさがあある。重要かつ困難な事業だが、事業者数の減少、人員確保など課題解決に向けて何とか具<br>体策をひねり出し、事業者数をマイナスからプラスに転じてほしい。 |                                     |
|      |      | 松本 | ○ |   |  |  |    | 重要かつ困難な事業。一層の努力を期待。   |                                     |
|      |      | 隅下 | △ |   |  |  |    | 事業者数の減少、人員確保など課題解決にむけて検討続けてもらいたい  |                                     |
|      |      | 橋田 | ○ |   |  |  |    |   |                                     |
|      |      | 本間 | △ |   |  |  |    |   |                                     |
|      |      | 山本 | △ |   |  |  |    |   |                                     |
|      |      | 小宮 | △ |   |  |  |    |   |                                     |
|      |      | 天野 | △ |   |  |  |    |   |                                     |
| 合 計  |      |    |   |   |  |  |    |   |                                     |
|      |      | ○  | 2 | △   | 6  | ×  | 1  |   |                                     |

まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価シート(取りまとめ)

【基本情報】

|        |                                  |
|--------|----------------------------------|
| 基本目標3  | 時代に合った地域をつくり、安全・安心に暮らせるまち        |
| 基本的方向2 | 誰もが健康で、いきいきと暮らすことのできる地域の実現       |
| 指標     | 小金井さくら体操の参加者数                    |
| 指標の説明  | ご当地介護予防体操「小金井さくら体操」自主グループ活動の参加者数 |
|        | 担当課 介護福祉課                        |

【重要業績評価指標(KPI)】

| 年度   | 目標   | 結果   | 評価 | 結果の説明  | 次年度に向けての課題・展望   | 委員評価取りまとめ  |
|------|------|------|----|--|---|--|
| 26年度 | 400人 |      |    |  |   |  |
| 27年度 | ↓    | 510人 | B  | 生活支援コーディネーターと連携することにより、介護予防に有効な通いの場の一つとして認識が広がった。のぼり旗を作成し、開催場所に掲示することで、実施場所と、体操自体のPRを行うことができた。さくら体操DVD24枚、セラバンド151本を有償配布し、継続的な活動に対する支援を行った。介護予防イベントを開催し、市民に対して体操を通して介護予防の普及啓発ができた。継続的に通う参加者が多い結果、高齢化が進む体操の参加者、リーダーとして関わるボランティアに対して定期的に、医学的根拠を持った関係者の関与が助言が必要になっている。  | 引き続き、地域の住民が主体となって運営する地域活動として拡大支援を推進する。体操の効果に加えて、介護予防に役立つ通いの場として普及啓発を行う。自主グループ参加者、介護予防ボランティアに対して、定期的にリハビリテーション専門職が関与し、介護予防の知識や地域活動についての助言指導を行う。  | さくら体操の取組自体を評価する。関係機関との連携を含め、継続した活動をしていく必要がある。  |
| 28年度 | ↓    | 774人 | A  | リハビリテーション専門職が定期的に体操の参加者、介護予防ボランティアの活動に関与し、介護予防の講義や活動に対しての指導助言を行うことにより、より効果のある介護予防の方法について参加者の認識が深まった。また、受診するほどではないが日常感じていた身体の不調を相談できる場としても活用されるようになった。リハビリテーション専門職と協力して年3回の介護予防イベントには、計529名の参加があった。体操参加者以外にも普及啓発を行うことができた。さくら体操DVD41枚、VHS1本、セラバンド151本を有償配布し、継続的な活動への支援を行った。数字の上では平成31年までの目標である700名を越えており、定期的にさくら体操を行うグループを更に増やす余地がある。また、市内では様々な介護予防の取り組みが行われており、活動の交流により市全体の介護予防への意識を高めしていく必要がある。 | 地域の住民が主体となって運営する地域活動として新しく立ち上げ支援を行うとともに、既存団体へ介護予防の活動を取り入れていただくよう働きかけを行う。リハビリテーション専門職の関与を有効活用し、高齢者対象のイベントなどにおいて介護予防の普及啓発を行う。相互の活動や市全体の介護予防の取り組みを向上させるため、介護予防に関連する様々な市民のグループとも交流し、連携する。 | 素晴らしい取組で目標を達成した努力を評価したい。今後より拡大していくためにも、ラジオ体操協会等との連携を図ってほしい。<br>この取組により改善された事例や効果等の具体例を示していただきたい。 |

|      |   |      |   |  |  |   |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |   |   |   |   |   |   |    |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|------|---|------|---|--|--|---|----|---|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|----|---|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|----|---|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|----|---|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|----|---|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|----|---|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|----|---|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|----|---|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|----|---|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|---|---|---|---|---|---|----|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|
| 29年度 | ↓ | 907人 | A | <p>包括支援センターの協力により、地域の住民が主体となって運営する自主グループが増え、市内46会場で体験が実施されるようになった。また、リハビリテーション専門職と協力した介護予防イベントも年5回に増加し、イベントには計1,829名の参加があり、体験参加者以外にも普及啓発できた。</p> | <p>さくら体操に参加したいと思っている住人が、希望の会場等に参加できるよう、地域包括支援センターと連携し調整していく。また、地域の住民が主体となった運営する地域活動として新しく立ち上げ、支援を行うとともに既存団体へ介護予防の活動を取り入れてもらえるよう働きかけを継続して行っていく。より多くの住民にさくら体操のことを知ってもらえるよう各種イベントを積極的に活用するとともに、周知方法も工夫していく。</p> | <p>目標人数を超えて、堅調に参加者数が増えており、取組が結果に繋がった素晴らしい成果である。増やしたイベントの効果も検証しながら、ジェイコム等地域情報ネットワークとの連携や周知への工夫にも取り組んでいきたい。</p>   |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |   |   |   |   |   |   |    |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 30年度 | ↓ | 950人 | A | <p>包括支援センターやリハビリテーション専門職と連携し、さくら体操を実施する会場や体験する機会の増加を図った結果、引き続き参加者の増加につなげることができた。</p>   | <p>事業の主な対象となる、要介護認定されていないいわゆる元気高齢者が集まるような場所などを見出し、体験への参加を促すような取組を図る。<br/>また、現在の参加者が継続して体操に参加できるよう、引き続き専門職などと協力し事業の実施に当たる。</p>  | <p>すばらしい取組であり、参加者が倍増になるようにしてほしい。また、より多くの視点を増やして、連携機関を増やしてほしい。</p>   |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |   |   |   |   |   |   |    |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 31年度 |   | 700人 |   |  |  | <table border="1"> <tr> <td>渡邊</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>小川</td> <td>△</td> <td></td> </tr> <tr> <td>松本</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>鴨下</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>橋田</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>本間</td> <td>△</td> <td></td> </tr> <tr> <td>山本</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>小宮</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>天野</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>7</td> <td>△</td> <td>2</td> <td>x</td> <td>0</td> <td colspan="14">合計</td> </tr> </table> | 渡邊 | ○ |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 小川 | △ |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 松本 | ○ |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 鴨下 | ○ |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 橋田 | ○ |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 本間 | △ |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 山本 | ○ |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 小宮 | ○ |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 天野 | ○ |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | ○ | 7 | △ | 2 | x | 0 | 合計 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 渡邊   | ○ |      |   |  |  |   |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |   |   |   |   |   |   |    |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 小川   | △ |      |   |  |  |   |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |   |   |   |   |   |   |    |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 松本   | ○ |      |   |  |  |   |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |   |   |   |   |   |   |    |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 鴨下   | ○ |      |   |  |  |   |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |   |   |   |   |   |   |    |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 橋田   | ○ |      |   |  |  |   |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |   |   |   |   |   |   |    |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 本間   | △ |      |   |  |  |   |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |   |   |   |   |   |   |    |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 山本   | ○ |      |   |  |  |   |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |   |   |   |   |   |   |    |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 小宮   | ○ |      |   |  |  |   |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |   |   |   |   |   |   |    |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 天野   | ○ |      |   |  |  |   |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |   |   |   |   |   |   |    |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| ○    | 7 | △    | 2 | x  | 0  | 合計  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |   |   |   |   |   |   |    |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |

まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価シート(取りまとめ)

【基本情報】

|        |   |     |
|--------|---|-----|
| 基本目標①  | 時代に合った地域をつくり、安全・安心に暮らせるまち   |     |
| 基本的方向② | 誰もが健康で、いきいきと暮らすことのできる地域の実現  |     |
| 指標     | 65歳健康寿命の延伸  | 担当課 |
| 指標の説明  | 65歳健康寿命(東京保健研究所全方式)とは、65歳の人が、何らかの障害のために要介護認定を受けるまでの状態を健康と考え、その障害のために要介護認定を受ける年齢を平均的に算出する。その延伸は、市民の健康増進の指標となる。65歳健康寿命(歳)＝65歳＋65歳平均自立期間(年) * 平均自立期間 |     |
|        |   | 健康課 |

【重要業績評価指標(KPI)】

| 目標                                 | 結果                         | 評価         | 結果の説明   | 次年度に向けての課題/展望   | 委員評価取りまとめ   |
|------------------------------------|----------------------------|------------|---|---|---|
| 26年度<br>男性<br>81.6歳<br>女性<br>82.5歳 |                            |            |   |   |   |
| 27年度<br>I                          | 男性<br>81.4歳<br>女性<br>82.6歳 | D<br><br>A | 特定健診については受診率はほぼ横ばいであったが、健康づくりフォローアップ指導教室については、開催日1日あたりの参加者数が増加しており、健康に関する正しい知識の普及啓発を図ることができた。また、糖尿病やメタボリックシンドローム予防のための教室開催後、復習会を実施し、生活習慣等の改善のための継続支援を行った。             | 引き続き、特定健診の検査値を基に、個別に健康づくりフォローアップ指導教室の案内を送付する等、市民が健康的な生活習慣を実践できるように工夫し、健康寿命の延伸を図りたい。   | 個人個人が自らの健康について意識できるように働きかけを行政はしていく必要がある。  |
| 28年度<br>I                          | 男性<br>81.4歳<br>女性<br>82.5歳 | D<br><br>C | 特定健診については引き続き案内送付・勧奨活動を行ったため、受診率は49.2%と前年並みを維持することができた。<br>また、健康づくりフォローアップ指導教室について、個別の講座は参加者が前年を下回ってしまったものもあったが、前年を上回る講座も複数あり、参加者総数は243名と健康に関する普及啓発、意識付けを浸透させることができた。 | 前年度に引き続き、特定健診の検査値を基に、個別に健康づくりフォローアップ指導教室の案内を送付していくほか、胃がん検診、肺がん検診、乳がん検診については平成29年度から年に2回、検診の受診勧奨送付を開始し、市民の健康への啓蒙活動、受診への動機付けを推進するとともに、市民の健康の保持・増進を図ってまいりたい。 | 「健康寿命の延伸」には様々な要素が関係するので、これを主軸としつつ、特定健診の検査値等を指標として取り組んでほしい。健康増進に取り組む地域団体のバックアップや、民間企業との連携にも取り組んでほしい。 |

|      |   |  |   |  |    |   |                               |  |  |  |  |  |  |  |    |   |        |  |  |  |  |  |  |  |    |   |                                     |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |                |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |   |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |                        |  |  |  |  |  |  |  |     |  |  |  |  |  |  |  |  |  |   |   |   |   |   |   |  |  |  |  |
|------|---|--|---|--|----|---|-------------------------------|--|--|--|--|--|--|--|----|---|--------|--|--|--|--|--|--|--|----|---|-------------------------------------|--|--|--|--|--|--|--|----|---|--|--|--|--|--|--|--|--|----|---|----------------|--|--|--|--|--|--|--|----|---|--|--|--|--|--|--|--|--|----|---|---|--|--|--|--|--|--|--|----|---|--|--|--|--|--|--|--|--|----|---|------------------------|--|--|--|--|--|--|--|-----|--|--|--|--|--|--|--|--|--|---|---|---|---|---|---|--|--|--|--|
| 29年度 | I | <p>D</p> <p>特定健診については引き続き案内送付・勧奨活動に注力したため、受診率は前年並みを維持することができた。</p> <p>また、健康づくりフォローアップ指導教室は、全体としては参加者が前年を下回ってしまいましたが、前年を上回る講座も複数あった。</p> <p>各種がん検診の受診者数は、前年度比微減になったものがあった一方、胃がん・肺がん・子宮がん・乳がん・大腸がんの全体の受診者数では前年度を上回る結果となり、健康に関する普及啓発、意識付けの浸透を進めることができた。</p>   | <p>A</p> <p>前年度に引き続き、特定健診の検査値を基に、個別に健康づくりフォローアップ指導教室の案内を送付していくほか、フォローアップ指導教室の内容・回数・時期等を見直し、参加者増となるように取り組む。</p> <p>胃がん検診、肺がん検診、乳がん検診については前年度同様、年に2回、検診の受診勧奨送付を実施するほか、市報等による市民への周知に努め、受診利便性の向上など、受診への動機付けと啓発活動を推進し、市民の健康の保持・増進を図ってまいりたい。</p>              | <p>多くの要素を含む指標であり、評価も難しいところであるが、健康寿命延伸に欠かせない受診への働きかけは、まだ改善の余地があるように思う。市内民間医療機関との連携や高頻度に検診することの重要性の啓発など、更なる工夫に期待したい。</p>   |    |   |                               |  |  |  |  |  |  |  |    |   |        |  |  |  |  |  |  |  |    |   |                                     |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |                |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |   |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |                        |  |  |  |  |  |  |  |     |  |  |  |  |  |  |  |  |  |   |   |   |   |   |   |  |  |  |  |
| 30年度 | I | <p>A</p> <p>特定健診については引き続き案内送付・勧奨活動に注力したため、受診率は前年同程度を維持することができた。</p> <p>健康づくりフォローアップ指導教室は、平成30年度から内容の一部を両親学級に移すなど見直しを行ったため、全体としては参加者が前年を下回ってしまいましたが、前年を上回る講座も複数あったほか、両親学級内での健康教育も好評を得られるなど、健康に関する普及啓発、意識付けの浸透を進めることができた。</p> <p>各種がん検診については、受診者数の増進を目指し、検診申込の利便性の向上や検診機会の拡大等に取り組んだものの、受診者数は前年度を若干下回る結果となった。</p> | <p>A</p> <p>前年度に引き続き、特定健診の検査値を基に、個別に健康づくりフォローアップ指導教室の案内を送付していくほか、フォローアップ指導教室の内容・回数・時期等を見直し、参加者増となるように取り組んでいく。</p> <p>5月の特定健診案内送付時に加え、9月の後期高齢者健診案内にもがん検診の案内を同封して、市のがん検診の周知・啓発活動を推進するほか、両親学級内にもがん検診の申込ハガキを同封することで申込の利便性を向上し、積極的に市民の健康の保持・増進を図ってまいりたい。</p> | <p>健康寿命を長くするた<br/>めにも実施の継続や他課<br/>の事業と連携するなど、<br/>更なる取組の強化を行っ<br/>ていきたい。</p>   |    |   |                               |  |  |  |  |  |  |  |    |   |        |  |  |  |  |  |  |  |    |   |                                     |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |                |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |   |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |                        |  |  |  |  |  |  |  |     |  |  |  |  |  |  |  |  |  |   |   |   |   |   |   |  |  |  |  |
| 31年度 | I |  |   | <table border="1"> <tr> <td>渡邊</td> <td>○</td> <td>健康寿命を長くする意味でもさらに取り組みを強化してほしい。</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>小川</td> <td>○</td> <td>実施の継続を</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>松本</td> <td>○</td> <td>数値を見る限り良好な成果といえる。(データの信頼度はどの程度なのか?)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>鴨下</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>橋田</td> <td>○</td> <td>健康寿命が延びるのは良いから</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>本間</td> <td>△</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>山本</td> <td>○</td> <td>目標自体は達成している。様々な取り組みの結果で実化する指標なので、他課の事業とも連携をしてほしい。</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>小宮</td> <td>△</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>天野</td> <td>○</td> <td>堅調に伸びている。このまま続けていただきたい</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="10" style="text-align: center;">合 計</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>7</td> <td>△</td> <td>2</td> <td>x</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> | 渡邊 | ○ | 健康寿命を長くする意味でもさらに取り組みを強化してほしい。 |  |  |  |  |  |  |  | 小川 | ○ | 実施の継続を |  |  |  |  |  |  |  | 松本 | ○ | 数値を見る限り良好な成果といえる。(データの信頼度はどの程度なのか?) |  |  |  |  |  |  |  | 鴨下 | ○ |  |  |  |  |  |  |  |  | 橋田 | ○ | 健康寿命が延びるのは良いから |  |  |  |  |  |  |  | 本間 | △ |  |  |  |  |  |  |  |  | 山本 | ○ | 目標自体は達成している。様々な取り組みの結果で実化する指標なので、他課の事業とも連携をしてほしい。 |  |  |  |  |  |  |  | 小宮 | △ |  |  |  |  |  |  |  |  | 天野 | ○ | 堅調に伸びている。このまま続けていただきたい |  |  |  |  |  |  |  | 合 計 |  |  |  |  |  |  |  |  |  | ○ | 7 | △ | 2 | x | 0 |  |  |  |  |
| 渡邊   | ○ | 健康寿命を長くする意味でもさらに取り組みを強化してほしい。  |   |  |    |   |                               |  |  |  |  |  |  |  |    |   |        |  |  |  |  |  |  |  |    |   |                                     |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |                |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |   |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |                        |  |  |  |  |  |  |  |     |  |  |  |  |  |  |  |  |  |   |   |   |   |   |   |  |  |  |  |
| 小川   | ○ | 実施の継続を   |   |  |    |   |                               |  |  |  |  |  |  |  |    |   |        |  |  |  |  |  |  |  |    |   |                                     |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |                |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |   |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |                        |  |  |  |  |  |  |  |     |  |  |  |  |  |  |  |  |  |   |   |   |   |   |   |  |  |  |  |
| 松本   | ○ | 数値を見る限り良好な成果といえる。(データの信頼度はどの程度なのか?)  |   |  |    |   |                               |  |  |  |  |  |  |  |    |   |        |  |  |  |  |  |  |  |    |   |                                     |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |                |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |   |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |                        |  |  |  |  |  |  |  |     |  |  |  |  |  |  |  |  |  |   |   |   |   |   |   |  |  |  |  |
| 鴨下   | ○ |  |   |  |    |   |                               |  |  |  |  |  |  |  |    |   |        |  |  |  |  |  |  |  |    |   |                                     |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |                |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |   |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |                        |  |  |  |  |  |  |  |     |  |  |  |  |  |  |  |  |  |   |   |   |   |   |   |  |  |  |  |
| 橋田   | ○ | 健康寿命が延びるのは良いから   |   |  |    |   |                               |  |  |  |  |  |  |  |    |   |        |  |  |  |  |  |  |  |    |   |                                     |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |                |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |   |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |                        |  |  |  |  |  |  |  |     |  |  |  |  |  |  |  |  |  |   |   |   |   |   |   |  |  |  |  |
| 本間   | △ |  |   |  |    |   |                               |  |  |  |  |  |  |  |    |   |        |  |  |  |  |  |  |  |    |   |                                     |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |                |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |   |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |                        |  |  |  |  |  |  |  |     |  |  |  |  |  |  |  |  |  |   |   |   |   |   |   |  |  |  |  |
| 山本   | ○ | 目標自体は達成している。様々な取り組みの結果で実化する指標なので、他課の事業とも連携をしてほしい。  |   |  |    |   |                               |  |  |  |  |  |  |  |    |   |        |  |  |  |  |  |  |  |    |   |                                     |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |                |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |   |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |                        |  |  |  |  |  |  |  |     |  |  |  |  |  |  |  |  |  |   |   |   |   |   |   |  |  |  |  |
| 小宮   | △ |  |   |  |    |   |                               |  |  |  |  |  |  |  |    |   |        |  |  |  |  |  |  |  |    |   |                                     |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |                |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |   |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |                        |  |  |  |  |  |  |  |     |  |  |  |  |  |  |  |  |  |   |   |   |   |   |   |  |  |  |  |
| 天野   | ○ | 堅調に伸びている。このまま続けていただきたい   |   |  |    |   |                               |  |  |  |  |  |  |  |    |   |        |  |  |  |  |  |  |  |    |   |                                     |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |                |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |   |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |                        |  |  |  |  |  |  |  |     |  |  |  |  |  |  |  |  |  |   |   |   |   |   |   |  |  |  |  |
| 合 計  |   |  |   |  |    |   |                               |  |  |  |  |  |  |  |    |   |        |  |  |  |  |  |  |  |    |   |                                     |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |                |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |   |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |                        |  |  |  |  |  |  |  |     |  |  |  |  |  |  |  |  |  |   |   |   |   |   |   |  |  |  |  |
| ○    | 7 | △  | 2   | x  | 0  |   |                               |  |  |  |  |  |  |  |    |   |        |  |  |  |  |  |  |  |    |   |                                     |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |                |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |   |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |   |                        |  |  |  |  |  |  |  |     |  |  |  |  |  |  |  |  |  |   |   |   |   |   |   |  |  |  |  |

まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価シート(取りまとめ)

|        |  |              |
|--------|--|--------------|
| 【基本情報】 | <p>本目標<br/>時代に合った地域をつくり、安全・安心に暮らせるまち</p> <p>本方針方向2<br/>誰もが健康で、いきいきと暮らすことのできる地域の実現</p> <p>推進<br/>スポーツ教室・スポーツ大会の参加者数</p> <p>推進の取組<br/>スポーツ教室・スポーツ大会の参加者数</p> | 担当課<br>生涯学習課 |
|--------|--|--------------|

| 目標              | 結果 | 評価 | 結果の説明  | 次年度に向けての課題・展望  | 委員評価取りまとめ   |
|-----------------|----|----|--|--|---|
| 26年度<br>15,394人 |    |    |  |  |   |
| 27年度<br>14,815人 | D  |    | <p>市民体育祭7,429人(7,817人)、シニアスポーツフェスティバル1,048人(1,053人)、市代表選手派遣408人(447人)、市民スポーツレクリエーション514人(444人)、第12回野川駅伝大会971人(985人)、スポーツ教室等1,170人(1,051人)、スポーツ個人利用開放3,275人(3,023人)<br/>※( )は平成26年度実績</p>   | <p>それぞれの競技特性やマクロ的現状(都内レベル)の把握と問題点の洗い出しを行い、関連団体とも協力し合いながら改善していく必要がある。</p>   | <p>スポーツ教室・スポーツ大会で、参加者数を増加させるためにどんな取組をしたのか整理する必要がある。また、スポーツはそもそも自主的に行うものであって、個人が安心してスポーツをできる環境であったり意義を理解してもらおうような企画も検討していきたい。</p>                    |
| 28年度<br>16,381人 | B  |    | <p>市民体育祭7,140人(7,429人)、シニアスポーツフェスティバル1,003人(1,048人)、市代表選手派遣467人(408人)、市民スポーツレクリエーション514人(514人)、第13回野川駅伝大会954人(971人)、スポーツ教室等2,022人(1,170人)、スポーツ個人利用開放3,680人(3,275人)、土曜スポーツクラブ637人(625人)<br/>※( )は平成27年度実績<br/>※( )は新規事業のアシスタント・ティーチヤー(984人)、ストレッチ子体操普及啓発(47人)を実施</p>  | <p>大会によっては参加人数の増減がある。それぞれの結果(人数)の理由を探り、関係団体と間で、諸事情の情報共有と問題点、改善策を明確にし、対応していく必要がある。<br/>教室開催後のアンケート分析及び申し込み方法を往復はがきからネットによる申し込みへの変換を行う予定である。</p>             | <p>結果として増加していることは評価できる。小金井市出身もしくは小金井市にゆかりのあるのスポーツ選手を招聘できないか。<br/>課題にあるように原因分析をしつかりと行い、魅力ある大会とし参加者の数増加に努められたい。<br/>オリンピック・パラリンピックに向けた機運醸成に期待したい。</p> |
| 29年度<br>16,380人 | B  |    | <p>市民体育祭7,078人(7,140人)、シニアスポーツフェスティバル961人(1,003人)、市代表選手派遣447人(467人)、市民スポーツレクリエーション477人(458人)、第14回野川駅伝大会930人(954人)、スポーツ教室等2,058人(2,022人)、スポーツ個人利用開放3,637人(3,680人)、土曜スポーツクラブ453人(637人)<br/>※( )は平成28年度実績<br/>東京2020オリンピック・パラリンピック推進事業として、車いすテニス普及啓発事業72人、パラスポーツ・ワーキング普及啓発事業128人、走り方教室「君の走りが進化する」195人を実施。</p> | <p>土曜スポーツクラブの実施日数の減少により、参加者数が減少したため、次年度以降は実施日数の確保に努める。大会・教室については現状分析を行い、魅力ある事業とし、参加者数の増加に努める。東京2020オリンピック・パラリンピック推進については、今後指針を設ける等で機運醸成に努め、推進事業を行っていく。</p> | <p>目標人数に達していないが、2020年の東京オリンピック・パラリンピックを一つのきっかけと捉え、他市と連携したり、候補選手を招へいするなど、新たな展開を検討してもらいたい。また、参加者が減少しているイベントについては、その原因分析や対策を講じてもらいたい。</p>              |

| 年度   | 数       | 内容   | 実施状況   | 取組  | 効果  | 課題  |   |
|------|---------|--|--|---|---|---|---|
| 30年度 | 1       | 市民体育祭6,688人(7,078人)、シニアスポーツフェスティバル906人(961人)、市代表選手派遣367人(447人)、市民スポーツレクリエーション363人(477人)、第15回野川駅伝大会961人(930人)、スポーツ教室等1,884人(2,058人)、スポーツ個人利用開放校3,393人(3,637人)、土曜スポーツクラブ405人(453人)<br>※( )は平成29年度実績<br>東京2020オリンピック・パラリンピック推進事業として、科学の祭典でスポーツ科学の講演会・義足体験会(575人)、市民まつりでパラリンピック競技体験イベント(921人)、走り方教室「君の走りが進化する」(100人)を実施。市制施行60周年記念事業として、60イニングテイルボール大会(277人)、特別巡回ラジオ体操・みんなの体操会(約2,850人)、小学生ドッチボール大会(196人(見学者を除く。))を実施。 | 参加者が減少している教室、大会等については結果の分析を行い、改善策の検討等を行う必要がある。<br>東京2020オリンピック・パラリンピック推進については開催まで2年を切った中、大会1年前のテストイベントや10月に開催予定のイベント等で更なる機運醸成を図っていく。 | 参加者の増加は評価できるが、60周年事業による増加であるため、今後の取り組みが重要となる。 | 参加者の増加は評価できるが、60周年事業による増加であるため、今後の取り組みが重要となる。 | 参加者の増加は評価できるが、60周年事業による増加であるため、今後の取り組みが重要となる。 | 参加者の増加は評価できるが、60周年事業による増加であるため、今後の取り組みが重要となる。 |
| 31年度 | 20,060人 |  |  |   |   |   |   |
| 小川   | △       | 種目等を見直し、パラリンピックを目指す人も参加できるようにしては、  |  |   |   |   |   |
| 松本   | ○       | 施策43のスポーツレクリエーション活動の支援にある主な取り組みも充実を図りたい。   |  |   |   |   |   |
| 鴨下   | △       | 努力を評価  |  |   |   |   |   |
| 橋田   | ○       | 内容の再検討など参加者数を増やす企画を期待する  |  |   |   |   |   |
| 本間   | △       | 大きなイベントを利用すればもっと増えるはず  |  |   |   |   |   |
| 山本   | ○       | 参加者の増加は評価できるが、60周年事業による増加であるため、今後の取り組みが重要となる。  |  |   |   |   |   |
| 小宮   | △       | 2020東京オリンピックの気運が醸成されるよう引き続き取り組んでいきたい   |  |   |   |   |   |
| 天野   | △       |  |  |   |   |   |   |
| 合 計  |         |  |  |   |   |   |   |
| ○    | 3       | △  | △  | △   | ×   | 0   |   |

まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価シート(取りまとめ)

【基本情報】

|       |   |
|-------|---|
| 基本目標3 | 時代に合った地域をつくり、安全・安心に暮らせるまち               |
| 基本方向3 | 誰もが健康で、いきいきと暮らすことのできる地域の実現              |
| 指標    | 高齢者いきいき活動講座参加率                          |
| 指標の説明 | 高齢者いきいき活動講座延べ参加申込者数のうち、実際に講座に参加した者の延べ人数 |
| 担当課   | 介護福祉課                                   |

【重要業績評価指標(KPI)】

| 目標   | 結果         | 評価 | 結果の説明   | 次年度向けの課題・展望   | 委員評価取りまとめ   |
|------|------------|----|---|---|---|
| 26年度 | 81.0%      |    |   |   |   |
| 27年度 | ↓<br>83.0% | B  | 講座内容変更等により参加人数の総数は減少したが、参加率は昨年度より増加(81%→83%)し、いきいき活動推進員の創意工夫により、ほぼ計画どおりに実施された。成果数には出てこないが、音楽講座や俳句講座について人気が高く継続して講座を開催している。                            | 今後本市が委嘱した高齢者いきいき活動員の自主的な企画立案により、高齢者を対象とした講座を開催し、高齢者の生きがいへ繋げていく。平成28年度から、活動拠点となっていた福祉会館が使用できなくなり、活動の場の十分な確保が課題となっているため、いきいき活動員や市の創意工夫により、今後高齢者学習等の講座の開催を通じて、高齢者の生きがいを福祉面からのサポートする。                   | 高齢者の生きがい・やりがい作りの観点から、この取組は評価できる。内容・テーマが重要になってくるので、参加率だけではなく利用者の満足度の充実も図る必要がある。                                |
| 28年度 | ↓<br>76.0% | D  | 活動拠点となる福祉会館の閉館等により参加人数の総数が減少し、参加率も昨年度より減少(83%→76%)したが、いきいき活動推進員の創意工夫により、ほぼ計画どおりに実施された。例年同様音楽講座や俳句講座について人気があり、また、昨今話題の脳科学に関する講座が好評を得ており、充実した講座を開催している。 | 今後本市が委嘱した高齢者いきいき活動員の自主的な企画立案により、高齢者を対象とした講座を開催し、高齢者の生きがいへ繋げていく。平成28年度から、活動拠点となっていた福祉会館が使用できなくなり、活動の場の十分な確保が課題となっているため、その対応として、活動場所以に使用できる施設の行政使用等により確保に努め、今後高齢者学習等の講座の開催を通じて、高齢者の生きがいを福祉面からのサポートする。 | 高齢者いきいき活動講座は重要なイベントであり、高齢者のニーズの変化に対応して、利用者の満足度の充実を目指し、取り組んで欲しい。特定の利用者に偏ることなく、多くの高齢者が気軽に参加いただけるように取り組んでいただきたい。 |

|      |   |       |   |   |  |   |
|------|---|-------|---|---|--|---|
| 29年度 | 1 | 78.0% | D | <p>福祉会館の閉館等の要因により、昨年度においては参加率低下に繋がった。しかし、29年度においては、鉄道ファン入門講座、歌唱講座、椅子を使ったことでのヨガ等、魅力ある講座内容と8%)に転じた。今後も参加者のニーズを的確に捉え、高齢者が充実した日常生活を送ることができるよう、講座内容の充実努める。</p> <p>【平成29年度実績】<br/>開催講座数:60回、募集人数:2,244人、延べ参加人数:1,755人</p> | <p>福祉会館閉鎖により、活動場所の十分な確保が課題となっている。その対応として、活動場所を使用できる施設の行政使用等により確保に努め、今後も高齢者学習等の講座の開催を通じて、高齢者の生きがいを福祉面からサポートする。</p> <p>また、市が委嘱した高齢者いきいき活動員の自主的な企画立案により、高齢者のニーズを捉えた講座を開催し、高齢者の生きがいへ繋げていく。</p> | <p>D評価ではあるが、場所の制約がある中で、講座内容の見直しによる参加率アップは、その努力を評価したい。市民ニーズを捉えつつ、座学以外の取組や他市との共催など、内容の工夫に努めていただきたい。</p>   |
| 30年度 | 1 | 94.2% | B | <p>市報への掲載に加え、市ホームページへの掲載、チラシの配布をすることで、広報、周知を図った。また、俳句、介護落語、ウクレレ、健康マージャン等、楽しみながら五感を鍛えることのできる魅力ある講座を開催。参加率の向上に繋がった。</p> <p>【平成30年度実績】<br/>開催講座数:59回、募集人数:1,954人<br/>延べ参加人数:1,840人</p>                                 | <p>次年度以降も参加率向上に繋がるよう、活動推進員による講座等の企画・運営に注力していく。</p>   | <p>カリキュラムは時代に応じて見直すことが重要。参加者の経歴(若い時代の時代背景)を考慮して検討していかねばならない。</p> <p>施策50にある主な取り組みの「活躍の場の拡充・世代間交流の促進」の考慮も</p> <p>参加率で測ることの意味が不明。それだけ生きがいにしていないからではないから、生きがいと気負うことは不要。(予定の)運動能力に若干の差があっても、楽しく参加できる企画であればいいのではないかと、平日開催への参加が可能な若年の人(門戸を開いてもいいのではないかと)を老人だけが集まるより参加しやすくなると思う。</p> <p>参加率がアップし、結果が出たから</p> <p>参加率ならば、異数としても増加していることも評価できる。</p> |
| 31年度 |   | 100%  |   |   |  | <p>参加率並びに異数が増加していることを評価すること</p> <p>意見と参加率で測ること</p> <p>の意味が不明であり、それだけ生きがいにしていないから、気負うことと気負うことは不要という意見もある。</p>  |

合計

|   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|
| 0 | 4 | △ | 5 | x | 0 |
|---|---|---|---|---|---|

まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価シート(取りまとめ)

【基本情報】

|       |                           |       |
|-------|---------------------------|-------|
| 基本目標  | 時代に合った地域をつくり、安全・安心に暮らせるまち |       |
| 基本的方向 | 生活を豊かにする地域のふれあい、つながりの醸成   |       |
| 指標    | ボランティアセミナー参加者数            | 生涯学習課 |
| 指標の説明 | ボランティアセミナーに参加した人数         |       |

【重要業績評価指標(KPI)】

|      | 目標  | 結果   | 評価 | 結果の説明  | 次年度に向けての課題・留意  | 委員評価取りまとめ  |
|------|-----|------|----|--|--|--|
| 26年度 | 76人 |      |    |  |  |  |
| 27年度 | ↓   | 191人 | A  | セミナーの企画段階から事業委託先と内容を精査し、魅力のある講座を実現するために調整をしいた。その結果、前年度に比べ約2.5倍の参加者増となり、平成31年度目標を達成した。  | 参加者の内訳を見ると、40代の女性が多い。今後はもっと幅広い世代や男性、新規受講者の参加が増えるよう、内容、開催時期、開催時間を調整し、地域総掛かりで子育てに取り組む環境を作っていく。               | ボランティアセミナー参加者が平成26年度の倍以上となり、その点は評価できる。今回は40代女性の参加者が多かったが、今後は多様な世代を取り込んでいけるような取組が求められている。   |
| 28年度 | ↓   | 189人 | A  | セミナーの企画段階から委託先と内容を精査し、魅力のある講座を実現するために調整をした。その結果、参加者数は前年度とほぼ同程度となり、平成31年度目標を大幅に上回った。参加者の内訳は、40代が55%、女性が96%と、前年度とほぼ同じ結果となった。                             | 受講者が新たにボランティアとして登録してもらえよう、受講者に個別連絡をする等、ボランティア登録者数を増やすための取組を行ったが、継続して行っていきたい。                               | セミナー参加者数が目標達成していることは評価できる。「PDCAを回す」観点からは、引き続き参加者数の増加を目指し、取り組んでいただきたい。セミナー参加後の各人の動きはどうなっているか。ボランティアに参加しているのか。継続可能なボランティア活動のあり方を考えていただきたい。 |
| 29年度 | ↓   | 139人 | B  | セミナーの企画段階から委託先と内容を精査し、魅力のある講座を実現するために調整をした。参加者数は2年連続で前年度を下回っており、平成31年度目標も下回ってしまったため、より多くの方に参加していただける内容を企画していく。参加者の内訳は、40代が52%、女性が100%と、前年度とほぼ同じ結果となった。 | 過去の実績等から受講者のニーズに沿った内容の講座を企画し、より多くの方に受講していただけるような魅力のある講座にしていきたい。また受講者が新たにボランティアとして登録してもらえよう取組を、継続して行っていきたい。 | 参加者数が漸減しており残念である。NPO等との連携を検討したり、学校や地域団体へ広報協力を仰ぐなど、他団体との取組も今後検討していただきたい。  |



まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価シート(取りまとめ)

【基本情報】

|       |                           |     |
|-------|---------------------------|-----|
| 基本情報  | 時代に合った地域をつくり、安全・安心に暮らせるまち |     |
| 基本方針  | 生活を豊かにする地域のふれあい、つながりの醸成   |     |
| 目標    | 図書館における住民1人当たり図書貸出冊数      | 図書館 |
| 指標の説明 | 図書貸出総冊数を小金井市人口数で除した数字     |     |

【重要業績評価指標(KPI)】

| 年度   | 目標   | 結果   | 評価 | 結果の説明  | 文年度に向けての課題・見直し  | 委員評価取りまとめ  |
|------|------|------|----|--|---|--|
| 26年度 | 8.1冊 |      |    |  |   |  |
| 27年度 | ↓    | 8.0冊 | D  | 平成27年5月に図書館システムの更新作業による臨時休館期間もあり、平成27年度は伸び悩み結果となった。  | 現状、小金井市の図書館は、利用者・貸出冊数の制限を設けず、図書館本館で毎週水曜日～金曜日の夜間開館のサービスを行っていることについては、利用者のニーズに沿ったサービスを行っているとの評価できる。平成27年8月に図書館東分室の委託運営開始もあり、今後は時代に沿ったサービスの見直しを行うことが必要である。   | 休館期間があつたにもかかわらず貸出冊数が高い数値となつていると評価する意見と、貸出冊数増加が権記目標の実現につなげるイメージが無いという意見があつた。今後は時代の変化に対応した電子媒体で読める書籍の対応を、費用対効果の観点も含めて検討していく必要がある。        |
| 28年度 | ↓    | 8.0冊 | D  | 図書貸出総冊数は27年度の941,853冊から28年度の951,838冊と若干伸びたが、人口が117,671人(平成27年4月1日現在)から118,346人(平成28年4月1日現在)の増加もあり、住民1人当たり図書貸出冊数は27年度とほぼ同じ結果となった。<br>なお、昨年度の課題・展望の中の「サービスの見直し」については、昨年10月に図書館協議会へ「小金井市の図書館の在り方について」を諮問し、検討協議いただいた段階である。 | 平成26年4月に貫井北分室、平成27年8月に東分室と順次委託を進めてきた。図書館本館については、施設全般の老朽化が顕著であり、外壁、空調設備、電動書架の改修等や中央図書館の整備も検討する必要がある。また、住民1人あたりの貸出冊数も伸び悩んでいるので、今後の図書館運営の在り方も含めて検討する必要がある。<br>なお、平成29年度に休館を伴う空調設備の改修工事を予定しているが、休館対応として別館を曜日により新聞、雑誌等の閲覧場所として開放したり、図書館関係団体の会議等の場として利用いただく予定である。 | 本を読むということが、情報インフラの発展に伴い急激に変化しつつある。多くの若者は電子情報や書籍で読書をしている。この現状を踏まえればむしろ冊数が大きく変動していないことは評価できる。図書館の在り方とちわれない、新たな取組を検討してみようか。(岩手県 紫波町 図書館等) |
| 29年度 | ↓    | 7.6冊 | D  | 平成29年9～12月の間、図書館本館において空調設備改修工事のための長期臨時休館期間があり、平成29年度は数字を落とす結果となった。   | 平成29年度末に、図書館協議会より答申「小金井の図書館の在り方について」を受けた。それを受けて、本年度は図書館運営方針の改訂を行い、図書館の今後の在り方について平成32年度末までの中期的な方針を示す予定である。<br>また、平成30年度は本館の階段施設の改修工事を予定しているが、それに伴う休館は行わない予定である。  | 図書館に求められる機能は多く、設備・運用面も改善が求められているところであり、答申を受けて今後どのような検討が進むのか期待したい。  |



まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価シート(取りまとめ)

【基本情報】

|  |                           |     |
|--|---------------------------|-----|
| 基本目標3  | 時代に合った地域をつくり、安全・安心に暮らせるまち |     |
| 基本的方向性   | 生活を豊かにする地域のふれあい、つながりの醸成   |     |
| 指標   | 指標                        | 担当課 |
| 指標の説明  | 公民館の平均稼働率                 | 公民館 |
| 公民館各館の利用時間数から、利用可能時間数を割って各館稼働率を算出し、各館稼働率の合計を公民館数で割ったものを平均稼働率とする。 |                           |     |

【重要業績評価指標(KPI)】

| 目標   | 結果    | 評価 | 結果の説明   | 次年度に向けた課題・展望   | 委員評価取りまとめ  |
|------|-------|----|---|--|--|
| 26年度 | 57.3% |    |   |  |  |
| 27年度 | 58.6% | B  | NPO法人の専門的なスタッフにより若者コーナーを中心に若年層向けの事業を展開し、自立的、継続的な利用を促すことで、新しい利用者の発掘ができた。また、ビブリオバトル、百人一首大会、読み聞かせ講座等、図書館との連携による新たな発想の事業も充実し、ツイッターによる講座の案内により、新たな利用者也増えてきている。   | 員北分館は、NPO法人による事業運営により平成26年4月に開館した。市民協働の新しい形態での運営が順調に軌道に乗るよう必要な支援を行い、多くの人に利用していただき、市民の憩いの場として、生涯学習の拠点として、より一層満足度の高い社会教育施設となることを目指す。                                 | 施設・設備の老朽化に対応しつつ、これまでの稼働率を維持しながら公民館活動の質を保ちたい。<br>一層満足度の高い社会教育施設とするために、利用者の内訳(新しい利用者の割合の変化)は継続して確認する必要がある。 |
| 28年度 | 63.0% | B  | 平成26年4月に員北分館、その後平成27年8月に東分館がNPO法人に委託された。当該法人の専門的なスタッフにより若者コーナーを中心に若年層向けの事業を展開し、自立的、継続的な利用を促すことで、新しい利用者の発掘ができた。また、ビブリオバトル、百人一首大会、読み聞かせ講座等、図書館との連携による新たな発想の事業も充実し、ツイッターによる講座の案内により、新たな利用者也増えてきている。<br>直営公民館においては、パーテーションや照明設備の修繕を行うことにより、市民が快適に利用できる施設になるような取組を行った。 | 市民協働の新しい形態での運営が順調に軌道に乗るよう必要な支援を行い、多くの人に利用していただき、市民の憩いの場として、生涯学習の拠点として、より一層満足度の高い社会教育施設となることを目指す。<br>平成29年度は、生活日本語教室の20周年であるため、記念事業への支援を行う。夜間の時間帯の利用拡大に向けた施策が必要である。 | NPO法人委託により若い世代のニーズを捉えて稼働率アップに繋がっていることは評価できる。利用者の固定化に配慮しつつ、引き続き市民活動支援と地域性にあった取組を実施していただきたい。               |

| 29年度 | I | 63.8%   | <p>NPO法人に委託された貫井北分館及び東分館がNPO法人の専門的なスタッフにより若者コーナーを中心に若年層向けの事業を展開し、自立的、連続的な利用を促すことで、新しい利用者の発掘ができた。</p> <p>直営公民館においては、引き続き照明設備や空調設備の修繕を行うことにより、市民が快適に利用できる施設になるような取組を行った。生活日本語教室の20周年記念事業を行った。</p> | <p>市民協働の新しい形態での運営が順調に軌道に乗るよう必要な支援を行い、多くの人に利用していただき、市民の憩いの場として生涯学習の拠点となることを目指す。</p> <p>夜間の時間帯の利用拡大に向けた施策が必要である。</p> | <p>NPOや若者のためだけでなく、幅広い市民が活用できる施設となるよう、更に魅力的な事業を検討していただきたい。加えて、市民協働による取組を積極的に進め、稼働率の向上に努めていただきたい。</p>   |   |   |             |   |   |   |   |   |   |    |   |                        |  |  |  |  |  |  |    |   |                   |  |  |  |  |  |  |    |   |   |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |    |   |                      |  |  |  |  |  |  |    |  |  |  |  |  |  |  |  |   |   |   |   |   |   |  |  |  |
|------|---|---|---|--|---|---|---|-------------|---|---|---|---|---|---|----|---|------------------------|--|--|--|--|--|--|----|---|-------------------|--|--|--|--|--|--|----|---|---|--|--|--|--|--|--|----|---|--|--|--|--|--|--|--|----|---|--|--|--|--|--|--|--|----|---|--|--|--|--|--|--|--|----|---|--|--|--|--|--|--|--|----|---|--|--|--|--|--|--|--|----|---|----------------------|--|--|--|--|--|--|----|--|--|--|--|--|--|--|--|---|---|---|---|---|---|--|--|--|
| 30年度 | I | 63.4%   | <p>NPO法人に委託された貫井北分館及び東分館の専門的なスタッフによるユニークな事業運営により、若年層の利用者を固定化することができた。他の公民館においても、そのような取り組みが奏功し、新たな利用者層の開拓につながっている。</p>   | <p>今後策定する(仮称)小金井市公民館の中長期計画を踏まえつつ、多くの人に利用していただき、市民の憩いの場としてより一層満足度の高い生涯学習・社会教育活動の場となることを目指す。</p>                     | <p>展望は妥当だが、市民協働・公民連携の視点が、新たな利用者が増えるようにコンテンツの検討や建物の充実を期待する。</p>  |   |   |             |   |   |   |   |   |   |    |   |                        |  |  |  |  |  |  |    |   |                   |  |  |  |  |  |  |    |   |   |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |    |   |                      |  |  |  |  |  |  |    |  |  |  |  |  |  |  |  |   |   |   |   |   |   |  |  |  |
| 31年度 | I | 67.3%   |   |  | <table border="1"> <thead> <tr> <th>区</th> <th>Δ</th> <th>展望は妥当。具体策は？</th> <th>0</th> <th>1</th> <th>Δ</th> <th>8</th> <th>x</th> <th>0</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>渡邊</td> <td>Δ</td> <td>市民協働・公民連携の視点からの充実を希える。</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>小川</td> <td>Δ</td> <td>それぞれに工夫されていることを評価</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>松本</td> <td>○</td> <td>数値としては目標を下回ったため、今度も新たな利用者が増えるようにコンテンツの検討や建物の充実を期待する</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>鴨下</td> <td>Δ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>橋田</td> <td>Δ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>本間</td> <td>Δ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>山本</td> <td>Δ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>小宮</td> <td>Δ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>天野</td> <td>Δ</td> <td>新たな利用者層の定着にも力を入れてほしい</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="9" style="text-align: center;">合計</td> </tr> <tr> <td>0</td> <td>1</td> <td>Δ</td> <td>8</td> <td>x</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 区 | Δ | 展望は妥当。具体策は？ | 0 | 1 | Δ | 8 | x | 0 | 渡邊 | Δ | 市民協働・公民連携の視点からの充実を希える。 |  |  |  |  |  |  | 小川 | Δ | それぞれに工夫されていることを評価 |  |  |  |  |  |  | 松本 | ○ | 数値としては目標を下回ったため、今度も新たな利用者が増えるようにコンテンツの検討や建物の充実を期待する |  |  |  |  |  |  | 鴨下 | Δ |  |  |  |  |  |  |  | 橋田 | Δ |  |  |  |  |  |  |  | 本間 | Δ |  |  |  |  |  |  |  | 山本 | Δ |  |  |  |  |  |  |  | 小宮 | Δ |  |  |  |  |  |  |  | 天野 | Δ | 新たな利用者層の定着にも力を入れてほしい |  |  |  |  |  |  | 合計 |  |  |  |  |  |  |  |  | 0 | 1 | Δ | 8 | x | 0 |  |  |  |
| 区    | Δ | 展望は妥当。具体策は？   | 0   | 1  | Δ   | 8 | x | 0           |   |   |   |   |   |   |    |   |                        |  |  |  |  |  |  |    |   |                   |  |  |  |  |  |  |    |   |   |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |    |   |                      |  |  |  |  |  |  |    |  |  |  |  |  |  |  |  |   |   |   |   |   |   |  |  |  |
| 渡邊   | Δ | 市民協働・公民連携の視点からの充実を希える。                              |   |  |   |   |   |             |   |   |   |   |   |   |    |   |                        |  |  |  |  |  |  |    |   |                   |  |  |  |  |  |  |    |   |   |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |    |   |                      |  |  |  |  |  |  |    |  |  |  |  |  |  |  |  |   |   |   |   |   |   |  |  |  |
| 小川   | Δ | それぞれに工夫されていることを評価                                   |   |  |   |   |   |             |   |   |   |   |   |   |    |   |                        |  |  |  |  |  |  |    |   |                   |  |  |  |  |  |  |    |   |   |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |    |   |                      |  |  |  |  |  |  |    |  |  |  |  |  |  |  |  |   |   |   |   |   |   |  |  |  |
| 松本   | ○ | 数値としては目標を下回ったため、今度も新たな利用者が増えるようにコンテンツの検討や建物の充実を期待する |   |  |   |   |   |             |   |   |   |   |   |   |    |   |                        |  |  |  |  |  |  |    |   |                   |  |  |  |  |  |  |    |   |   |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |    |   |                      |  |  |  |  |  |  |    |  |  |  |  |  |  |  |  |   |   |   |   |   |   |  |  |  |
| 鴨下   | Δ |   |   |  |   |   |   |             |   |   |   |   |   |   |    |   |                        |  |  |  |  |  |  |    |   |                   |  |  |  |  |  |  |    |   |   |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |    |   |                      |  |  |  |  |  |  |    |  |  |  |  |  |  |  |  |   |   |   |   |   |   |  |  |  |
| 橋田   | Δ |   |   |  |   |   |   |             |   |   |   |   |   |   |    |   |                        |  |  |  |  |  |  |    |   |                   |  |  |  |  |  |  |    |   |   |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |    |   |                      |  |  |  |  |  |  |    |  |  |  |  |  |  |  |  |   |   |   |   |   |   |  |  |  |
| 本間   | Δ |   |   |  |   |   |   |             |   |   |   |   |   |   |    |   |                        |  |  |  |  |  |  |    |   |                   |  |  |  |  |  |  |    |   |   |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |    |   |                      |  |  |  |  |  |  |    |  |  |  |  |  |  |  |  |   |   |   |   |   |   |  |  |  |
| 山本   | Δ |   |   |  |   |   |   |             |   |   |   |   |   |   |    |   |                        |  |  |  |  |  |  |    |   |                   |  |  |  |  |  |  |    |   |   |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |    |   |                      |  |  |  |  |  |  |    |  |  |  |  |  |  |  |  |   |   |   |   |   |   |  |  |  |
| 小宮   | Δ |   |   |  |   |   |   |             |   |   |   |   |   |   |    |   |                        |  |  |  |  |  |  |    |   |                   |  |  |  |  |  |  |    |   |   |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |    |   |                      |  |  |  |  |  |  |    |  |  |  |  |  |  |  |  |   |   |   |   |   |   |  |  |  |
| 天野   | Δ | 新たな利用者層の定着にも力を入れてほしい                                |   |  |   |   |   |             |   |   |   |   |   |   |    |   |                        |  |  |  |  |  |  |    |   |                   |  |  |  |  |  |  |    |   |   |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |    |   |                      |  |  |  |  |  |  |    |  |  |  |  |  |  |  |  |   |   |   |   |   |   |  |  |  |
| 合計   |   |   |   |  |   |   |   |             |   |   |   |   |   |   |    |   |                        |  |  |  |  |  |  |    |   |                   |  |  |  |  |  |  |    |   |   |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |    |   |                      |  |  |  |  |  |  |    |  |  |  |  |  |  |  |  |   |   |   |   |   |   |  |  |  |
| 0    | 1 | Δ   | 8   | x  | 0   |   |   |             |   |   |   |   |   |   |    |   |                        |  |  |  |  |  |  |    |   |                   |  |  |  |  |  |  |    |   |   |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |    |   |  |  |  |  |  |  |  |    |   |                      |  |  |  |  |  |  |    |  |  |  |  |  |  |  |  |   |   |   |   |   |   |  |  |  |

## 意見・提案シート

◆小金井市まち・ひと・しごと創生総合戦略等推進委員会の検討内容について御意見・御提案がありましたら、以下に御記入の上、企画政策課へ御提出ください。次回開催の1週間前に届いたものは、会議で資料として配布します。

目指すべき小金井市のイメージの内容が、委員長と副委員長  
の案ばかりなのが気になりました。他の委員さんの意見は入って  
いるのでしょうか。

委員の方が発言していたように、中身として漠然としており  
根拠や実例、背景がよく分らない。無難なキーワード  
ばかりで小金井らしさが感じられない。意見書として、  
キーワードよりは、こういった背景が好事も資料としてまとめ  
今後の計画に生かした方が良いのではないのでしょうか？  
意見のとりまとめは事務局がもう少し各委員の意向を集めつつ、まとめ  
について主導し、まとめていければ良いかと思っております。  
7-730770の内容も資料でつけては？

提出日 2019年2月14日

氏名 諏訪 千穂

(送付先)

小金井市企画財政部企画政策課

〒184-8504 小金井市本町6-6-3 連絡先：042-387-9800

FAX：042-387-1224 E-mail：s010199@koganei-shi.jp

※原文のまま配布しますので、氏名についても公開  
の対象となります。

※公序良俗に反する内容や個人情報に関する内容  
等の場合、配布しません。